

井原健登くんのお母様

1. 結果

1月10日	栄東	×不合格
1月16日	栄東	○合格
2月1日	武蔵	×不合格
2月2日	城北	○合格
2月3日	成城	受験せず
2月4日	芝	○合格 ※進学

2. 性格など

優しくて、繊細。負けず嫌い、生真面目。メリハリを持たせ、休憩時間や家族の時間を持てるようにしないと、精神的に追い詰められ、泣きだすなど不安定になるので気を付けていたが、私が効果的に動けない時も多々あり。最後まで勉強は楽しくならなかったが、隣に座ってあげると勉強が捗ったので、6年の夏休み頃からはなるべく隣に座り一緒に勉強することを心がける。最後の一ヶ月は疲労困憊の母を励ましてくれ、成長を感じる。

3. 志望校選び/過去問取り組み

①第一志望、武蔵

自由な校風、通学のしやすさが魅力。

しかし、御三家であり、合格することは並大抵のことではないと思っていたので、学校見学に行き、唯一本人が行きたいと言った芝と悩む。7月の面談にて相談し、武蔵をチャレンジできる範囲にはおり、芝に変更するにも11月くらいでよいとのアドバイス。本人にも確認し、まずは入試演習を受けてみて考えることにする。9月10月入試演習7割程度合格のため武蔵でがんばってみることとなる。しかし11月から不合格が続く様になる。12月、かなり不安になり、芝への第一志望変更が頭をよぎるも、今更の変更は健登を混乱させるだけと思い留まる。どんな結果でも受け止める気持ちで進もうと心に決める。

過去問10年2巡。2巡目、ようやくここでやっと何が足りないのか見えてくる。ダンディ先生、ラクダ先生、プーサン先生にも添削、アドバイスしていただき、かたちになってきたと感じる。残り2週間弱を残して終了。入試演習に関しては時間がなく、算数15回、国語3回、理社3回解き直し、それ以外の回については要素を意識して解答を確認。

②芝

上記、唯一本人が行きたいと言った学校。自由な校風と先生方の楽しくしようという熱意の伝わってくるところが魅力。通学時間や始業開始が早い事がネック。我が家からだとも6時半過ぎには出発（がんばります…笑）これだけ行きたいと思っていたのにも関わらず、武蔵の対策に時間を要し、11月に1年分の過去問しか取り組めていなかった。

③城北

武蔵の結果次第では、4日に芝をチャレンジするためにも合格する必要がある。2021年の過去問算数が難しく、解いている最中にパニックになり泣き出す。絶対合格しなければならないというプレッシャーがかなりかかっていたことを知る。結果的に総合点では合格最低点以上を取れており、算数の難しい年でもあったので、受験本番で途中で躓いてしまっても最後の理科まで平常心で取り組む必要があることを本人と確認できてよかった。

過去問、12月までに5年分。先生のアドバイスで、算数の間違った問題のみ2巡目。その後、栄東不合格を受けて、国語以外の2巡目に取り組むようにアドバイスあり。2024年問題に取り組んだところ、かなりの点数を取れていたため、私の判断でその他の年は2巡目を行わず。その代わり理社に関しては間違えた問題と関連事項を私がノートにまとめて復習できる様にした。

④栄東

埼玉受験に関しては、本人の体力があまりないこともあり、母親としては少し悩んでいたが、本人が2月の本番までに経験したいとの意思を明確に示したので受験。年末年始の休みに1年分過去問に取り組む。その他学校が提示してくれている出題範囲を中心に確認する。受験2回目の前日は再度出題範囲を確認。

⑤成城

受験の前週日曜日に1年分取り組む。

4. 過去問について反省、感想

- ・秋の過去問取り組みが遅すぎた。

9、10、11、12月過去問伴走していただくため、週1で個別受講開始。質問がゆっくりできる場所ができ、親子共に安心（T先生ありがとうございました!!）でとても良かったのだが、塾のない平日が一日減ってしまうため結果的に全体的に遅れが生じ、1月がかなりタイトになってしまった。早め早めの対策をお勧めします。

・早々に添削や足りていない部分のアドバイスを受けるべき

過去問対策が遅くなったため、結果的に受験3週間前、2週間前などに入試演習担当の先生にアドバイスを求めることになってしまった。その後の伸びは凄かったのだと一ヶ月早かったらと悔やまれた。

・武蔵について、合格は五分五分ではないかと思っていたため、通常塾の復習などをしっかり行い、その他の学校にも対応できるように意識していた。それが芝の合格にもつながったのではないと思う。

5. 入試結果

(1) 1月10日 栄東A ×不合格

手応えはあったようなので安心していただいていたところ、不合格で落胆。母親も女優に徹することができず、一緒に泣く。一日ほどは完全には集中できないが、受験は続くので発破をかけて机に向かう。タケノコ先生に連絡し、母子共に背中を押してもらい、16日にリベンジすることとなる。

(2) 1月16日 栄東B ○合格

思えば1月10日の不合格を受け、この合格を確認するまでが一番辛かったかもしれない。

(3) 2月1日 武蔵 ×不合格

できることはやったとすがすがしい気持ちで入試に向かう。

zoom応援で力をもらい、かなり緊張したが手応えがあった様子でいい表情で学校から出てくる。まずは元気に最後までやり遂げられたことに安堵する。手応えもあったようなので期待。後から聞くと、算数で一つ取り進む順番を間違えた、あと2手で答えを書けたとのこと。算数で結果が決まったのではないと思う。算数に重点を置いていたつもりであったがもう少しできることがあったのではないかと反省（武蔵対策プリントの3巡目など）

試験後：休憩後城北に向けて机に向かう。少し興奮しており、なかなか武蔵からの切り替えができない、勉強したくないと言うが、発破をかけていっしょに取り組む。就寝前、疲労感が強く、「明日城北受けたくない」と泣く。励まして就寝。本番は模試とは比べ物にならない疲労感あり。勉強させない方がよかったかなと少し思う。

(4) 2月2日 城北 ○合格

朝から雨。靴が濡れない様カバーを履かせて向かうが、他の受験生の目が気になり機嫌が悪くなる。よく考えたらそれほどの雨足でもなかったし、城北は上靴持参なので多少靴が濡れても問題なかったのに、母の過干渉が炸裂。そのゴタゴタでzoom応援を忘れてしまう。送り出してから思い出し、母落胆。試験後本人に謝ったら、「自分も後から気が付いた。zoom応援してもらいたかった。」とのこと。責任を感じていたが合格をいただき安心。翌日以降用にリマインダーをセットする。前日に確認したことが出題されたとのことで「昨日勉強しておいて良かった」と話す。

試験後：2日間の疲労強く、勉強に身が入らず。タケノコ先生に電話し励ましてもらう。本番の疲労は強く、よく休ませる様にアドバイスを受け基本的な確認に留める。

(5) 2月3日 休養日

朝、武蔵不合格を受け1時間ほど顔にタオルをかけて泣く。その後、城北で頑張る!とやや前向きになる。芝については過去問対策がほとんど出来ていなかったため望みは薄いと思っていたが受験の集大成として最後に受けることを本人と確認していた。午後タケノコ先生に報告し、明日の芝について意思確認。「行くつもりがないので受けない。」と話す（母びっくり）良ければ塾に来る様言われ連れて行くが、階段の踊り場で足が止まってしまう、泣きながらタケノコ先生に連れて行ってもらう。2時間程勉強し、帰ってきてからもやや不貞腐れており、母もイライラしてしまう。ここまでいっしょに頑張ってきたのに、最後の最後で寄り添ってあげられなかったと反省。この日も本当に辛かった。

(6) 2月4日

朝、前日のことを謝ると「大丈夫!」と、いつもの健登。朝6時過ぎには出発し、爽やかな朝の空気の中、タケノコ先生からもzoomにて念入りなアドバイスを受け、良い表情で校舎へ向かう。受験後、「タケノコが算数難しいっていつてたからどんどん飛ばした」と話すため「ちゃんと真剣にやったんでしょね!」と笑いながら話しランチを食べて帰宅。やり切った清々しい表情に安堵。そして夜、思いがけない合格をいただく。

後日談。芝を受けたくなかったのは想像以上に本番の疲労感が強く、これ以上受けるのが嫌だった、ゲームをしたかったからとのこと。

6. 受験当日準備した物など

- ・学校によって開始時間や休み時間が違うので、学校ごとに紙に記入。そこに解答ポイントや注意点なども記入。休み時間毎に眺めていたそうです。
- ・朝は心拍数を一時的に上げるためにトランポリンを飛ぶ。

7. 生活面など

- ・2週間前から完全に当日と同じ時間に起きるようにした。
- ・前週の日曜日に武蔵へ同じ時間に行ってみた。当日の緊張はやや和らいだのではないと思う。
- ・1週間前くらいからやや食欲がなくなったため、食物繊維の摂取が足りなかった様子。数日前から排便少なめ、前日に出ていないことに気が付かなかった。1日本番電車の中で便意でやや腹痛あり。試験中はなんとか大丈夫だったがとても気を揉んだ。意識的に食物繊維が豊富な物をもっと食べさせるべきであったと反省。

8. 受験を振り返って

結果は残念でしたが、武蔵を目指してがんばれたことは宝になったと思います。最後まで気を抜かず、根性と意思の強さで頑張り抜いてくれました。親子共々清々しい気持ちでゴールし、悔いはありません。2月3日の反抗はこれから来る反抗期の序章かもしれません。親も精進したいと思います。悔しい気持ちは残しながらも、芝の生活にどっぷり漬かって欲しいなと思います。最後まで勉強は楽しくならなかった健登ですが、新生活の中で自分が受験した意味も見出してくれたらと願っています。最後にここまで健登を支えてくださった先生方、一緒に勉強してくれたお友達、本当にありがとうございました。

大川実桜さんのお父様、お母様

兄の時から通算で5年間続いた我が家の受験戦争が、ようやく終焉を迎えました。
その間、練馬校の先生や個別の先生など、たくさんの方々にサポートいただきありがとうございました。
これが最後の体験記となりますので、これから受験を迎える保護者の方々の一助となればと考え、我が家の体験記を綴りたいと思います。

【入塾】

練馬駅の周辺には中学受験に対応した塾が数多くありますが、当時すでに兄が楽しく アントレに通っており兄弟割の特典があったことや、予習型のアントレの授業の進め方に慣れていたこともあり、なんの迷いもなくアントレー択でした。

入塾のタイミングは、学童に入れなかったことや2歳上の兄と授業時間が重なったことから電車での通塾も安心して送り出せるため、小学校2年生の2月から入りました。

【塾生活】

- ・3年生～6年生：算数Aクラス

クラスについては記載のとおり、すべてAクラスでお世話になりました。

はじめは楽しそうに通塾していましたが、4年生の後期からAクラスの算数が難しくなり解けないことで自信をなくし、また内気な性格のため先生に質問に行けずツラそうでした。5年生でAクラスになり、算数の白板で丸が増え嬉しそうに帰ってくる姿をみて安心したのを覚えています。算数の負担が軽くなったおかげで、全教科をバランスよく学習することができるようになりました。

【家庭学習など】

真面目な性格のため、共働きで両親ともに在宅勤務なし、残業多々ありのなか、アントレの家庭学習内容に沿ってコツコツと自学する姿勢はすばらしかったです。社会については得意科目となり、特に歴史については、何も言わなくても地図帳や兄が中学校で使っている資料集をみながら黙々と学習していました。ただ、苦手な単元に関してはやる気をなくすため、土日を活用して親と予習や復習をするもなかなか進まず・・・、個別を利用しました。6年前期まで担当いただいた百瀬先生の丁寧な個別指導報告書は本当に役に立ちました。また夏までに算数の四まとを解くように指導していただいたおかげで、6年後期の単元テストでは常に高得点！基礎力の定着につながりました。ありがとうございました。

【学校選び】

学校見学は、立教女学院、学習院女子、中央、法政、明治大学付属八王子、富士見、國學院久我山、開智所沢など、本人の希望に沿って、完全に大学の付属校を射程に行いました。また、学校見学には、比較的時間に余裕がある4年生の頃から、気分転換も兼ねて足を運ぶようにしていました。

学校見学は、上述のとおり、付属校を中心に行いましたが、実桜が一番気に入ったのは、明治大学付属八王子中学校（以下「明八」）でした。兄の同級生が通学しており、学校の様子を教えてくれたり文化祭に誘ってもらったおかげで、明八の楽しい雰囲気魅了されていきました。学校説明会時には、校長先生が他の先生とともに温かく迎えてくださったことや、広大な敷地でのびのびと運動をしたい、学食で食べた「カツカレーが忘れられない、合格してもう一度食べたい！」とますます実桜の心を捉えました。さらに、明八はメディアにも数回取り上げられており、ダメ押しが受験直前の1月25日に放送された「THE名門校」（こちらも兄の同級生からの情報で知りました。本当にいつもありがとうございます！！）。

実桜はこれを観て、それまであまり口にはしていませんでしたが、「明八に絶対合格する」という自身の思いを口にするようになり、（いまさらですが・・・）ようやくやる気になったと感じることができました。

親としては、早起きの苦手な子が1時間以上かかる学校に通えるか不安でしたが、生活スタイルを変えるきっかけになればいい、登校時の電車は下りでラッシュに巻き込まれない、また、明八は、付属校ではあるものの勉強にもしっかり取り組んでいるという印象を受けたことから、本人の意志を尊重し、明八の合格に向けてサポートすることを決心しました。

【入試演習】

6年の9月から始まる土曜演習では、明八や併願の候補である法政・久我山の問題が、基本や標準レベルの出題が多いことから、通いなれた練馬校で中堅上位クラスを受講することとしました。人見知りのため、指導員も顔なじみのラッキョとキリンで安心したようです。

入試演習に当たり、デカッチョから「毎回、上位3位以内を目指すように」と言われたため、本人はそれ

を意識して取り組みました。毎回3位以内の目標は達成できなかったものの、結果としては、補欠が1回で、他はすべて合格（3位以内もあり）という結果で終わりました。

結果は上述のとおりですが、入試演習は、名前が載ることで自信につながるというメリット以上に、何よりも子供の弱点・苦手分野を把握できる絶好の場だと思います。我が家では、入試演習でできなかった分野については、通常授業のプリントや夏期講習のプリントを使って、その日と翌日の個別授業を使って復習をするようにしていました。

【過去問対策】

夏期講習が終了した9月から実施しました。

基本的に第1志望は毎週日曜日に実施し、第2志望以下はアントレのない日に実施していました。

（第1志望）明八：直近4年分（第1回、第2回）×1回（算数、理科は2回）

（第2志望）法政大学：直近4年分（第1回、第2回）×1回（算数、理科は2回）

（その他）國學院久我山、開智所沢：直近1年分

第一志望の明八は、四谷大塚の合不合模試では、ほとんどの回で合格可能性80%を超えていたものの、実際に過去問を解いてみると、合格最低点に届かない（5点から20点くらい足りない）状況が続きました。これが、模試と過去問の性質の違いというモノなのかもしれませんが、実桜の場合、合格最低点に届かないときは、ひどく荒れ、泣きじゃくり、復習もせずに寝入る、ということが頻繁に発生しました……。親としても平静を保つことができず何度か担任のデカッチョに相談しました（今、思い出しても受験を辞めさせたほうが良いかと思うほど悲惨でした。）。

明八の算数については、広範囲からまんべんなく出題されるため、対策が立てにくいのですが、過去問でできなかった分野については、それまで購入しただけで一度も開いたことがなかった、四谷大塚の有名校対策のテキストを使って、その分野についての復習を繰り返しました。また、国語については、抜き出しが出題されるのが明八の特徴ですが、抜き出しは文章全体を把握していないと解けず、苦しんでいました。面談時、ムーミンに相談し、解き方のコツを伝授していただき実桜に伝えた結果、徐々に得点が取れるようになりました。ムーミンには、実桜の性格も良く分かっていたいただきフォローしてくださったこと、本当に感謝しています。

第2志望の法政中学は各教科、基本問題が多く出題され高得点での勝負となるため、ケアレスミスがないよう日ごろから意識するよう伝えました。

なお、國學院久我山と開智所沢については、それぞれ1年分だけ過去問を解き、合格最低点をクリアしていたので、特段の対策はしませんでした。

【受験校の決定と試験結果】

《受験校の最終決定》

1月校は開智所沢、2月校は1日に明八、2日に國學院久我山、3日は法政（ただし1日の結果次第で変更（1日の明八が不合格なら明八リベンジ））に決めました。

なお、開智所沢については、直前の説明会で各回の出題範囲を教科ごとに教えてくれるので、開智所沢を受験する方は、出席することをお勧めします。

《試験結果》

➤ 開智所沢（1/10）

特に緊張した様子もなく会場に入りました。Zoom応援については、本人が「明八だけで十分、ここでは使わない」とのことで接続しませんでした。

当日の22時30分過ぎに結果を確認、開智所沢と開智の合格をいただいたので、翌日以降の特待の受験を検討しましたが、実桜は「もう開智は十分、翌日以降は明八対策をする」と、テコでも動かない強い意志を持っていたので、この日を以て埼玉受験は終了となりました。

補足情報ですが、開智所沢（会場：開智所沢）の初日（1/10）は受験者数が多いため、受験番号の早い順*に会場に入る時間が予め指定されました。来年の受験も同様の対応をするのかは不明ですが、出願のタイミングは、会場までの所要時間や午後受験の有無を考慮して決めることをお勧めします。

※ 受験番号は“40093”で、7時00分～7時30分が指定されました。出願は、出願日

初日の9時15分（出願開始から15分後）にしているため、おそらく93番目と史料。

➤ 明八（2/1）

受験数日前から不安による頭痛・腹痛を訴え、プレッシャーと戦う実桜。「大丈夫！！実桜ができない問題はみんなもできない」と家族で励まし、前日も無理せず早めに就寝しました。

当日は体調も回復しひと安心。明八に向かうスクールバスに乗る前に Zoom 応援に入りました。デカッチョ、ムーミン、モモタロウからの応援をいただき、試験に向かいました。試験会場に送り出すときには、2 年前に第一志望に合格した兄の時の縁起を担いで、背中を叩いて送り出しました（緊張していて、実桜は覚えていないとのこと）。

試験終了後、会場から出てきた時の表情は可もなく不可もなく、いつも通りの表情であり、親としても全く感触が把握できない状況でした。

明八から拝島駅に向かう帰りのスクールバスの中でも口数が少なく、いよいよ「次の第 2 回（3 日）も覚悟かあ」と思い始めたころ、「算数は図形の回転が出た、大問 3 までは全部できているはず」、「社会は悪くて 40 点（50 点満点）」、「理科は昨日やった浮力が出た」など、ぼつぼつと試験の感触を話し始めました。

明八については、合格者最低点が年によってバラツキがあるので安心できませんが、実桜の発言で合格の可能性はあると思えました。

家に帰って、翌日の久我山に向けた勉強を進めるうちに、合格発表の 18 時を迎えました。

受験番号とパスワードを入れて、あとは実桜がクリックするだけ・・・

「押せない・・・、誰か押して・・・」

と実桜。しばらく話し合いが続き、結果、実桜が自分の部屋で 1 人で確認することに・・・

そこから一体何分が過ぎたのでしょうか・・・

実桜の部屋の扉が開き、携帯の画面をみんなに開示！！

その画面は・・・

見事に“ピンク色”に染まっていました！！！

（合格者へのメッセージは、明八らしい素敵な内容でした。）

ひとしきり家族全員で合格を喜んだあと、冷静になり、翌日以降の予定を実桜に確認したところ・・・

「明日（久我山）は受けない」、「3 日の法政も考える」、「明八に通うのに、行かない学校を受けたら他の受験生に迷惑をかける」と実桜が言いだし、怪しい雲行きに・・・

親としては、明八と同時に法政の対策も頑張っていたので受験してほしいのですが本人の意志は強固でした。

結局、2 日も 3 日も両日とも受験はせず、我が家の受験は 2 月 1 日で終了しました。

【まとめ】

埼玉受験、東京受験ともに初日で合格をもらい、その日以降は一切試験を受けないという、いかにも実桜らしい受験結果となりました。練馬の先生方には、第一志望である明八の合格に向けて、わがままで内気な実桜の面倒を見ていただき、感謝の言葉しか見当たりません。

また、6 年後期から個別を担当をしてくださった佐藤先生から最終日にお守りとお手紙をいただき大切にしていました。明八の試験当日、丁寧にカバンに入れて試験に臨んでいました。実桜の頑張るチカラになりました。実桜に寄り添った指導をしていただき本当に感謝しかありません。

最後、繰り返しになりますが、アントレの皆さま、兄と合わせて 5 年間お世話になりありがとうございました。

大友愛子さんのお母様

2月初めの入学試験が終わっても、私たち親子は第一志望である学習院女子の補欠合格という微妙な立場で、繰り上げ合格の連絡を待っていました。仕事の傍らHPをチェックしては「4人、3人」と補欠順位が上がっていくのを待つ日々。主人とは「生殺しだね」と自虐LINEを交わしていました。補欠合格は娘が最後まであきらめずに頑張った結果ですが、こんな苦しい思いをすることになったのは本当に皮肉です。

娘との受験を振り返ると胸が痛くなる思い出もたくさんありますが、これまで先輩保護者の皆さまの体験記に助けられてきたので、私もこの体験記を残し、アントレを卒業したいと思います。

▽ 「合否を分けるのは算数」

上の子がアントレにお世話になっており、2つ下の娘も3年生の冬期講習から3年間、お世話になりました。入塾当初はCクラス。ほどなくしてBクラスになり、5年の終わりごろからAクラスに上がりました。「中学受験は親の受験」とはよく言ったもので、アントレの授業に合わせた予習・復習の勉強計画は専ら私が立てました。わが家は共働きで、中学生の息子は父親、下の娘は私が勉強を見るというシフトを組み、家事も分担してどうにかこなしていました。

アントレでは「中学受験は算数で差がつく」と言われ、家では算数に大半の時間を費やしました。週末に娘と二人で予習シリーズを解き、塾が終わると白板問題の復習という日々。他塾のことは分かりませんが、アントレの算数はレベルが高いと思います。例えば、まとめテストでコンスタントに7割程度取れる実力なら、志望校の選択肢はかなり広がるだろうと感じました。

▽ 志望校選び

5年になると、各学校が実施する見学会や説明会に足を運ぶようになりました。これからの学力向上に期待しつつ「偏差値55～60」レベルの女子校を探したところ、都心にありながら広大な土地を持ち、環境の良い学習院女子が候補に上がりました。もう一つ、家から近いという点では富士見中学が魅力的でした。娘は学習院女子に憧れ、富士見には親しみを覚えているようでした。

この2校には5年のときに何度も訪問し、文化祭にも足を運びました。本当はもっとたくさんの学校を検討すべきだったかもしれませんが、調べる時間的な余裕がなく、週末も貴重な勉強時間が削られるのが嫌だったため、学習院女子を第一志望、富士見を第二志望に決めました。アントレの先生からは「学習院女子を目指すならAクラスにいた方がいい」と言われ、私は娘に「早くAクラスに上がれるように頑張ろうね」と声をかけていました。Aクラスに上がったときは、正直ほっとしました。

▽ 偏差値60の壁

白板問題の定着を目指し、娘は5年から算数の個別指導をお願いしていました。ただ、Aクラスでは、まとめテストで白板の応用問題が出ると対応できないことが多くなりました。繰り返し復習させようと、ミスした問題を集めて「ドジノート」を作ったり、1問ずつカードにしてみたりもしましたが、娘は毎週の単元をこなすのに精一杯で、プラスアルファのことに充てる時間などありませんでした。

担任のデカッチョ先生は「Aクラスでは偏差値60～65を念頭に置いています」とおっしゃっていました。これに対し、娘が6年になって初めて受けた四谷大塚の合判模試では偏差値60に遠く及ばず。特に、模試では理科社会が全くできず、これまでおろそかにしていたツケが回った形となりました。理科社会の克服は最後まで課題となり、9月からは算数に加え、理科の個別指導も追加しました。

これは感覚的なものですが、偏差値60以上とそれ以下では大きな壁があるような気がします。娘はこの壁に苦戦していたようで、「こんなに勉強をやらせる自分は教育虐待しているのでは？」と自問することもありました。ただ、娘には「勉強がいやならいつでも受験をやめてもいい」と言いつつ、本当にやめさせる勇気は私にはありませんでした。唯一、救いとなったのは国語が得意なことでした。学習院女子の国語の試験問題は記述がほとんど。娘は9月からAクラスとSクラスの混合による記述クラスに参加させていただき、モモタロー先生に過去問の記述を添削していただけたのもありがたかったです。

学習院女子の過去問は、国語の記述では読解力や文章力が問われますが、算数は標準的な問題も多い印象を持ちました。理科社会はそもそも苦手だったので、コアプラスで基礎知識を身に付けて挽回するしかないと腹をくくりました。9月から始まった土曜の「入試演習クラス」も「学習院女子を目指すなら『女

子上位クラス』を」と言われたものの、娘は友達がいる「中堅上位クラス」を選択。難しい問題にチャレンジするか、基本的な問題を固めるかの判断は難しかったです。娘の場合、中堅上位で自信をつけたことがプラスに働いたと思いますが、先生のアドバイスに従わず、申し訳なかったです。

▽ 娘の選んだ道

11月以降、合判模試もようやく点数が上向き、いよいよ冬期講習！というタイミングで娘がマイコプラズマ肺炎にかかりました。かかりつけ医に何度通っても良くなりず、1週間たって大学病院で特効薬をもらい、ようやく回復。それでも咳が続き、冬期講習の半分は休んでしまいました。

気を取り直し、1月には学校をすべて休んで自宅学習で学習院女子の過去問2周目にとりかかりました。平日は私が仕事のため、娘は家に一人でいましたが、過去問や算数の「4科のまとめ」、理科社会のコアプラスなどをやり続けました。富士見の過去問に取り組んだのは算数1科試験も含め5回分程度。山脇学園の国語1科試験も受けることとし、これは2回分ほど解きました。

結果は

2月1日午前・学習院女子A⇒不合格 午後・山脇国語1科⇒不合格

2月2日午前・富士見②⇒合格 午後・富士見算数1科⇒不合格

2月3日午前・学習院女子B⇒補欠合格

学習院女子は1日に不合格なら3日も無理だとあきらめていました。偏差値が高くなり、合格枠はわずか40人だからです。娘は3日の朝、出発直前まで「行きたくない」と言いました。でも、試験後には「国語は全部埋めた。算数も最後の水量とグラフの問題までできた。理科社会は直前に見ていたコアプラスの問題が出た！」と手ごたえ十分。すべてを出し切った様子で「受けて良かった」と言いました。

先生からは「過度な期待は持たないように」と言われていましたが、補欠順位が近づくにつれ、娘に「学習院女子、このままだと行けるかも」と伝えました。ところが、娘は「でも…富士見がいいかな」とひと言。「はあ？」。私はわが耳を疑いました。そこから怒涛の説得工作に入りましたが、娘からは「お母さんの圧が強すぎる」と拒否される始末。何度も話すうち、娘は「これからは勉強も頑張るけど、友達と学校生活を楽しみたい」と打ち明けました。「そんなこと？」と言ってしまえばそれまでですが、日ごろから「自分の人生なんだからあなたが決めなさい」と言ってきた手前、彼女の決断を尊重せざるを得ませんでした。補欠発表から12日後、念願だったはずの繰り上げ合格の連絡をいただきましたが、お断りしました。娘は言いました。「せっかくお母さんが薦めてくれたのに、ごめんね」。この言葉に娘の成長を感じつつ、私は学習院女子とはご縁がなかったと思うことにしました。

思えばこれまで、富士見の説明会の後は決まって娘と「いい学校だね」と話していました。入試後の保護者説明会では校長先生が「たとえ本校が第一志望でなかったとしても、出会った場所がベストと言ってももらいたい。それが真実になるよう最大限努力します」と言ってくださいました。その言葉を信じて、娘をお預けしようと思います。

▽ 最後に

中学受験はまさに親の受験でもありました。勉強計画や時間管理など大変なことはたくさんありましたが、一番つらかったのは、親の人間力が問われたことでした。生まれたときは「あなたがいてくれるだけで幸せ」と思っていたはずなのに、学力という物差しで子どもに順位が付けられる中で、いつしか「なんでもっとできないの？」とわが子を否定してしまう自分がいました。もし今、お子さんとの接し方に悩んでいる方がいらっしゃるとしたら、「あなただけではありません」とお伝えしたいです。

アントレでは、「偏差値だけじゃない。何か一つでも子どもの良いところを見つけて伸ばせばいい」というフンちゃん先生の言葉が沁みました。タケノコ先生は「子どもに前向きな声かけをするには、お母さんが気分良くいなければいけない。そのためには、好きなことをしてストレス発散してください」と言ってくださいました。子どもたちだけでなく、保護者の気持ちにも寄り添ってくださる先生方にいつも救われていました。ようやく受験が終わりました。長い間、本当にありがとうございました。

亀山翔樹くんのお母様

2月4日（火）午後7時。「残念ながら、不合格です」のメッセージを確認し、息子の中学受験は幕を下ろしました。

息子は保育園の頃から一貫して、将来就きたい職業が決まっていました。その一途さは変わることなく、そのために塾に行きたいと言い、アントレにお世話になることになりました。

アントレへの入塾は新4年生になる2月でした。体験授業が楽しかったとのことで、「ここに入る」と即決でした。Cクラスからのスタートでした。

「塾に入れば周りの勉強している子供達に影響されて、自然と机に向かうようになるだろう」「塾に行けば頭が良くなるだろう」と親子共に安易に考えていました。「そんなことはないんだよ」とその後、保護者会で何度も耳にしますが、どこかのんびり構えていました。

4年生の時は、ただ楽しくアントレに通う日々でした。予習、復習はさらっと読むのみ、計算シリーズには手を付けず、「どうしたものか・・・」と悩んでいたところ、9月の保護者会でたけのこが「計算シリーズは時間のかかり方は子どもによって違う。Cクラスの子にとっては難しいと思えるかもしれない。全部やらなくていい。今日は偶数の問題、奇数の問題と取り組んでもいい。とにかく毎日続けることが大切」とアドバイスをくれました。Aクラス担任のたけのこが、Cクラスに向けたアドバイスをくれることもありがたかったのですが、「そういうやり方もあるのか」と柔軟さに感心し、すぐに子供に伝えました。隔々まできちんと取り組まなければならないと教え込んでいたため計算シリーズに向き合うことが苦痛になっていたようでしたが、このことがきっかけで毎日取り組むようになり、4年生の終わりには1冊きちんと仕上げることができました。ただ、成績は上向きになる気配はなく、4年生の冬期講習後から個別をお願いすることにしました。

5年生になっても勉強の姿勢は変わりませんでしたが、アントレには楽しく通っていました。特に国語の知識テスト（20点満点）が壊滅的でしたが、後期のある日、「知識テストでいい点を取りたいから問題を作ってほしい」と頼まれました。驚きましたがチャンスだと思い、出題傾向を探り、問題を作ったところ、毎回一桁だった点数がいきなり18点に上がりました。ムーミンにも驚かれ、本人も上機嫌でその後も取り組みを続けられるようになりました。思い返すとこの頃から、母の問題作成が始まったように記憶しています。

5年生の夏期講習では、積極的に予習に取り組んでいたため、白板ではマルをもらえることが増えました。しかし、期待したまとめテストでは復習が足りていなかったため、散々な結果でした。本人は落ち込み、「算数のテストは返ってきていない」と初めて答案用紙を隠しました。また、理科、社会には興味を見いだせず、中々手を付けることができませんでした。当然、成績は振るわず、最後まで苦労しました。

5年生の夏休み後、個別の先生が変更になり清水先生に担当していただくことになりました。我が家にとって救世主でした。その頃から、息子の勉強に対する取り組み方が少しずつ変わってきたように思います。算数の予習を一緒にしていただき、理解が深まって行ったようです。「分からないところは何度でも聞いて。分からないことをそのままにしておく方が問題だよ」等、息子にとって心に響く言葉をたくさんかけていただきました。

予習→授業→復習のサイクルが回りはじめ、少しずつ成績は上向いてきましたが、依然Cクラスのまま6年生を迎えました。前期のまとめテストでは、算数の取り組みが結果に繋がり、一気にやる気が出たように感じました。そして、夏休みを迎えますが、やる気はあるものの集中力を保てず、あまり有意義な時間を過ごすことができませんでした。後々、本人はこの時期の過ごし方を後悔することになります。

母とはいえば、ひたすら白板をノートに写し、問題作成に明け暮れていました。パソコンやコピーではなく、手書きでの作成が本人のリクエストであり、勉強に気分が乗らない時も、問題が作成してあると手を付けるため、入試直前まで続けました。後に本人から、「一緒に頑張ってくれているような気持ちになっていた」と聞きました。

後期になり、四まとの単元テストが始まりました。単元テスト結果でのクラス入れ替えではBクラスに移動し授業を受ける日々が続きました。Bクラスに移動する度に「また来た」って言われちゃった等、うれしそうに報告してくれました。その結果、10月に入り、初めてBクラスへ正式に移動することができました。本人はとても喜び、改めてやる気スイッチが入りましたが、白板では中々マルがもらえず、苦戦していまし

た。しかし、Bクラスを維持したいとの思いがモチベーションになり、頑張ることができました。また、Bクラスに慣れてくると夏期講習のBクラスの問題を解きたいと前向きな気持ちになり、お友達からノートを借りて来たのでコピーさせてもらいました。このノートは本当に有難く、何度も繰り返し使い込みました。ノートを貸してくれた親切なお友達、ありがとう。

入試演習クラスは中堅上位校を受講しました。しかし、3回目からは中堅校に移動し、12月に改めて中堅上位校に戻りました。

志望校は自宅から徒歩10分の城北中学校、自転車で20分の淑徳中学校、電車（乗り換えなし）とスクーリングバスで60分の城北埼玉中学校に決めました。他にも説明会に伺った中学校がいくつかありましたが、とにかく近く、電車の乗り換えが楽な学校がいいとの本人の意見を尊重しました。中でも徒歩10分の城北中学校は、家の前を自転車で通り過ぎる生徒さんを見かけることも多く、説明会や体験授業、クラブ体験などで何度も訪問するうち、本人の中でいつしか絶対的な存在となっていきました。ただ、Cクラスでは城北中学校を受験するのは無理だろうと考えていたようで、Bクラスに移動してからは挑戦権を得たとばかりに俄然張り切りました。

「合格に見合う努力をしているか」面談でらっきょからいただいた言葉です。素晴らしい言葉だと思い、息子にも直接伝えてもらいました。この言葉は息子の心にも刺さり、紙に書いて、勉強するときに見えるように貼っていました。

1月の埼玉受験は特に緊張していませんでした。電車内でz o o m応援をいただき、張り切って受験に臨みました。発表が午後11:00だったため、本人は寝かせ、母一人で確認しました。合格をいただき安堵しました。

小学校は、1月は始業式のみ出席し、自宅学習の時間に充てました。算数は過去問を中心に白板復習や四まと、有名校対策、国語は記述の見直しと漢字を中心に、理社はコアプラスや授業プリントの一问一答を繰り返しました。過去問は第一希望を8年分、2-3周しました。第2希望は5年分を1周、第3希望は3回分取り組みました。特に第一希望の城北中学校の過去問への取り組みには前のめりで、本人なりに手ごたえを感じていたようでした。

2月1日午前の城北中学校、午後の淑徳中学校、2日午前の城北中学校、午後の淑徳中学校ともに不合格となり、東京受験のスタートは厳しいものとなりました。それでも前を向けたのは、先生方のz o o m応援のおかげだったと思います。合格がもらえず苦しい中、「弱音を吐かないで頑張っていてえらいね」と声を掛けると、「あたりまえじゃん。いまさら引くわけにいかないし」と返事があり、成長を感じた瞬間でした。3日は午後から淑徳中学校の試験でした。「z o o m繋ごう」と声を掛けても「今日は午後からだから今繋いでも迷惑だよ」と言っていたのですが「繋いでみようよ」と半ば強引に誘いました。らっきょと一休さんから励ましていただき、「やっぱ、らっきょも一休さんも優しいわ」と力をもらい落ち着くことができました。算数の過去問を2年分見直し、自信をもって臨めたようです。そして、午後10:30に「合格」をいただくことができ、心底ほっとしました。

4日は城北中学校への最後の挑戦でした。この日のz o o m応援は「らっきょ」「デカッチョ」「モモタロー」「ムーミン」「一休さん」と、とても豪華でした。「フルメンバーじゃん」とうれしそうで、程よい緊張感を持ちながらもリラックスして受験することができたようですが、合格には届きませんでした。この日の受験後に本人から「解らない問題があったけど、諦めないで粘った、頑張った」との発言があり「やり切った」とも言っていたのですが、日を追うごとに悔しい気持ちは膨らんでくるようで「何で夏休みにだらけちゃったんだろう」と悔やむ姿が見られました。「時間は戻せないのだから前を向こう!」と伝えるしかありませんでした。この悔しさを忘れず中学校生活を充実したものにしたいと願っています。

この3年間、親子バトルも数多くありました。「誰のための受験なのだろう」と考えたことも一度や二度ではありませんでした。でも、二度とは経験できない貴重な時間を息子と過ごすことができました。決して勉強が好きではない息子が3年間アントレに通い続け、中学受験という高い壁に挑み続けたことを誇りに思いますし、称えたいと思っています。

最後に、アントレの先生方、個別の清水先生には拙い息子を見守り、導いてくださり、ありがとうございました。アントレでなければ息子は中学受験を全うできていなかったと思います。本当に感謝しかありません。アントレという素晴らしい塾を探し出せたことが母の最大のファインプレーだったと思います。

黒崎悠斗くんのお父様

我が家は私も妻も中学受験の経験が無く、悠斗から中学受験を挑戦してみたいと言われたときはびっくりしました。都立も視野に入れ塾を探したときに妻の知り合いよりアントレを紹介していただきました。違う塾に通っていたので本人に合うか体験授業に参加しました。受け身の勉強だった悠斗が「とても面白いのでここに通いたい」と目を輝かせて言うのでトントン拍子で転塾となりました。

白板ノートは作図も文字も4年生そのままでしたが、日数、月数、年数が経つにつれて徐々に上手になっていきました。算数は長さや奥行きなど視覚で捉えることが重要なので早いうちから綺麗に丁寧に描く練習を心がけていました。

新4年生からのスタートではなかったのですが他の生徒との学力の差を気にすることもありましたがアントレは個を大事にしてくれていたことで次第に悠斗の長所を伸ばすようサポートしていきました。

私が土日休みのため平日は妻と一緒に勉強していました。土日は1週間の進捗状況の確認と予習・復習のサポートをしていました。私が鞭で妻が飴となり逃げ場を作り、妹が張り詰めた空気を一掃してくれるお笑い芸人顔負けの役目と愛犬が悠斗の勉強の合間の癒しの友達となり家族全員結集して挑んでいました。

5年生後半ごろから算数の難易度が上がり、私の知識では到底追いつけなくなり個別授業に通うことになりました。どちらかというと引っ込み思案な性格なので問題の意味が分からなくても先生に突っ込んで聞けないところがあり、その日の復習で既に出てこないということも多々ありました。

そこをあまり攻めると自分が理解できそうな問題を選んで個別授業に参加することになるので、怒ったり攻めたりしないよう心掛けました。

5年生までは算数に比重をかけ白板の復習を徹底的にやりました。

6年生になるまではコツコツ地道に日課をこなし予習多めの時間を使っていました。今思えば予習：復習＝7：3くらいだったのを予習：復習＝5：5の時間配分であれば知識の定着がもっと図られたのかなと今更ながら反省しています。

6年生のゴールデンウィークは学校に行かない分入試の勉強に時間が割けるのでスケジュール表を無理のない範囲内で悠斗と話し合って作成しました。これは夏休み用と入試直前用にも作成しましたが無駄な時間を作らないため有効だったと思います。

1月埼玉受験の開智所沢は過去問の出来具合を見て、正直すんなり受かるものと思っていました。しかし1回目の「残念ながら・・・」から始まり4回目まで同じ画面を見ることとなりました。

5回目では本人も親も疲弊困憊でこのままでは2月の東京受験も厳しい結果となるのではないかと妻と受験校変更の話し合いをしていたくらいです。

それでも5回目の朝、ボロボロになりながら5：30に起床し朝食を食べ、計算ドリルを1回分解いて、持ち物のチェックをして今まで通り家を出ました。今となっては学校到着まで何を話したか定かではありませんが、自分がやってきたことを信じてがむしやりに頑張っていこうという内容だったと思います。

学校近くで必ずアントレの先生方のZoom応援に接続し1分ほど会話をしました。横で聞いているだけでも先生方の子供への愛情が伝わってくるメッセージでしたし、悠斗のスイッチもここで入り顔つきが引き締まったのを覚えています。

5回目入試の当日夜に結果が出るので妻と娘は先に就寝し悠斗と2人で結果を見ました。

初めて見る「合格おめでとうございます」の表示が映しだされたときは抱き合って喜びあいました。すぐに2階に上がり妻にも伝えました。点数開示がありましたので特待にもあと数点で合格できる点数を取っていました。良く頑張った！我が子ながら心の底から誇らしく思いました。普通大人でも4回目まで結果が出なければ諦めたり、腐ったりして逃げ出したくなると思います。

1回目から5回目までわずか6日間でしたが1か月も2か月もあったように感じました。

さてここから2/1の東京受験に向けさらにギアを上げるタイミングですが、ちょっとした燃え尽き症候群に親子で、特に私になってしまったと感じています。

もともと3つの学校を志望校として選定し、順位付けはしていませんでした。偏差値の違いはありますがどの学校も素晴らしいので第一志望校として準備していました。そこがかえって「これでいいや」「早く楽にさせてあげたい」「早く楽になりたい」という気持ちになってしまっていたと思います。それでも悠斗はコツコツと勉強だけは止めませんでした。その姿を見てハッと我に返り、悠斗は今までアントレで2年半頑張ってきたのだから残り2週間全力でサポートしていこうと再度自分に言い聞かせました。

2/1日本学園受験当日いつも通り5：30に起床し朝食を食べ、計算ドリルを1回分解いて、持ち物チェックをして一緒に家を出ました。悠斗の顔つきは埼玉受験の時と変わらずクールな感じで緊張しているのかどうか親でもわかりません。学校の最寄り駅につきZoomで応援していただき安心感からか表情が緩んだのを感じました。この時やっぱ緊張していたのだ、親がどれだけ声掛けしても表情が変わらなかったのにアントレの先生方と話した後の表情との差がアントレの偉大さを感じました。

当日夜に残念な結果が出ましたが、気持ちを切り替え 2/2 の明大中野に臨むようすぐに就寝しました。

しかしながら 2/2 も残念な結果となりました。

埼玉受験が全滅なら 2/3 に受験を決めていた学校もありましたが、今までの疲労や 2/4 の受験に向けて休息日にしました。2/4、2/5 の受験で結果の如何に関わらず中学受験が終了するので 2/3 はFunちゃんから指示をいただき理科・社会のまとめテストをひたすら解いていました。2/4 の日本学園も残念な結果となり残すは 2/5 の最終日のみとなりました。不思議と家の中はどんよりとした空気ではなく、笑い話もできるくらい悠斗本人は勿論、家族全員がリラックスしていました。2/1、2/4、2/5 は同じ日本学園でとにかく倍率が高く 2/5 の事前倍率は 27.35 倍（最終倍率 11.3 倍）と気が遠くなるような数字でした。悠斗には最後後悔しないよう自分のすべてを出し切ってきた！と送り出しました。Zoom 応援ではFunちゃんより「お前さんぐらいだよ！毎回 Zoom 接続して！皆勤賞だぞ！」と愛情いっぱいの優しい声で和ませてくださり悠斗の表情も明るくなりました。

試験が終わり校舎から出てきた悠斗の顔を見るといつも通りクールな顔つきでした。今までの模試や受験の傾向で算数や理科が出来たというときは不出来で、国語や社会が出来たというときは結果もついてきていました。学校を出て駅まで歩いているとき理科が出来た、という発言を聞き「ダメかな・・・」という気持ちになりました。それでも「今までの全てを出し切ってきた」という言葉を聞いて胸を張って家に帰りました。受験当日夜に結果が出るのですが、疲れ切った悠斗も翌日仕事の私も寝てしまいました。妻だけが起きていて「受かっているー！」と大きな声に家族全員（愛犬も）飛び起きてスマホの画面を奪い合うように見入りました。

全ての試験が終わり結果では立教新座の不合格を含め 4 校中 2 校よりご縁を頂きましたが、結果とともに悠斗の成長がとても嬉しく思います。妻と同じ身長になり、声変わりでたまに聞き取れない時があり、手を握ったときとても大きくなっていて、いつの間にか大人の男に近づき親から巣立っていく準備が整ってきたんだなと複雑な気持ちにもなりました。

どんな状況でもコツコツ頑張り、結果がついてこなくても弱音を吐かず、粘って粘って最後に結果を出す。小学生でそこまで立派に育ってくれて親として誇らしく思います。

今までは 1 日の大半を勉強に費やし、やりたい事も犠牲にして中学受験に邁進してきたので残りの小学校生活は友達とたくさん遊び思い出を作っていってもらいたいです。

また新生活のスタートに向けて大学附属のメリットを生かし自分のやりたい事、拘りたい事をたくさん見つけ積極的に考動していってもらいたいです。

最後になりましたが悠斗に関わってくださった先生方、個別の先生、生徒の皆さん本当にありがとうございました。

小林慧都くんのお父様、お母様

これは算数が苦手な息子が“どうしても武蔵に行く！”と奮闘し、願い破れるも最後まで走りきった中学受験の体験記です。この3年間、アントレの受験体験記からはたくさんのアイデアをいただき、何度も救われ、心のよりどころとなっていました。つい数週間前に受験を終え、今だからこそ感じることや新鮮な記憶が、少しでもどなたかのお役にたてたら幸いです。なお、先生方のお名前は、敬意と親しみを込めて愛称で書かせていただきます。ご容赦ください。

◆結果 武蔵を第一志望にしていたましたが、不合格。進学先は芝中に決定。

日付	学校	倍率	結果	対策	過去問
1/10	栄東 A 日程	1.5	○難関	直前に過去問で対策	2 回
2/1	武蔵 * 第一志望	2.7	×	後期から入試演習武蔵クラス 武蔵 算数対策プリント 武蔵過去問の講評の熟読 前期の武蔵算数プリント	19 回 + 算国 2 回
2/2	桐朋② * 本人第二志望	2.2	×	自宅で過去問	10 回
2/3 AM	学習院② * 第三志望	4.0	○	1 回目の入試問題をラクダが入手してくださ り前日夜に自宅で確認	1 回
PM	国学院久我山 ②ST	5.6 (※)	○一般	向かう途中で過去問を見て問題パターンを 把握	なし
2/4 AM	芝② * 夫の第二志望	2.8	○	前日夜にアントレで対策 朝はダンディヤーが解いた芝 1 回目の社会や、 スマホで増上寺のサイトや歴史を読み漁り ながら向かう ラクダの手書きメッセージを胸ポケットに しのばせる	3 回
PM	三田国際④ISC	8.5 (※)	○	前日夜にアントレでアドバイスをもらう (急遽見つけて薫をもすがる思いで出願)	なし
2/5 AM	本郷③	13.2	○	前日夜にアントレで対策 (6 年春頃に一度は検討していた学校。しか し武蔵の対策に比重をおくため検討から外 した。倍率の高さからも躊躇していたが最後 にチャレンジ。)	なし

(※) 市進学院サイトより。それ以外は公式発表。

『入試を終えた今だから思う 7 つのこと』

1. 本当に最後の最後、入試当日まで学力は伸びる！
2. 倍率と結果に相関なし。過去の倍率をみて躊躇していた学校もあったが、今考えると気にする必要なかった。
3. 模試の類は、アントレの入試演習武蔵クラスで実施するテストが一番信頼性あり、合否精度がすごい！
模試の結果と受験結果もあまり結びつかないかも。
 <四谷合判 11 月> 武蔵 30% 桐朋②65% 芝②55% 本郷③35%
 <サピOP 12 月> 武蔵 30% 桐朋②20% 芝②30% 学習院②60% 国学院 S T ②50% 本郷③20%
 <学校別模試：サピ武蔵 OP 9 月> 60%
 <学校別模試：NN 武蔵 12 月> 80%
 入試演習武蔵クラスでは合格 6 回 補欠 2 回 不合格 7 回。
4. 白板や過去問、入試演習など志望校対策で、自然と第一志望以外の学校でも戦える力が身についていた。
5. 入試期間中に特に大事だと感じたのは、終わった学校の試験内容のことは一切忘れ、とにかく翌日以降の入試に意識を向けること。採点や解き直しはしない。(模試の時は終わってすぐに採点&解き直しが一連の流れだったので、入試期間中も試験の問題と解答が気になり、これを我慢するのが一番難しかった。)

6. 学習院など2回目入試で1回目入試と近い問題が出る学校では、1回目の問題を入手して前日にインプットするのは効果絶大。(プーさん、ラクダ、ありがとうございます！)
7. 入試期間中はアントレの先生方全員が見守ってくださり、支えてくださいました。しっかりしているようでいて、12歳の小学生。メンタルがものすごく大事でした。後にも書きますが、2/3の学習院の受験後に武蔵と桐朋の結果を知り、落ち込んだ慧都と私たち夫婦を導いてくださったアントレの先生方のおかげで5日まで走り切り、合格を貰うことができました。心より感謝しております。

『算数34点の息子の武蔵(中学)受験』

【我が家について】

夫婦共にフルタイムの共働き。受験生長男と、小2の次男の4人家族。

本人の最終的な得意教科は国語>社会=理科>算数。読書が大好き、毎日小学生新聞を読み、社会や理科の知識はほとんど書物からといっても過言ではないかも。

夫は30年以上前に都内中学受験経験者。私(母)は地方出身、中学受験未経験。

【中学受験のきっかけと志望校】

とある中高一貫校の文化祭で、リアモーターカーのミニチュア展示に目をキラキラさせる慧都を見て、好きなことに夢中になれる環境に出会えたらと思い、中学受験を考え始める。その後小3の春に武蔵の文化祭に行き、1日目だけの予定が、翌日も行くといつてきかず、2日目も朝から夕方まで堪能。まさに武蔵にくびったけ。塾探しを開始。

そのほか学校見学や文化祭には6年生までの間で20校近く参加。どの学校も慧都から「帰ろうよ」と切り出され「ここ“も”いい学校だよ〜」と当たり障りのない感想。「そろそろ帰ろう」と親から促し、引っ張らないと帰らなかったのは武蔵だけ。武蔵には計9回足を運び、入試が10回目となりました。

【塾選び】

5つほどの塾の入塾テストを受け、アントレ含め検討。決め手は3つ。

1. 楽しかった！という、体験後の本人の感想と様子が遊んで帰ってきた後のようにイキイキしていたこと。
2. 受験体験記で、合格校がなかったお子さんの体験記を読んで、成績や可否に関係なく行って良かったといえる塾という点に、単なる勉強や受験戦争ではない学びを得られると感じたこと。
3. 武蔵合格者の割合。素人ながらに塾の推定在籍者数と合格者数をいろいろと調査。在籍者数に対して武蔵の合格率が一番高いのはアントレなのではと考えました。(2025年アントレの入試演習武蔵クラスの合格率もとんでもなくスゴイと思います。)また武蔵の学校見学の時に在校生から“アントレ”の名前があり、そこで確信。

【算数34点から這い上がる】

4年生から入塾。成績はひたすら地を這い、正直親としては“武蔵志望”と言うのも憚られる。4年生のまとめテストの評価、算数はCかD。国語はC時々B、理科と社会は大好きでAやB。

最初の転機となったのは5年の夏。

7月のテストで初めて国語と社会がランキングに載り、よっぽどうれしかったのか勢いづき始める。算数も少しずつ点数が伸びてきて、ランキングには載らないものの徐々につかみ始めた様子。得意教科を伸ばすことで他の教科も伸びるというのを実感。塾から帰宅後に「白板何問とれた?」「ヨーイドンはやった?」と声をかけ始めたのは、小さなことだけど効果的だったと思います。次第に「今日はヨーイドン1位とれた!」「白板全丸だった!」と報告してくれるようになりました。

本腰を入れ始めた夫。

白板の結果と復習度合いを單元ごとに可視化し、苦手を洗い出そうと夫が動き出した!がしかし、白板ノートの解読でいきなり躓く。文字が汚すぎて問題文も解答の数字も、読み解くだけで一苦労…あまりに骨が折れるので、夫が白板を全て清書することに。もともとオタク気質な夫が、清書するうちに問題の面白さにはまりだしたのもこの頃。家庭内で白板の話題が増え始め、私もようやくアントレの学習サイクルや白板の仕組みを理解。(早くから字をきれいに書く習慣をつけるべきだったと反省。)

「5年の11月までにSクラスに上がれば、武蔵目指せる可能性はあると思います」

ブンちゃんから言われた言葉に再び奮起。予習と復習が定着してくると徐々に白板での〇も増えて、ヨーイドンでも答えられるようになってくる。しかし、なかなか算数の点数は上がらずSクラスにも上がれない日々。そして、まとめテスト34点の判定Eを見たときには、流石に夫婦で目が飛び出た。幸い国語は上り調

子になりAやBをとれるように。「算数もう無理。やっても点数上がらない」という慧都に、「とにかく白板の復習をしよう！ポンっと成績が伸びる時が来るから頑張ろう」と言い続けた。

ついに算数でランキング入りした5年生の11月。

ここまでずっと地を這っていた算数の点数が上がり始める。今思っても、よくここまでめげずに堪えたと思う。黎明期到来。算数79点6位、うれし恥ずかしそうにマーカーで色をひき、ランキングを壁に貼って見せる慧都。私たちもうれしくて、焼肉食べに行ったっけ…。

「6年になるタイミングでSクラスになればまだ可能性はあります」

面談でのプーさんの言葉に感化されて、まとめテストにさらに全力投球。コンスタントに算数でランクインし始めるも、Sクラスの壁高し！国理社はSクラスをキープし、算数のみAクラスのまま6年生に突入。ただただ…とにかく武蔵をあきらめずに粛々と過ごす。1つ上の学年でAクラスから武蔵合格者が出たことは希望の光となり、モチベーションもUP。プーさんやカッシーにも相談し、とにかく基礎を盤石にし、Aクラスから武蔵を目指すことを家族で決断。

個別でますます算数が楽しくなり始める。

6年前期から長澤先生の個別を受講。わからないことをすぐに聞ける、一緒に解いてくれる、そしてアントレOBで武蔵の卒業生という憧れの存在、いろんな面で良いこと尽くしだった。慧都の勉強へ取り組む姿勢も一気に成長した。解けない問題があると「悔しい！」と粘るようになり、難しい問題を面白がり、算数に対する抵抗感も薄れてきた様子。とくに図形問題に自信を持てるようになった。

【個別面談】

受験までに間に合うのか、今やっていることはあっているのか…担任のプーさんには志望校や勉強の仕方について何度も相談にのっていただきました。そして各教科の先生にも何度かアドバイスをいただきました。ダンディー「社会は問題ありません。苦手教科の算数を1ヶ月くらい泣きながらやることも必要。きっと大丈夫。」

ラクダ「国語の記述はよく書けています。国語はこれまでのペースでいいので算数に振りましょう、間に合います。」

カッシー「よく頑張っています。他教科が安定しているので、武蔵の算数は80点を目指すのではなく50点越えを目指す作戦でいきましょう！」

フンちゃん「慧都くんは4教科のバランスが良いです。十分に勝算はあります。」

また、個別の長澤先生にも「国理社は慧都くんの強力な武器です。力は十分あります。」と言ってもらいました。毎回？どの先生も必ず褒めてくださり、折れそうな心を持ち直すことができました。6年秋以降少しスランプに陥ったり、他の教科も落ちてしまうのではと不安になることもありましたが、先生の言葉を信じて時間も熱量も9割を算数に注ぎました。

【1月からは毎日3人4脚】

朝起きたら1日のスケジュールをホワイトボードに書き出す。

午前は過去問、午後は解き直しと算数の苦手単元の強化。休憩は1時間おきに10分。過去問は夫も一緒に解き、点数を競う。（特に算数は男同士の熾烈な争い。なお、理社は夫も私も1ミリも敵う気がしないので棄権。）その間に私は午後取り組むためのプリントを作成。間違えた問題を記録してピックアップ、白板で間違えた問題や計算の一行問題、算数対策プリント、国語の知識や漢字はしつこいくらいに繰り返す。間違えた問題は解説を読んで理解して説明…堂々と説明できるようになってきたらその問題はもう大丈夫。このインプットアウトプットの繰り返しはとても効果があった。（そもそも苦手なので説明しながらなくて、それが大変でしたが。）

【決戦の5日間】

第一志望前日、早めに布団に入るものの眠れない様子の慧都。マッサージをリクエストされ、脚背中手…とやっているうちにようやく眠りにつく。今思うと、親子ともども緊張しすぎていたし、プレッシャーをかけてしまっていたのかもしれない。

2/1 江古田駅を北口に降りて、浅間神社で合格祈願し、Zoom応援にでてから武蔵へ。校門前で日テレの取材を受け慧都は「凡ミスだけしないように気を付けます！」とコメント。心の底から、気を付けて！と願う。終わって出てきたとき慧都の表情は完全に固まっていて駅直前まで無言…やっと口を開いて出てきたのは「国語も理科も社会もあと1分ほしかった。書ききれなかった。おみやげ問題、葉っぱだった」と。

採点はしない、と我慢していたけれど我慢しきれなくなってしまった夫と私。小分けに聞き出し算数の採点

をしてみたところ、おそらく6割近くはいったのではないかと予想。完全に浮足立っていた。けれど武器である国社にも不安が…。

後から慧都に聞いたところ、シャーペン持つ手が震えて仕方なかった…と。そんなにも緊張を背負わせてしまっただけだよ。

2/2 ふわふわと地に足がつかないまま桐朋②に突入。

しとしと降る雨と寒空の中、前日とは打って変わってリラックスした表情で出てきた慧都。「大丈夫！たぶんいけたと思う！」と手ごたえありの様子。帰宅後も割と余裕で翌日の学習院対策をする。

地獄の2/3。

学習院を受験中に夫婦で武蔵の可否を確認。“残念ながら…”の文字に私は息もできない。もちろん余裕の戦いではないので、心構えはしていたつもりだったけど…何度も大きく息を吸い、平静を装ってお迎えへ向かう。

「楽勝だった～♪」と行って出てきた慧都、「武蔵の結果が見たい」と結果が気になって仕方がない様子。私はできるだけ表情を変えないように、スマホを手渡す。慧都は合格者一覧画面を見て、不合格だったことを知り「ダメだったか…」とだけ呟いて淡々と歩く。

武蔵不合格の場合は、午後の国学院久我山に向かう途中で桐朋②の結果を見ることになっていた。学校に向かう途中でスタバに立ち寄って軽食をとる。店内で結果を確認すると言い、余裕をみせる慧都。どぎまぎする私たちを横目にサクサクと合格発表ページを表示。

——全員言葉を失う。一瞬にして生氣がなくなった慧都。「無」とはこういうことか、声も出ない、涙もない。車に戻り、崩れるように横たわる。「桐朋だめなら、どこを受けても無理だと思う。国学院久我山に行っても受かる気がしない」と。

私には何も言えない…半ばするがような思いでアントレに電話。するとダンディーが出てくださり私も少しほっとし、慧都も少し気を取り戻す。その後カッシーからも電話をいただき、「慧都はどうしたい？」「カッシーは受けたほうが良いと思う。なぜなら、慧都ならきっと〇がもらえと思う、だからまずはひとつ〇を取りに行こう！」と。

本当に力強い一言だった。この言葉で、身動きがとれなくなっていた私たち親子は動きだせた。意思を聞きながらも理由とセットで冷静にアドバイスしていただき、動揺していた我々夫婦も気持ちを立て直すことができた。

また、最初の電話でダンディーにいわれた“6年間通えそう？”という言葉が慧都の中で引っ掛かっていたようで、翌日の芝も受ける！と、決意。

国学院久我山の試験中に夫と作戦会議。“全落ちを防ぎたい！でもたとえ全落ちになったとしても慧都が納得いくまで付き合う、戦えるところまで戦って終わりにしよう”ということで合意。長期戦を覚悟し日付別の入試一覧を片手に、片っ端から学校を調べ直した。2/4 午後に受けられ、結果が2/5の本郷出願に間に合う三田国際を見つけて出願。

この日も試験が終わったその足でアントレへ向かい、芝と三田国際のアドバイスをもらう。疲れているはずだけど、アントレに行って息を吹き返し元気になって帰ってきた。私は夫と顔を見合わせては涙が出てくるのに、淡々と目の前のことに打ち込む慧都の強さに救われる。

何も言葉を発さない2/4の朝。

5時に起きて6時に出発。芝中まで家から電車で1時間、会話はなし。慧都は算数対策プリント、ダンディーが書き込んでくれた社会の問題をずっとながめている。私は。ちょっとでも平常心になれるようにと思い、何か喋ろうとネタをひねり出すも、空回り。空気は張り詰めている。Zoom 応援で、「ここまできたら気持ちだよ！」と気合を入れてもらう。相変わらず反応がうすい慧都だったけど先生方の声を聞いてリラックス。前日の対策でラクダからもらったメモをチャック付きの胸ポケットにしまい、無言で門に入っていく。

この1年、親子で散々神頼み仏頼みしてきたけれど、試験中に近所の増上寺も愛宕神社も参拝するのはやめた。神社の階段の下で「受かったらお賽銭持ってきます」と心の中で神様に喧嘩を売る。

試験終わってすぐに三田国際へ。試験中は再び夫婦で作戦会議。様々なパターンを考え、本当にこれでいいのか、もうやれることはないのか…何度も悩み、アントレに電話をして相談させてもらう。試験を終え、この日の夜も慧都はアントレに行き、念のための翌日の対策をしていただいた。

2/4 夜、学習院、国学院久我山、芝の結果をまとめて確認。

「合格」。ようやく見ることでできたこの二文字に、夫号泣。21時に家族全員で円陣を組み、声をあげた。そして、芝が合格だったら翌日の本郷は受けない予定だったが「俺、明日も受けて終わりにする！もう一校

チャレンジしたい」ということで本郷も出願。

最後の送り出し、2/5。

朝の巣鴨駅、前日とはうってかわって朗らかに Zoom 応援に出る。勢揃いしてくれている先生方の顔を見てさらに元気になる嬉しそうに学校へ向かう。

ここまで試験7回、いつも振り返らずに校舎に入っていた慧都。わりとあっけなくて、あっさりしているなど思っていた。

でもこの日は「かあちゃん、ありがとう！最後いつてくるわ！」と、両手を広げがつつりハグしてきた。足取りは力強い。いつも振り返らずに校舎に入っていく慧都が初めてこちらを振り返り、手を振って校舎に入っていた。たくましい背中って、これだなと思った。中学受験してよかった。あの後ろ姿は一生忘れないうと思う。

◆後悔と感謝

親としては、後半の無双状態のようなコンディションを本命校の時にもって行ってあげたかった、1月にもっと受けさせてあげればよかった、もっと早く個別申し込んでいたら、もっと早く本腰入れていたら…思うことはいろいろあります。数週間たった今も時折未練と悔しさをこぼしている慧都ですが、アントレで出会った友達の話になると「武蔵に行く友達いっぱいいるし、武蔵の文化祭に今年も行くから♪」と、ひょうひょうと言っている強さには感服です。

『算数 34 点から武蔵に合格するまでの話』という体験記を書いたら最高でしたが、そうは問屋が卸さず悔しい受験となりました。ただ、第一志望は叶いませんでしたが、最高に良い体験ができたと感じています。

(A クラスから武蔵に合格！というお話は 2024 年版の先輩にいらっしゃるのでぜひご一読ください。何度も読んで学ばせていただきました。)

もし武蔵を諦めていたらこんなにも成長できなかったかもしれないし、進学先となる芝中を受験することも考えなかったかもしれません。天国も地獄も味わったけれど、親子で貴重な経験することができました。本人の努力と、最後まで支えてくださったアントレの先生方、一緒に学んだ戦友ともいべきお友達のおかげ走り切ることができました。本当にありがとうございました。

まだまだ人生始まったばかり。この悔しさを糧に、未来を切り拓いていつてくれることを親としては願っています。

◆役立ったアイテムを紹介します

宿題スキャナー (スマホのアプリ) プリントの手書き部分を消し、復習したい問題だけを抜き出して簡単にテスト作成ができます。課金する価値ありました。

A3 対応のレーザープリンター 6 年になったタイミングで購入。これなしでは乗り切れませんでした。

リビングの壁のホワイトボード 難しい問題も、ホワイトボードに書き出すと不思議と会話が弾みます。解きなおした問題の説明もホワイトボードだと饒舌でした。導入検討時、私は猛反対していましたが導入して良かったです。

生成 AI (ChatGPT など) 基本用途は私がイラッとした時の相談役。どんな暴言を吐いても冷静に包み込んでくれて、誰も傷つけません。また、夫不在時の解答確認役として活用。解きなおしの時、息子の説明に納得できない(けれどこれ以上突っ込むと喧嘩になりそうな)時に登場。数値が合っているでも考え方が違うということもありました。AI の解答なら息子も聞く耳をもってくれます。自信たっぷりの説明に圧倒されそうになるところをこっそり確認していました。

武蔵算数対策プリントの見直しカード 問題と解説を貼って、寝る前や受験の時の往復の電車でも見ていました。

もう間違えないノート 何度か間違えた漢字や社会理科の忘れがちな単語に始まり、“問題文に線を引く”“単位に気を付ける”など、ことあるごとに本人が記入したノートをつくりました。プーさんからのアドバイスや、先生方からいただいたメモもテープで貼ってお守りのように受験会場に持参。このノートに書くともう間違えない魔法のノート。

最後になりますが、慧都が自身の体験記に書ききれなかったとのことで、メッセージを追記させていただきます。

12 月や 1 月から、そろそろ本番という空気感や雰囲気を意識して持つておくといいです。
2 月からだと遅くて、1 日や 2 日などの第一志望とする学校の入試が多い時期に本気になりにくかったり、不合格で気を落とし実力を発揮しきれない可能性があります。あと、入試当日に、自分はこの学校に必ず受かってやる！！という自信を持ちましょう！！きっと良い結果が待ってます！！

在間一成くんのお母様

◆受験結果◆

1/10	栄東中学校A日程	→合格（難関大）
2/1	武蔵中学校	→合格＜進学＞
2/2	桐朋中学校（2回）	→合格
2/3	学習院中等科（2回）	→合格

◆はじめに◆

2025年2月、末っ子の受験が終わりました。

我が家は男女男の3きょうだい。3人とも中学受験し、男子二人がアントレにお世話になりました。兄とは8歳差の兄弟で、どちらもアントレで楽しく充実した時間を過ごせたと、親としてとてもありがたく思っています。

兄はすでに大学生になり、親がしてあげられることもほとんどなくなりました。けれどアントレで勉強したことが、中高はもちろん、今でも生きてしていると話しています。そして、「本当にアントレ楽しかったなあ」と思い返している姿に、この塾に入れて本当によかった、と思うのです。時に過酷になりがちな中学受験を、楽しい思い出として振り返ることができるのは、先生方が心から子供たちに向き合って指導して下さったおかげと、心から感謝しています。

この受験体験記は、3年間の間に何度も読み返しました。同じ学校を志望されているお子さんの取り組み、受験校の選定、性格の似たタイプのお子さんへの対応の仕方など、参考になることが多く大変助けられました。入塾を検討されている方や、通いながら悩んだり迷ったりした時に、少しでもアントレでの3年間をイメージする助けになればと思います。

◆本人について◆

落ち着いていて気分のムラのないタイプ。本や図鑑が好きで動物クイズや科学クイズを出したがる。好きな科目は理科。ゲームはあまりしない。自分のペースで好きなようにやりたい性格。よく寝る。

◆受験を決めるまで◆

年長から小1までくもんで算数と国語を少しやり、その後の自宅学習はきらめき算数脳やスマイルゼミの発展クラスを少しだけ。他には5年までピアノをやっていました。

勉強自体は好きなタイプなので、むしろ高校受験でもいいのではと考えたこともありました。けれどせっかく学ぶ意欲があるのだから、やはり刺激を与えてもらえる環境に入れてやりたいと思い、本人に中学受験を勧めてみると、本人は兄姉を見て、最初から受験するつもりでいたみたいです。

◆アントレ入室◆

受験すると決めてすぐ頭に浮かんだのがアントレでした。真ん中の娘を通塾の便の関係で他塾に通わせ、オーバーワーク気味になってしまった後悔もあり、弟はやはりアントレに通わせたいと、ほかの選択肢は考えませんでした。2月から入室するつもりでしたが満席でキャンセル待ち。結局GWからの入室となりました。兄の時と格段に違う中学受験の過熱ぶりに驚かされました。

◆4年生◆（Bクラス）

Bクラスで週2回の通塾がスタート。4年生はABCの3クラスでした。

日々の予習復習は、算数を優先にスケジュールに沿ってこなしていましたが、1週間で帳尻があっていればいいことにあまりガチガチに管理することはせず、白板とまとめテストの出来で判断していました。

算数は応用問題になるとつまずくこともあり、間違いを指摘されるとすぐプライドが傷ついていたようで泣き出したりすることもありました。「最初から全部できるなら塾に行く必要はないんだから、できないことはおかしいことじゃないんだよ」とその都度励ましていました。

他3教科は、テキストを読んでおく、まとめテスト前にはプリントを見直す、くらいでほとんど時間を割いていませんでした。それでもまとめテストは算数がたまにB、他の教科はほぼAが取れていました。

◆5年生◆（Aクラス→Sクラス）

5年生からはSABCの4クラスで、新5年に上がる前にクラスの案内をされます。Aクラスからスタートして、2回のまとめテストのあと、Sクラスへどうですかとお電話を頂きました。4科の中で算数が一番弱かったため付いていけるか不安もありましたが、本人はもちろん上のクラスに行きたい！ということで、

Sクラスで頑張ってみることにしました。

けれど、やはりSクラスは扱う問題の難易度が全く違い、今までのやり方では全く太刀打ちできませんでした。白板はそれまで×が1つか2つくらいだったのが、なかなか○が取れず全滅のことも。

算数だけでなく4教科ともレベルが高く、最初のまとめテストは算D国A理C社Bで4科C。点数としては算数は平均点の－20点以上下でした。

本人に特に気にしている風がなく、自分はみんなより算数ができないということを受け入れてしまっている様子が気になりました。解説を聞けば理解できる、解き直しすれば解ける、でもテストになると解けない・・・という状態だったので、「わかる」と「できる」には大きな隔たりがあることを実感しました。これを解消するには、本人が「わかった」と本当に思えるまで復習するしかなく、強制してもできません。そこで夏休み中に面談をして頂き、タケノコから本人に直接話もして頂きました。これで少し目が覚めたのか、5年の後半からは徐々に平均点に近い点数が取れるようになっていきました。

◇勉強法・気を付けたこと◇

- ・白板の間違った問題をなるべく早く解き直す
- ・まとめテストまでに3回くらいは全問解き直す
- ・復習でわからない問題はそのままにしない（時間をかけすぎず、親か先生に聞く）
- ・宿プリに時間をかけすぎない（白板で扱ってない難問もあるので、解説で理解できればOK）
- ・算数と理科の物理単元は、YouTubeで該当単元の解説動画を探して先に見てから予習シリーズに取り組む

5年生は内容もボリュームも一番きつい時期で通常時期も忙しかったですが、特に夏期講習前のそれまでの白板復習（我が家はクラスアップ前のSクラスのものを含む）と、夏期講習中の毎日の宿題プリントと復習は大変でした。

◆6年生前期◆（Sクラス）

6年生になると社会以外のカリキュラムが終わり、時間的に余裕が出てきました。

一方で、4月からはいよいよ合不合判定テストが始まり、偏差値と向き合う時期になります。計6回のうち、11月以外の5回と、学校別サピックスオープン（武蔵）を9月と11月の2回受けました。

4・5年生の間は偏差値にとらわれずに済むのは精神衛生上大変有難かったです。まとめテストの成績表で単元ごとの理解度や各教科の全体での立ち位置はわかりますし、練馬とひばりが丘それぞれの平均点、前年度との平均点の差なども保護者会や概評で教えてくださるので、アントレの中だけの成績だから不安になるということはありませんでした。

6年前期にはオプションの武蔵算数を受講しました（1月から週1回・通常授業以外の日・2時間）。希望制ですが、Sクラスはなるべく受講してくださいと言われます。武蔵の試験問題と同じ形式（手書き・大問4つ）を解いてきます。復習などはしていませんでした（受験直前期に解き直し）。算数苦手な息子ですが、カッシー曰く「意外に頑張ってる」状態だったみたいです。問題は難しいけど楽しいと言っていました。

6年夏期講習は総ざらいといった感じで、日数は多かったものの宿プリがないので5年よりは楽に感じました。5回に1回まとめテストがあり、各期ごとと5期分を総合した成績表が出ます。過去5年の点数と進学先のデータも頂けるので、点数から大体の合格可能性がリアルにわかるのがすごいいいと思いました。

受験校の決定

まずは「中学受験案内」とにらめっこで、自宅から近く通いやすい学校をピックアップしました。兄は都心へ3路線利用で1時間オーバーの通学で、遅刻や途中おなかを壊したり気分が悪くなって学校にたどり着けないことが何回もあったからです。他の条件としては、ぼんやりとですが大学受験もやってみたい様子だったので、附属よりは進学校と考えていました。

4年生からぼちぼちと文化祭などに参加し、武蔵・桐朋・早稲田・本郷・成城・渋沢・都立武蔵などを見て回りました。アントレは入試演習が始まるまでは土日がお休みなので、説明会などは参加しやすく有難かったです。

本人が当初気に入ったのは早稲田と桐朋で、武蔵はあまりピンと来ていなかったようでした。

早稲田は、駅から近く（始業は8:10で早め）、早稲田大学への推薦も外部受験も選べる。剣道部やフェンシング部、弓道部などがかっこよく、文化祭が楽しかったようです。

桐朋は、下り電車で混まない。学園都市で治安が良い。校内がきれいで広々として落ち着いた雰囲気。生物部のクオリティが素晴らしい。

6年春の時点では早稲田が第1志望。でも3月の面談でタケノコから「武蔵の問題が合っていると思いますよ」というお話を頂いていて、学校ホームページを見ると、武蔵の自由さや学びへのアプローチが本人に合っているのではないかと、思えました。そして武蔵ならばアントレについていけば安心という気持ちもありました。そこで本人を連れて説明会に参加したところ、<わくわく・わいわい>学問をする、に惹かれた

ようで、武蔵に行きたいと言い出しました。武蔵には、自由でありのままだが認められる雰囲気、先生も生徒も自分の言葉で伝える力があり、プリントなどの説明がとてもわかりやすい、という印象を持ちました。

都立の受験なども当初は考えていたのですが、別に対策が必要になることと、結果が出るのが遅いことから断念しました。何より、本人志望の武蔵に合格しても、学費などを考えて迷う状況になるのがかわいそうだという思いもありました。

2/1 の武蔵受験が決まると、自ずと併願が決まってきました。1 月には試験慣れのためと合格を取って自信をつけるため栄東を1 回のみ受験。2/2 は生物部に惹かれた桐朋（実は兄のリベンジ受験でもある）。算数1 科には不安があるので午後受験はなし。悩んだのが2/3 です。朝はまだ武蔵も桐朋も結果が出ていないので、どこか受験しておく必要がありました。よくよく考えて、大学受験でリベンジができ、通いやすく、広々として環境が良い学習院を受験することにしました。万が一、武蔵も桐朋も残念だった場合は、2/4 は高輪Cを受験するつもりでした。兄の母校で、男子の扱いに慣れた先生方のいるとても素敵な学校です。高輪ゲートウェイ駅ができて通学もしやすくなりました（宣伝）。

◆6年生後期◆（Sクラス）

後期になると、通常授業と土曜入試演習、自宅での過去問演習、模試と忙しくなりました。9月後半からは1日1枚武蔵プリント（算数）を進め、続いて武蔵算数と入試演習の復習を直前まで繰り返していました。過去問と共にすべてスプレッドシートで進捗管理して頂けるので、サボらずに進められて有難かったです。

第1志望の過去問は大体11月頭頃には1週目を終え、その後は第2志望の日曜日に、第1志望の算数の間違った問題を平日に解き直していました。武蔵の算数は過去問間違いノートを作り、直前まで見直しできるようにしていました。

入試演習、武蔵プリントと武蔵対策ばかりしていて、他の学校は大丈夫なのか？と初めはやきもきました。桐朋は算数の問題数が多く時間内に解ききれず、初めての過去問は35点。4科で合格最低点に届いていても、算数でだいぶ下げている状態でした。学習院は社会がしっかりと知識が必要でやっかいです。それでも、白板正答率表を見ながら夏の白板の苦手単元を解き直すことを地道にやっていた成果が表れ、10月後半ぐらいから算数の得点が伸びてきました。普段の白板もだいぶ〇がもらえるようになり、花丸ももらってジュースやお菓子をゲットしたりと、算数に自信を持てるようになってきました。

入試演習は、15回のうち14回合格、1回不合格でした。不合格の時は算数がなんと12点で、先生にも、さすがにほかの科目でカバーできないねと笑われたみたいです。

参考：

合不合判定テスト偏差値（4科）	60.0	65.0	61.2	60.3	—	65.7
学校別サピックスオープン（武蔵） 合格可能性	1回目	80%	2回目	50%		

◆1月・入試直前期◆

12月まではまだ受験の実感が親子ともあまりなく、大みそかと元日も完全に勉強はお休みして、紅白を観たり初詣に行ったりのんびりしていました。冬期講習が終わるといよいよ埼玉受験。小学校もお休みして自宅学習期間に入りました。

この期間には、算数の復習のほかに社会に時間をかけました。武蔵の社会は記述式で、知識の土台がしっかり必要なうえ知識だけでは解けないので、入試演習でも一番苦戦しているように感じました。そこで、頂いたのに手つかずだった論述プリントを使って、質問を投げかけたり家族で議論したりをはじめました。また、歴史を政治・文化・商工業・宗教別に流れを整理して繰り返し読み込んだり、テキストの目次の言葉を説明してみるなど、本人なりの工夫をしていました。

◆入試本番◆

- ・1/10 栄東中学校A日程→合格（難関大）

我が家からはとても通える距離ではないので、あくまで試験慣れのための受験でした。本校での受験は移動がかなり大変そうだったのであえて出願を遅らせ、栄北高校で受験しました。駅からは近く比較的楽だったのではと思います。過去問は前年度を1回のみ。本人は緊張などはなかったようですが、理社は時間が足りなかったと言っていました。点数と順位の開示があり、上にたくさんの受験生がいることがよくわかりました。

- ・2/1 武蔵中学校→合格

過去問10年分。

天気も良く、体調も良く、緊張もせず。算数は、大問4の（3）以外はできたと思うと。いつも通りできたなら大丈夫と思うものの、結果を見るまでは落ち着きませんでした。2/3の学習院に送り出したあと、父母で合否を確認。最後の試験後、「受験終わりだよ、おつかれさま」と迎えました。3年間頑張ってきた

た息子を笑顔で迎えてあげられて嬉しかったです。

・2/2 桐朋中学校（2回）→合格

雪が降りそうな寒い日でした。

過去問は第2回のみ5年分。理科はコアプラスにはない問題が多く難しめだったそうです。

・2/3 学習院中等科（2回）→合格

過去問は第2回のみ3年分。算数は最後の問題に時間がかかったそうです。

当日朝の Zoom での入試応援は、7時～8時の間どこでつなげるか、各回事前に決めておきました。初めての時は、乗り換え駅の隅で繋げたら周囲が意外に静かで、「今日初めての受験だけど、タケノコは心配していないからなー！」というタケノコの声が響き渡ってしまいました……。外で繋ぐときはイヤホンした方がいいです。

◆最後に◆

お伝えしたいことがありすぎて、長くなってしまいました。母にとってはあっという間の3年間でした。余計な不安やストレスを感じることなく、アントレを信じてお任せした日々でした。本人にとっては、この3年間はきっととても濃密な時間だっただろうと思います。アントレという小学校以外のはじめての居場所で、自分を試し向き合い、同じ目標を持ったお友達と切磋琢磨する時間を持てたことが、きっとこの先の人生の財産になってくれると思います。

大手塾がひしめき合う中で、アントレを見つけ出せたこと。結果がどうであっても、アントレで学ばせて良かったと2/1を前にして思えたこと。子供の望む進路を叶えられたこと。子供が自分らしさを失わず成長できたこと。すべてが有難く、感謝の気持ちでいっぱいです。

一緒に頑張ってくれたお友達、担任のタケノコ・清水先生、兄の時からお世話になった練馬教室の先生方、入試演習を見てくださったひばりが丘教室の先生方、お世話になり、心からありがとうございました。

佐藤煌平くんのお母様

【入塾のきっかけ】

小学3年生の12月末、煌平と同じ歳で同じ小学校に通っている姪っ子が「中学受験をしたい」と言い出し「じゃあ俺もそうする～」ということで中学受験をすることになりました。私も妹も上の姪っ子たちや煌平の姉もみんな中学受験をしてきたので特に抵抗はありませんでしたが、煌平はどちらかと言うとスポーツが大好きであり勉強は得意ではなかったので中学受験はしなくてもいいかなと考えていました。この頃、野球・サッカー・水泳・公文を習っていて中でも野球（月曜日）はできる限り続けたいということで月曜日に授業がなかったこと、体験授業が楽しかったことからアントレへの入塾を決め、姪っ子と2人で仲良く通うことになりました。

【学校選び】

入塾当初から姪っ子は「日大二中に行きたい」と言っていました。案の定煌平も「じゃあ俺もそうする～。一緒に日大二中に通う。」ということで一緒に日大二中を目指そうということになりました。

煌平の学校選びの条件は

- ① 野球部があってそこそ強いこと（夢はプロ野球選手になることで、甲子園に出たいと思っている）
- ② 共学であること（①がダメでも②の条件は外せないとのこと）

です。5年生の時に初めて日大二中を訪問し学校説明会に参加させていただきましたが、アクセスもよく野球ができるグラウンドもありとても気に入った様子だったのでそのまま日大二中を第一志望校とすることにしました。

その後、この2つの条件に合い、かつレベル的にも目指せる学校を探した末に穎明館が併願校として候補に挙がりました。自宅からは少し遠いのですが学校内に広いグラウンドもあり、私の希望する完全型の中高一貫校で一学年あたりの人数も多くなく、野球を伸び伸びとやりたい煌平には合っているのではないかと思います。実際に訪問した文化祭では生徒たち発案の様々なイベントが行われていて自主性を尊重してくれる楽しそうな学校という印象でした。6年生の11月には野球部の体験会にも参加させていただき、本人も6年一貫でできる野球部に魅力を感じたようで第二志望校にしようということになりました。

また、家から自転車で通えることと校舎が新しいということなどから1月は開智所沢に絞り、第三志望校としました。

【入塾後のクラスや成績】

5年生になってからの成績は理科と社会は全くできずに常にCクラス。国語も漢字が苦手なCクラス。算数はBとCを行ったり来たりしながら大体はBクラスでした。6年生の夏休み明けには国語が伸びてきたものの算数が逆に落ちてきてしまい9月や10月に解いた過去問は合格最低点に50点くらい足りず。合否合判定テストでは回を重ねても成績は伸びるどころか下降気味。このままでは日大二中は到底無理だろうという成績でした。家では15分勉強したら5分休むくらいの集中力しかなく「こんなんじゃ日大二中無理じゃない?」と言ってみてもなかなか勉強はしないし、一生懸命に勉強して苦手な漢字ができるようになったときは「やればできるじゃん!」と褒め続けましたが効果は一時的。併願校どころか本命校も考え直さないとはいないかなと思っていました。

～合否合判定テストでの偏差値と日大二中の合格可能性～

回数	偏差値	判定
第1回(4/7実施)	41.2	50%
第2回(6/30実施)	39.2	45%
第3回(9/8実施)	42.7	70%
第4回(10/6実施)	39.3	45%
第5回(11/17実施)	36.4	20%
第6回(12/1実施)	38.3	40%

【いよいよラストスパート】

受験は夏からラストスパートと聞いたこともありますが、煌平の性格上、半年も維持することは難しいだろうと思っていたので秋ぐらいからはしっかりと、と思っていましたがエンジンがかかったのは12月の冬期講習前。ちょうどこの頃になって過去問も合格最低点がギリギリ取れるようになってきました。ここからは本当にラストスパートだと感じたのでとにかく褒めて今のモチベーションを継続させることが私の役割だと思いました。「今まで引き出しにいっぱい詰め込んできたんだけど、どの引き出しを開けるかが分からなかっただけ。やっと開ける引き出しがわかってきたんだよ!」「今のままの実力なら受かるよ!あと1か月維持できたらきっと受かるから頑張りな」などなど。スマホで音楽を聞きながらではありましたが机に向かっている時間は確実に長くなっていました。

【1月受験】

開智所沢は過去間で合格点を取れる回もでてきていたし、複数回受験する事での加点もあるので第2回入試で受ければいいかなと思っていましたが、今年の受験者数は昨年の比ではなく、日に日に増える応募者数を見て少し厳しいと感じていました。そのため、本人にも今年の人数を説明してあまり期待を持たせないようにしました。案の定不合格が続き、さすがに少しへこむかと思いきや、テレビを見てケラケラ笑っていて全く気にしていない様子。あまり落ち込みすぎるとは思いますが少しはへこんでほしかったくらいです。過去間でも本試験でもそうですが、なぜか特待B入試が一番合っているようで、最終日の特待B入試が一番自信ありそうでした。けれど結果はあと4点足りずに不合格。開智所沢で合格を取っておいで安心材料にするはずでしたが、私の方が少し不安になってきました。予定外に開智所沢に全落ちし、他の埼玉県校の学校を受験するか聞いてみましたが「俺は絶対に受かって日大二中か穎明館に行く。だから他は受けない。」ときっぱり。その強い意思に私も覚悟を決めました。

【2月受験】

2月1日の午前中は予定通り日大二中を受験。学校に入ったところでアントレのお友達と会い、緊張がほぐれたのかこちらを振り向くこともなく、嬉しそうに一緒に受験会場に入っていました。ホールの保護者控室の暖房はそれほど効いておらず暖かいという感じではなかったです。良かった点は試験が終わるころに学校内に関東バスが複数台待機していて、荻窪駅までの臨時直通バスを利用することができたことです。その後荻窪駅から中央線に乗り、午後の試験会場となる穎明館中学まで行きました。日大二中とは対照的にホールの控室がとても暖かく、また先生方からも様々な配慮があり空調は快適でした。ただ、テーブルはなかったので長時間スマホやパソコンをしながら待つには少し疲れました。

穎明館から帰宅するとすでに19時近く、午前中に受験した日大二中の合格発表まであと1時間ほどになっていました。もしかすると翌日も受験かもしれないので早くご飯を食べて早く寝なくてははいけないし、と帰宅後も慌ただしく、夕食が終わるか終わらないかといった頃に発表の20時を迎えることになってしまいました。家族みんながスマホの画面に注目し、受験番号と生年月日を入力して「押すよ、押すよ、せーのっ!」と言って発表を見るボタンを押したところ、なんとiPhoneから「パスワードを保存しますか」の表示。この表示とかぶって発表画面が見えず(笑)焦った私も「保存する」でも「保存しない」でもどちらでもいいので押せばよかったのですが一瞬パニックでどちらを押すか迷ってしまい、右往左往。どちらかを押して表示が消えたその先には「合格おめでとうございます」の文字。背景がピンク色だったので文字が見える前に受かった?とみんな思ったようですがはっきりと文字を見た時には安堵感やら疲労感やら嬉しさやら、いろいろな感情が湧いてきました。「おめでとう!よかったね」と声をかけたのもつかの間「早くアントレに電話しなきゃ!」と言って本人から報告させていただきました。

その後22時の穎明館の発表は合格者番号が一覧表になっている形式で時間よりも早く掲載されていました。穎明館の過去間は算数では満点を取れることもあったので自信があったようですが、2月1日の午後入試は今年からの新設回で開智所沢同様に受験者数が想像よりも多く、不安もありました。けれど結果は合格。私はこれで本当に受験が終わったと思いましたが、日大二中と穎明館のどちらも気に入っていた煌平は両校から合格をいただき、選択をしきれない状態でした。日大二中の手続きの締め切りが2月3日の12時までなのでそれまではじっくりと考えていいので最終的には自分で決めるようにと伝えました。両校のメリット・デメリットを1日半考えた末に、煌平が出した答えは日大二中でした。同じ通学時間なら穎明館と即答するくらい本当は穎明館に行きたかったようですが、通学時間等を考えて決断したとのこと。締め切りの2時間前に無事入学手続きを済ませ、私としてはこれでやっと本当に終わりを迎えることができました。その後2月7日の朝に開智所沢より繰り上げの対象になった旨の電話連絡がありましたが、ありがたくお断りさせていただきました。

【最後に】

アントレは予習型の塾であり親子二人三脚で勉強を頑張らないといけないことは承知していましたが、仕事の関係上、勉強に付き合っただけでほとんどできませんでした。それにも関わらず、ずっと志願していた第一志望の学校に受かることができたのは本当にアントレの先生方のおかげだと思います。9月の保護者会で『夏期講習テスト結果と進学先』の資料を見た時は日大二中に進学した子たちに比べて50点くらい足りておらず、日大二中への合格は難しい、今から見学できる学校はあるかと不安に思うこともありましたが、けれど今では最後まで志望校を変えずに貫き通してよかったと感じています。保護者会でも話があったように合否判定テストはレベルに合っていなかったのかもしれませんが、学校によって出題傾向も異なるのでそれも大きなポイントになるかと思います。12月の合否判定テストがこんな結果でもそこから2か月の伸びしろはまだあります。それなので諦めないで頑張ってください。

最後になりましたが勉強が苦手な煌平にしっかりとまた丁寧にご指導いただきましたアントレの先生方に心より感謝致します。3年間ありがとうございました。

鈴木証くんのお母様

的確な指導と温かい応援・励ましで合格へと導いて下さったアントレの先生方、個別の先生に心から御礼申し上げます。最後まで諦めずに、目標に向かって親子共に走り続けることができたのは本当にアントレのおかげです。アントレの「受験体験記」は、先輩方からの貴重な情報・アドバイスの宝庫で、私自身、悩んだときには何度も読み返しました。我が家の受験の記録もまた、少しでも誰かのお役に立つことができれば幸いです。以前のように、週末はサッカーの練習に行き、平日は学校から帰ってきて直ぐに公園へ遊びに行くようになった息子を眺めながら、長かった受験生活を振り返りつつ、この体験記を書きたいと思います。

【入塾】

姉の都立中学受験の経験から、適性検査型のみでの勉強による受験の厳しさと併願校の選択肢の少なさを実感していました。そのため、もう少し選択肢を広げる目的で、息子と一緒に私立の合同説明会に参加したところ、息子が興味を持ったのが城北中学でした。早速、近場で城北中学の受験に強そうな塾を探したところ、アントレを知りました。体験授業の結果、他塾に比べて「アントレは授業が楽しい！」と息子が言ったので、アントレに大変魅力を感じましたが、アントレは予習（親のサポート）が必要な塾、夜にはお弁当も必要になるという点が、これまで通っていた都立対策の塾とは異なっており、共働きの我が家で、まずは自分がちゃんと必要な任務を遂行できるかととても不安でした。けれど、学校のお友達が既にアントレに通っており、そのお友達のお母さんも相談にも乗ってくれて、私自身の気持ちも固まり、4年の冬期講習よりアントレに転塾しました。

【4年冬期講習～6年夏休み前】

アントレでの初めての面談で対応してくれたのはポッキーでした。これまでの都立対策の勉強内容では冬期講習の内容がカバー出来なかったため、予習に必要なテキストをポッキーに沢山コピーして頂き、親子で一緒に駆け込みの予習をして臨んだ冬期講習となりました。Bクラスからのスタートでした。5年の4月、息子が学校のお友達と記念祭(文化祭)に遊びに行き、一気に憧れたのが武蔵中学でした。家から近く、キャンパス内の自然豊かな環境(小川・大木・ヤギ)、伝統ある建造物(神殿のようがかっこいい!)、自調自考の研究肌な雰囲気が入りました。「友達と一緒に武蔵に行きたい!」と、目標が武蔵へと変わりました。5年前期の途中からAクラスに上がり、白板の成績も悪くはないものの、まとめテストでなかなか良い結果を出せない日々が続きました。6年のカリキュラムへと変わる2月、これまで続けていたサッカーにも区切りを付け、一旦サッカーの練習はお休みすることに決めました。6年前期には武蔵算数のクラスに通うも、クラスはずっとAクラスのまま。武蔵を目指すとなると、俄然「Sクラスに上がりたい!」という気持ちが強くなりましたが、デカッチョに「次のテストが良く出来たらSクラスに上げてあげる。」と言って頂いた時にも、ここぞという時に結果を出せず、悔し涙を流しました。まとめテスト(算数)の前になると、緊張からか足が震えたり腹痛を起こすようになりました。そこで、少しでもお腹の調子を良くするためにお弁当に温かいスープも持たせるようにしました。そして、Sクラスに上がるにはラストチャンスと思われた6年夏休み前、この時もテストの結果は決して良い出来ではありませんでした。しかし、ずっとSクラスに拘っていた息子は諦めきれず、Sクラスに上げてもらうことができないかデカッチョに相談することにしました。するとデカッチョより、「正直なところ、点数的にはやや物足りない部分があり、本来であればSクラスに上げるのはきついかと思うのですが、本人のやる気にかけて、夏期の第一期を試しにSクラスで受けてみてください。各期ごとのテストで結果を出すのは大変だと思いますが、何とか食らいついて欲しいです。」と言って頂き、夏期講習の初めの1週間、お試しでSクラスに行かせてもらえることになりました。

【6年夏期】

夏期講習1日目の夜、タケノコより夏期講習の予習用に5年前期～6年前期までのSクラス白板コピーを頂きました。武蔵算数のクラスでカッシーにお願いしても、「Sクラスに上がったらあげるね。」と、もらうことのできなかった念願のSクラス白板コピーです。Sクラスに上がった喜びもあり、夏休みの間ひたすら解き続けました。途中でAクラスに戻されることも覚悟で挑んだ夏期講習でしたが、第二期以降も残れることになり、そのままSクラスで頑張りました。ある時、過去のSクラス白板の問題についてタケノコに質問に行ったとき、ノートを見たタケノコに「Sクラスの前期の白板、こんなにやってるんだね!根性あるな〜!」と褒めてもらえたそうで、とても喜んでいました。

息子はもともと国語が苦手で、国語のこともずっと気になっていましたが、6年夏期の勉強の進め方についてタケノコに相談すると、「現時点では国語に時間を割くより算数を頑張った方が良い。国語の演習は後期にこなしていくから。」とアドバイスを頂き、完全に算数の学習に傾けた6年夏期となりました。

【個別】

息子の希望により、6年9月から個別もお願いしましたが、個別には本当に助けられました。西殿先生とい

うベタランの先生に教えて頂けることになり、過去問や武蔵入試演習等、理解が不十分な問題の復習や解説をして頂きました。疲れている日も、西殿先生の個別の時間になると元気に出かけ、スッキリとした表情で帰ってきました。6年12月中旬、「こんな大事な時期になぜ?!」というタイミングで水疱瘡にかかってしまったときには、一週間アントレにも通えず精神的に大ダメージでしたが、西殿先生にお願いすると急遽 Zoom 授業で対応して下さい、年内最後の個別授業を無事受けることができたときには、親子共に心が救われました。

【模試】

四谷大塚の合不合格判定テストの結果は、ずっと4科偏差値で56付近でした。理科や算数で60を超えることがあっても国語や社会が足を引っ張りました。また、最後の第6回のテストでは、全体的にこれまでより大きく成績が下がり、他より得意と思っていた算数もミス連発、国語もどん底の結果となりました。さすがにこれはやばい…(もう疲れた…やる気も出ない…)と落ち込んでいると、タケノコが三者面談をしてきて「武蔵志望の子でも、国語は案外みんな点数とれてなかったから、参考までに過去の子の点数見あげる!」とデータを探して比較してくれましたが、息子ほど低い偏差値をたたき出した子が見つからず、「…もう、この試験は相性が悪かった。無かったことにしよう(笑)!」と励ましてくれました(泣)。また息子に、「一旦、基礎に戻ろう。疲れたときは難しいことはしないで、基礎に戻ることを忘れないで!」と、歩みを止めずにゆっくりでも前に進むための声かけをしてくれました。

四谷大塚の合不合格判定テストでは、武蔵中学はずっと不動の判定20%でしたが、学校別サピクスオープン(武蔵)は9月が40%、11月が60%で合格点を僅かに超え、このときは親子共に少しだけ元気が戻りました。

【武蔵入試演習と志望校決め】

武蔵入試演習は「全15回のうち10回くらい合格がとれたら大体受かる」という目安がある中、12回が終わった12月半ばの時点で息子の合格は3回だけでした。頑張って補欠を合格とみなしカウントに含めても6回。12月半ばという土壇場になって、親の方が「本当にこのまま武蔵を受けることでよいのか…」と迷いが生じてしまいました。第2志望の巣鴨も、12月半ばの時点で過去問の手ごたえとしては決して安心できる状況ではなく、息子の気持ちが一番大切であると頭では分かっている、より現実的な提案をしてあげるのが親の役目なのではないかと本当に悩みました(この時期、不安から涙が止まらなくなりました。親が泣いてちゃダメですが…)。それとなく私や夫から「第一志望変えた方がよいのでは…」と息子に話をするも、息子は「僕は武蔵を受けたい。」と言い切りました。そこで頼ったのがタケノコでした。タケノコに親の迷いについて相談をしたところ、「Sクラスに強く拘ったり、武蔵Tシャツを着てずっと頑張っていたこれまでの彼の武蔵に対する気持ちを汲み取ってあげると、今から2/1校を変えるのはよくない。2/1校を変えさせることは、本人の受験ではなく親の受験になってしまう。このまま2/1を変えて巣鴨に受かったとしても、「あのとき武蔵を受けていたらどうなっていたのだろう」という心のしこりが残ったままになってしまう。もっと早い段階で、例えば入試演習の7~8回とかで区切って、そこで見極める等していればよかったが、この段階にきて変えさせるのは彼に失礼。」「親ができることは、全落ちを防いであげることぐらいです。」という言葉ももらいました。目標にまっすぐ向かおうとしている息子と話をしながら、改めて、タケノコの言う通りだと思いました。親が覚悟を決めた12月末でした。ちょうど大晦日に、たまたま目にした受験に関する記事も胸に刺さりました。『子供を一人の人格として認め、自分の人生を切り開いていけるはずだと信頼していること。本人が選ぶことに絶対的な価値があると信じている。それが子どもにとっては「励まし」になる。』

第1志望はずっと憧れてきた武蔵。そこは変えずに、埼玉校は実際に通うことのできる学校を確保したいという思いで、当初考えていた栄東ではなく開智所沢に決めました。そして第2志望は巣鴨、第3志望は成城としました。6年夏休みの時点では、巣鴨か城北か過去問との相性も見えていましたが、苦手な国語が、城北では物語文、巣鴨は随筆・説明文等(物語文は出ない)ということもあり、巣鴨の方が相性が良いと判断しました。説明会や文化祭へ行った感想としても、校舎がお洒落でキレイ、国際的な学びに積極的(英語のサマーキャンプ参加したい!)、伝統的な行事を本気で大切に(山登りなんか楽しそう!精神的にも肉体的にも鍛えられそう!)巣鴨に親子共々大変魅力を感じました。また、実際に巣鴨の生徒さんとお話することで、巷に聞く厳しそうな校風に対する不安も消えました。成城は、会社の先輩の息子さんが通っていて、もともと「面倒見の良い学校」「子供が本当に楽しく通っている」という話を聞いていたため印象が良く、またタケノコからも「子供の満足度が本当に高い学校」と聞き、元気に楽しく通うイメージから第3志望としました。

【1月 埼玉受験】

1/10 開智所沢・開智 第1回入試 → 合格・合格

1/11 AM 開智所沢・開智 特待A → 不合格・不合格

1/11 PM 開智所沢・開智 算数特待 → 不合格・準特待合格

1月10日、初めての入試で朝から緊張していましたが、開智所沢へ向かう途中でSクラスのお友達と偶然出会い、一気に緊張がほぐれました。初めてのZoom応援もちゃんと繋がるか不安でしたが無事繋がりと、タ

ケノコより「時間配分に気を付けてね」というアドバイスと共に「いってらっしゃい！」とさわやかに送り出してもらいました。会場はかなりの人がいましたが、息子は落ち着いた様子で会場に入っていました。試験が終わって出てくるなり、「算数、結構できた！」の発言。これまで「壊滅的…」「できなかった…。」など息子の悲しげな発言にすっかり慣れてしまっていた母からすると驚きのセリフでしたが、その日の夜、結果を確認すると無事「合格」でした。3839 人中 30 位くらいの好成績で、特に頑張ってきた算数で点数がとれたの合格だったので、家族で喜びました。

1 月 11 日、この日も開智所沢に向かいました。午前に特待 A、午後に算数特待を受けましたが、この日は終わった後、疲労困憊の様子でした。試験が終わったその足でアントレの入試演習に途中から参加。さぞかしぐったりで帰ってくるだろうと思ったら、なんとアントレで元気を取り戻して帰ってきました。「アントレは楽しいから元気が出る！」との息子の言葉に、アントレって本当にすごい塾だなと思いました。その夜、結果を確認するも残念…。今年は開智所沢の出願が倍増し、開智よりも開智所沢の方が合格基準点が上回りました(逆転現象)。算数特待では開智で準特待合格となるも、開智所沢では不合格…あと 2 点足りませんでした。開智所沢は 12 日以降も、特待を目指して更に試験を続けることが可能(複数回受験による加点もあり)でしたが、タケノコとも相談し、試験を続けることはやめ、その時間で 2 月対策を頑張ることに決めました。

【ラスト 3 週間】

1 月校の受験が終わってからのラスト 3 週間は本当によく頑張りました。タケノコの「例年、Zoom 自習室に嘯り付いて勉強していた子は受かっている。」という言葉信じ、息子も本当に始まりから終わりまで Zoom 自習室に嘯り付いて勉強しました。ラスト 3 週間の勉強の進め方もタケノコよりアドバイス頂き、「巣鴨と武蔵を 1:1 で頑張る。巣鴨は絶対にとる。」という方針としました。武蔵と巣鴨は傾向が全く異なるため、両方の対策が必要でした。巣鴨のために、夏の白板の復習を完璧にすること(これは武蔵の大問 1 の対策にも繋がる)、また理社の知識の復習に時間をあてました(お風呂やベッドの横に歴史の年号ポスターを貼り付け、寝る前には年号クイズもしました)。そして武蔵のために、武蔵対策プリント、過去問・入試演習(算数)の復習を丁寧に行いました(本来、やることになっていた 6 年前期の武蔵算数の復習はあきらめました)。また、武蔵の社会の対策として、ダンディに添削頂いた過去問の復習をしました。息子が特に気を付けなければならないポイントもアドバイスして下さり、本当に感動の神添削でした。けれど勉強を続ける中、14 回目の武蔵入試演習の結果も振るわなかった息子が、「武蔵、受からない気がしてきた…」とここにきて急に不安を口にしました。そこで、武蔵出身のポッキーに何かアドバイスをもらえないかなとアントレに向かったその日、普段会えないポッキーにこの日はたまたま会うことができ、悩みを聞いてもらい、モチベーションを上げるためのアドバイスをもらったそうです。ポッキーえんぴつも頂きお守りにしました。息子はそこからまた、自分で気持ちを奮い立たせ、頑張り続けることができました。1 月末には、夏の白板の復習と、粘り強く取り組んだ武蔵対策プリントの復習(できないところは付箋を付けて何度も繰り返した)のおかげで、基礎的な問題や、平面図形と速さの問題が良く解けるようになり、以前は出来なかった武蔵の過去問や武蔵入試演習の問題が大分解けるようになっているのを実感しました。巣鴨の算数も比較的安定して 8 割程度までとれるようになり、この 3 週間での急激な成長を感じました。最後の 15 回目の武蔵入試演習の結果も「合格」となり、最終的には「5 回合格、3 回補欠、7 回不合格」という結果となりました。3 回補欠を合格とみなすと半分は合格、勝負は五分五分である…と無理やり甘めの解釈をして、気持ちを強く持つようにしました。

あと、親としてできることは体調管理。適度な運動、免疫力を上げること、食事も普段通りを意識しました。朝には、社会の問題を出しながら、息子と二人で家の近くを散歩しました。朝の冷たい空気を吸いながらの朝の散歩は短い時間でしたがよい気分転換になったようです。またお昼前にはリングフィットで 30 分くらい体を動かすこともやっていました(軽く筋肉痛になるくらいの良い運動になっていました)。免疫力を上げるため R-1 も飲みました。あとはイメージトレーニング。家を出てからテストを受けるまでのイメージトレーニングを一緒にして、緊張をコントロールするための対策をしました(試験中、タケノコやラクダを召喚させて肩のあたりで見守ってもらうイメージトレーニングも勝手にしました。実際このイメージで、本番では少し落ち着くこともできたようです)。

【2 月 東京受験】

2/1 AM 武蔵 → 合格(進学先)

2/1 PM 巣鴨 算数選抜 → 合格

前日の夜は、早めに布団に入るも緊張してなかなか寝付けないうでした。2 月 1 日の朝、武蔵に向かう道中、まずはこの日を元気に迎えることができたことに本当に感謝しました。そしてタケノコとラクダの Zoom 応援に力を頂き、引き締まった表情で会場へと入っていきました。試験を終えて出てきた時の表情は…暗くはない。「特別できたわけではないけれど、できなかったわけでもない。」「算数は 60~70 点くらいかな。」という手ごたえでした。算数はやらない問題を見極め、復習にしっかりと時間をあてることができたそうです。武蔵をやり切ることが出来た…という安堵からか、巣鴨にはリラックスした状態で向かうこ

とができました。巣鴨の体育館(ギムナシオン)でお昼を食べた後、やたらとマッサージが上手な夫に首マッサージしてもらい、「この会場でお前ほど首がグルグルのやつ(首のコリがほぐれて調子の良い子)はいない！」という夫の謎の応援で息子を送り出しました。息子は特に緊張する様子もなく元気に会場に向かっていきました。試験を終えて出てきた時も表情は明るく、「最後の2問だけできなかったけど、あとは見直しもしたし、合ってると思う。」との発言。「これは合格できるかもしれない…」と期待をしつつ、結果を待つこととなりました。その夜、パソコンの前でピンク画面の「合格」の文字を確認し、「よしっ！！」と喜びと安堵の涙を流した息子を挟んで、夫と私も泣きました。夫はこれまでの人生において、うれし涙というものを流したことがなかったそうなのですが、これが人生初のうれし泣きとなったそうです。合格がもらえなかったら、また次の日から、巣鴨、成城、巣鴨、成城…と繰り返し受けていく予定を立てていましたが、巣鴨の合格を頂くことができたので、息子の受験はここで終わることに決めました。武蔵の結果が分かる2月3日の朝。残念な結果になったとしても、一生懸命頑張った結果。努力したことに意味があって、それは今後の人生で大切な経験になる…。心を整えてその時を待ちました。今年は運も味方し、国語は苦手な物語文ではなく随筆文でした。大好きな理科のお土産問題は、創立100年の時を経て、第1回の入試と同じ、3枚の葉っぱの観察問題という素敵な問題でした。「絵は得意な方だし…もしかしたら補欠になれている可能性もあるかもしれない…」などと考えながら、息子がクリックすると「合格」の文字が！「受かった！！！」あまりにびっくりして膝から崩れ落ちた私は「すごい～！！信じられない～！！良かったね～！！」と泣きながら叫んでいました。最後まで諦めずに走りきった息子の頑張りが実った結果となりました。息子は小さい頃からコツコツ努力派でした。初めは上手く出来なかったことも、コツコツと努力を続けて、いつのまにか出来なかったことが嘘のように上手になっている、そんなタイプでした。武蔵合格も、アントレの先生方に支え励まして頂きながら、目標に向かってまっすぐに努力を続けた結果だと思います。納得のいく受験へと導いて下さったタケノコ、本当にありがとうございました！「親の受験」を強いらなくて良かった。「息子の受験」を傍で見守り、応援・伴走することができて、本当に良かったです。あっくん、本当におめでとう！！

【最後に】

中学受験をすると決めたとき、息子が勉強嫌いになってしまうような受験にしてはいけないと思っていました。塾選びは「楽しく学ぶことができそう」という点に重きを置きましたが、本当にアントレは、子供に勉強の楽しさを教え、そして困ったとき不安なときには、いつでも寄り添い導いてくれた最高の塾でした。アントレとの出会いには感謝しかありません。支えてくださったアントレの先生方、個別の西殿先生、アントレのお友達の皆さん、本当にありがとうございました。すっかりアントレロスの息子ですが、お菓子を持ってアントレに遊びに行くことを、今からとても楽しみにしています。アントレの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

高柳明日香さんのお母様

入塾

体験授業が楽しかったことからアントレ入塾を決め、新4年生として2科Cクラスでスタートしました。1か月後Bクラスに移動、4年後期からは理社の受講も始め、Bクラスで最後までお世話になりました。

学習

5年生になり算数の難易度が一気に上がり自力での予習が大変になりました。私自身中学受験の経験もなく、夜な夜な予習シリーズの解説を見ながら問題を解き、翌日に娘と一緒に予習するようになりました。お恥ずかしながらその体制も5年の後期からは厳しくなり、またその頃父親が海外へ赴任した為勉強以外でも頼れる人も家庭の雰囲気を変えてくれる人もおらず、娘と2人で父々とする一番きつい時期だったように思います。私が一方的に怒り、反抗しない娘はシクシク泣く・・・このままでは受験も親子関係もまずいと予習シリーズ解説の体験をお願いするも、少人数であるがゆえに演習など自分待ちになるのがプレッシャーのようで断念、個別指導をお願いすることにしました。わからないところは自分のペースで個別の先生に教えてもらえる！この事が親子共に本当に救いとなりました。素直で真面目な娘の頑張りもあり、まとめテスト、四谷合判テスト、入試演習と波はあるものの娘の戦い方（国社で算理をカバー）で順調に伸びてきたように思います。

志望校について

第一志望を富士見中学と共立女子中学で悩み、どちらも何度も学校へ行き部活や体験授業などにも参加しましたが決めきれずにいました。夏休みの宿題であった第一志望校の過去問2回分は富士見と共立を行いました、どちらも合格最低点に点数足りないと言う同じような感じとなり更に悩んでしまう結果となりました。内容に関しては、苦手な算数は共立、得点源である国語は富士見の方が解きやすい等あり、過去問への取り組みの重要性を再認識しました。ただ娘の中では、校舎が明るく綺麗なところ、制服の可愛さ、家から自転車で通う事となる近さで富士見がいいと思っていたようです。

受験直前期

12月末くらいからやっと算数の過去問2周目に取りかかりました。1周目より点数がとれなかったらどうしよう・・・親子でドキドキしながら採点したのをよく覚えています。心配をよそに前回は大幅に上回るでさだたり、わずかな点差の回もありましたが、その回は復習後数日以内に再度取り組み高得点で終わらせ自信が持てるようにしました。過去問の算数に関しては何となく大丈夫！と思えるところまでできましたが、実は国理社は過去問2周目どころか国社は1周目のお直しすらできていませんでした。猛烈に焦り、残り2週間は過去問理科を分野別に流して、社会はあまり点数が良くなかった回のみ2周目をやりました。国語は【大丈夫、あなたが難しくくてできないと思った問題はみんなできない、自信を持って！】と最後は強引な精神論・・・もう1つ、まだ2/2の午後以降の受験日程も決めかねており、この時期にして井手先生に面談をお願いしてしまいました。本当にドタバタ、ブレブレの恥ずかしい母です。

受験

1/10	午前	星野学園進学	合格
1/10	午後	星野学園理数選抜	合格
2/1	午前	富士見	不合格
2/1	午後	跡見学園特待	不合格
2/2	午前	富士見	合格
2/2	午後	十文字	合格S1特待

過去問や合判、入試演習等から2/1でどちらか、あるいは両方合格できるのではと思っていただけに親子共に落ち込みました。受験スケジュールを決める中で「私2/2まで合格もらえなくても大丈夫だと思う」と言っていた娘はやはり泣いてしまい塾に電話することができませんでした。一刻も早く塾へ報告し明日からの相談をしなくてはと思い、私から富士見不合格とこれから発表の跡見も

厳しかった旨ご連絡しました。あわせて娘は泣きながらも「明日も富士見と跡見に行く」と言っていることも・・・

その後少し元気を取り戻した娘にあまりやっていた十文字の算数のみ過去問2回分解かせた後、明日は十文字に行こうかと相談し急遽出願しました。

明日の準備を終え23:56過去問でも毎回何十点も合格最低点を上回って自信のあった跡見にもう一度チャレンジさせるべきだったのではないかと急に後悔が襲い慌てて跡見の出願をするもタイムオーバーとなったことは富士見の合格が決まった後に娘に話しました。

結果的には第一志望の富士見に進学できることになりましたが、娘を特待生として評価してくださった十文字に対してもとても有難く思っています。

娘に「ごめんね、もっと受験日程の組み立てを考えて2/1午後で合格もらえるようにしたらあんな辛い気持ちにならなかったかもね」と話をしたところ「もしそうなら富士見はあきらめて十文字に行っていたかも」と・・・あらためて受験日程を組む難しさ痛感しました。

最後に

アントレの先生方、こんなにも大変な中学受験を楽しくかつ、最高の結果に導いて下さり本当にありがとうございました。塾に行きたくないと言った事は一度もありませんでした。

個別指導の西殿先生、松田先生、リアクションの薄い娘だったと思いますが、丁寧なご指導と的確なアドバイスをありがとうございました。そしてクラスメイトの皆さん！皆さんとの出逢いと共に学んだ塾生活は大変だった受験生活の支えとなりました。本当にありがとうございました。

長尾快翔くんのお母様

まずはこの場をお借りし息子の中学受験をサポートいただきアントレの先生方に厚く御礼申し上げます。息子は3年間アントレでお世話になりました。アントレが大好き、白版命の彼にとって本当に充実した日々でした。私も主人も中学受験未経験の右も左も分からない初心者で、何回もこの受験体験記を読み本番を想定した準備をしてきたので、これから受験される方の参考になれば幸いです。

【クラス返還】

4年→Bクラス、5・6年→Aクラス、入試演習クラス 男女中堅上位→男子上位→男女中堅上位（1月受験で少し自信を無くしていたので、永田先生に相談し中堅に変更）

【入試結果】

[1月]	[学校名]	[合否]
1月10日	午前 栄東（東大・難関大）	不合格
	午後 城北埼玉（算理 特待）	合格
1月11日	午前 栄東（A日程）	不合格
	午後 開智所沢（算数特待）	不合格
1月12日	開智所沢	不合格
1月16日	栄東（B日程）	不合格
[2月]		
2月1日	芝浦工業大学附属中学	合格→進学
2月2日	明治大学付属中野中学	不合格

【入塾のきっかけ】

息子は当時クイズの番組が大好きで、録画をしては繰り返し見ていました。その番組に栄東高校が出演し、東大王に勝利したのを見て「俺もここの学校に行って、東大王に出たい！受験する！」から始まり、アントレの体験授業を受講した際に「この塾に行きたい、楽しかった」と即答したのがきっかけで入塾しました。知り合いから塾の評判も聞いていて、アットホームな雰囲気が素敵だなと思いました。

【4年生Bクラス】

公文である程度の勉強習慣はついていましたが、苦手な国語に大苦戦。アントレの予習は理科、社会もテキストを読んでから問題を解くので字を読むのが苦手な息子にとって、算数以外の教科は慣れるまで大変でした。正直この子に受験ができるのかという不安しかなかったです。何度も辞めるなら早いうちにと話し合いもしましたが、1度も塾を辞めたいということはありませんでした。大好きな算数はテストで上位に名前が載ることがあり、それが嬉しくて通塾していました。

【5年生Aクラス】

村上先生に希望校を伝えAクラスに上げていただきました。5年生になってからも読解力が欠けていたため、補助教材として四谷大塚の進学くらぶ（動画配信）で毎週予習をしてからアントレで授業を受けることにしました。進学くらぶはアントレと授業ペースが一緒なので助かりました。私が勉強を見ると親子喧嘩が勃発するので、通信教材を使って良かったです。

【6年生Aクラス】

国語を強化するため、個別の先生に1年間見ていただきました。夏期講習を終えたあたりから、少しずつ国語の理解力がアップ。普段は白版の話しかしない息子が国語のテストの内容も伝えてくるようになりました。夏期講習は国語・算数は4科のまとめを中心に理科・社会はコアプラスの暗記を中心にやりました。夏期講習の白版は12月までに3周はやったと思います。合不合格テストの栄東（第一志望校）の合格率は20～40%でしたが過去問は日を追うごとに点数も安定してきたので、最後は少し希望を持ち受験当日を迎えました。

【埼玉受験】

●1月10日（午前 栄東、午後 城北埼玉）

どの学校を見学しても、最後まで栄東の第一志望が変わらずチャレンジ校として受験に挑みました。受験初日ということもあり親子で緊張していました。ZOOM 応援もガチガチに固まっている様子が先生にも伝わっていたと思います。試験終了後、本人は冴えない表情で「算数できなかった。」と少し落ち込んでいる様子でした。午後の城北埼玉（算理特待）は過去問の出来が良かったので自信もあったようです。その日の夜に合格をいただき、翌日の栄東に少し余裕を持って受験できました。

●1月11日（午前 栄東、午後 開智所沢）

ホテルの朝食バイキングを息子と2人で食べ、「城北埼玉のお守りもあるし、今日はリラックスして受験してきてね！」と、良い雰囲気ですり出すことが出来ました。試験終了後「昨日よりできたけど、算数が過去問より難しかった。」と不安そうでした。午後は開智所沢（算数特待）を受けましたが、当日不合格通知。

●1月12日（開智所沢）

この日は午前10時から栄東の合格発表で、午前中に開智所沢の試験。息子から合否をすぐに教えてほしいとのことだったので、10時に合否を確認。2日間とも不合格を確認した瞬間、ここまで頑張ってきた息子にどのように伝えれば正解なのかとても悩みました。開智所沢の試験終了後、すぐに本人に報告し帰宅。ショックで泣いたりするか、心配しましたが「まだB日程あるから！今日何やればいい？」と午後から気持ちを切り替えいつも通り過去問に取り組みました。今思うと、親の私の方が焦っていて本人は本当に冷静で最後までやり切ろうとしていたと思います。開智所沢はまた不合格通知でしたが、気持ちを切り替えて栄東対策！

●1月16日（栄東B日程）

B日程は、A日程より少し問題が易くなるため過去問も合格基準を超えていました。本番も今まで通りにできればきっと大丈夫と送り出しました。試験後本人からの発言はなし。きっと不合格が続いてテストの出来栄えについて言いたくないと思い、私からも何も聞きませんでした。翌日、結果発表を本人が確認した瞬間倒れ込んでしまいました。あと6点。残酷な結果に3時間程、ソファにうつ伏せになり動けない様子でした。そして塾に本人が結果報告。今日はどうしても塾には行きたくないと永田先生に連絡し、1日ゆっくりすることにしました。栄東が第一志望の息子にとって、埼玉受験がピークであり東京受験まで気力が持つ心配でしたが、数日で気持ちを切り替えてくれました。また最後の入試演習クラスでは、初めて1位が取れ東京受験に良い雰囲気で挑めました！

【東京受験】

●2月1日（芝浦工業大学付属中学）進学先

第二志望校だった芝浦ですが記述の問題が多くリスニングもあり、過去問の相性が悪く合格点もスレスレ。2日連続で受けるか悩みましたが、永田先生に相談し2月2日は合格点が取れていた明大中野を受験することにしました。試験当日は緊張していたと思いますが、試験会場に向かう間も塾の思いで話をし見送りました。当日20時に合格発表があったのですが、明大中野の試験に集中するため合否は次の日に送り出してから確認すると決めていました。

●2月2日（明治大学付属中野中学）

この日は主人と息子で会場に向かい、私は駅まで送り帰宅後直ぐに芝浦の結果を確認。パソコンに合格の表示された瞬間、本当に嬉しくてやっと息子の努力が報われたと思いました。そして、問題が解けていたはずの明治中野は不合格。明治中野は4日も受験予定でしたが、家族で話し合った結果受験終了。翌日、永田先生に報告した際に『本当によく頑張った!!、栄東はもう少しだったから悔しいけど良い経験ができたね。』と言っていただけで息子はやっと受験が終了したことを実感した様子でした。

《最後に》

入塾時に感じたアントレのアットホームな雰囲気は最後まで息子にとって最高の環境でした。アントレの先生、個別の新本先生、そして塾のお友達も大変お世話になりました。こんなに充実した3年間は息子にとって一生の宝物です!!そして、快翔よくここまで頑張りました。沢山喧嘩もしましたが、無事受験を終えてホッとしています。この貴重な経験をこれから沢山活かし、楽しい中学生を送ってください。

長山律輝くんのお母様

【アントレの入塾のきっかけ】

2年生の2月に従兄弟が受験を終え、結果の話をしている時に「僕もやりたい」ということがきっかけで受験の日々に一歩踏み出しました。

自宅から通える範囲の塾を何校か体験し、その時一番楽しい授業がアントレでした。本人も「難しかったけど頭使って楽しかった!!」と目を輝かせて帰ってきたのを今でも覚えています。その表情を見てここが息子には合うと確信し、3年生から入塾を決めました。

【3年生】

3年生の入塾当初はBクラスのスタートで自宅の予習や復習も楽しんで取り組めていました。また私自身も時短勤務で息子と関わる時間が多く取れ、一緒に勉強を取り組むことが出来ていました。

コツコツと日々の予習復習のおかげか3年生の夏にAクラスになることができました。

【4～5年生】

4年生になるといよいよテキストも本格的な受験モードになり、だんだんと楽しいだけではなく、勉強の苦しさも出てきました。

今思えばこの時にしっかり寄り添って一緒に勉強をしていくべきだったと思います。

幼稚園生の妹もいたことから「集中できないから」と言っただけで自分の部屋で予習復習をするようになりました。丸つけは親がしていたのですが、どうも途中式がなく、すんなり答えが書いてあることが増えていき、少しずつズルをするようになっていきました。何度も話し合い、わからないところは自分でカッシーに聞くんだと促す日々でしたが、早めの反抗期なのか全く親の言うことは聞かず独自の勉強方法で突き進んでいました。

やはりうまくいくわけもなく、白板での丸も当然減っていきAクラスのビリ常連に…5年生になっても相変わらずだったので真面目に取り組めないのなら受験をやめようと何度も家族で話し合い、怒鳴り合いにもなりました。個人面談も何度か行ってもらい、カッシーの「6年生になったら男の子は急にスイッチが入る子が多いですよ。そこまで待ってもいいんじゃないですか」の言葉を支えに日々が過ぎていきました。また私の時短勤務も終わってしまい、こんな状態でさらに勉強に関わる時間が減るのは不安しかなかったので5年生から個別授業を受けることにしました。

【野球との出会い】

勉強との兼ね合いで5年続けていたピアノも4年生の時に辞め、塾だけの日々になりました。5年生11月、勉強の面白さを忘れ惰性だけで勉強をしていた時、学校の友達に誘われて体験した野球にどハマリしました。「クラブチームに入りたい」と言う息子に親の私は「この時期から!？」と思ったのですが、久しぶりに楽しそうな表情をしている息子を前に承諾しかありませんでした。

入るにあたって、“塾が優先であること”“6年生の夏には受験に専念すること”を約束し、野球と塾の両立生活が始まりました。

土日も野球なので忙しい日々でしたが、野球をやりたいがために平日の勉強を集中して取り組むようになりメリハリのついた勉強になりました。

学校説明会など土日に行くので、息子はまったく行くことなく私が足繁く通うことが多かったです。

【6年生】

いよいよ本格的な受験生!カッシーの言葉を信じて過ごしてきた私だったのでいよいよスイッチが入ると思ったのですが、一向に変わらず…絶望しました。さらにここにきてBクラスへ…しかし、ここまできたらもう全落ちしても最後までやりきろう!と逆に覚悟がきました。

【志望校】

4・5年生の時は城北を第一志望に見据えていました。説明会も文化祭にも足を運び、息子自体も気に入っていたので、ほぼ決まりかと思いましたが、6年生になりいよいよ現実的な志望校決めになった時、「野球が強い学校がいい」と言うではありませんか。

今まで見てきた学校は特段野球が強いわけでもなく、全てが振り出しになりました。でも、息子が楽しく通える学校が一番と思い、大急ぎで学校探しをしました。そこで候補が上がってきたのが立教池袋・國學院久我山・佼成学園・成城でした。息子は立教池袋がとても気に入ったのですが学力的に難しいことを話し合い断念することに。第一志望を國學院久我山にし、日程と学校見学の好印象で佼成学園・成城・1月の開智所に決めました。

【受験本番】

まさにハプニングだらけの受験でした。むしろ親の私たちが息子の足を引っ張るとはこう言うことだなと今思い返しても反省しかありません。

まず、開智所沢の願書では開智所沢会場が満席になり、受験初日から岩槻の開智校まで遠征になるという失態をしました。また、第一志望にしていた國學院久我山は中学野球部がないということが願書提出後に発覚。本当に焦りました。学校見学で好印象だった佼成学園を急遽第一志望に変更しました。

こんなに失態だらけの受験でしたが、息子は焦ることなく、1日1日の試験をしっかりと取り組んでくれました。開智所沢では連日の不合格通知に親子共々心が折れそうになりながらも本命に向けて支え合いました。いざ本命の佼成学園。ものすごい緊張の中、初日グローバル特待の試験。本人の感覚ではやはり難しく、手応えはちょっとだけと言っていました。やはり合格はもらえず。2日目の一般入試。ここで合格できなければ、厳しいと親は思っていました。息子も同じ気持ちで、怖いと言いながらも静かに気合を入れて全力で臨んでいました。こんな時祈るしかできない親は無力だなと感じました。テスト終了後、出迎えた時の表情はとても自信に満ちていて、手応えありとのことでした。浮かれそうな気持ちを抑えながら、とにかくギリギリでもいいから受かってくれと祈りにも近い思いで、合格発表を見ると、なんと特待合格！！みんなで抱き合って喜んだのを鮮明に覚えています。

後日、息子から「お母さん、受験をさせてくれてありがとう。中学が楽しみだよ」と言う言葉を不意に言われた時には受験をして本当に良かったな。と心の底から思いました。

息子にとってかけがえのない成功体験・達成感につながり本当に良かったです。

【最後に】

受験を通して辛い日々悩ましい日々の方が多かったように感じますが、最後に大きな達成感と喜びが家族で感じられたことは人生でとてもかけがえのない経験になりました。

親子共々ご迷惑をかけてしまいましたが、4年間見守り続けて下さった先生方・個別の先生、本当にありがとうございました。

今後のアントレの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

根来茉帆乃さんのお母様

長かったような、あっという間だったような中学受験生活が終わり、家族で今までの歩みを振り返りながら、のんびりと過ごしております。入塾以来3年間、娘は一度も嫌がることなく楽しく通えたのも、ひとえに先生方やお友達のお陰だと心から感謝しております。本当にありがとうございました。

【入塾のきっかけ・志望校決定】

中学受験を目指すにあたって、まずは親の私達がある程度学校に対する考え方や今後の勉強の進め方について話し合い、夫婦で同じ方向を向いていけるように心がけました。

- ・夫の条件→とにかく通学距離が近いこと、娘の元気で活発な性格に合った校風であること、受験勉強は小学生らしい生活が出来る範囲の量であること
- ・私の条件→娘の性格に合った校風であり、中高の多感な時期に安心して預けられるような学校であること

こんな条件を出していくうちに、近くて義母の母校である「富士見」が適しているのでは？となり、塾選びが始まりました。そこで出会ったのが、友人に紹介してもらったアントレでした。

アントレは、・予習が必須 ・土日はテストなど模試に振り回されない ・成績で席順が決まることもなく、まとめテストの順位表はペンネームである ・先生をニックネームで呼び、先生と生徒の距離が近い ・富士見の合格実績が高い

他塾とは異なる性質が盛り沢山！！私としては予習の大切さは分かるけど、誰が付き合うのか...そこだけが気かりでしたが、夫が意外にも算数が得意だったことを初めて知り(笑)、予習係を引き受けるとのことで、まずは娘が体験授業に参加しました。体験を終えた娘は「ここがいい、めちゃくちゃ楽しかった」と笑顔で出て来たのを見て、即決しました。

その後、私と娘で4年生のうちに5校ほど学校見学や行事に参加して、娘も富士見が一番気に入って、我が家の志望校決定は早々に決まり、不動の第一志望校になりました。

【4年生】

Bクラスからスタート。

とにかく最初が肝心だと思い、全教科入念に予習し、特に算数は力を入れました。その甲斐があつて、3回目のまとめテスト後に、Aクラスでやってみないかと先生からお声がかかり、とりあえず体験してみることに。ところが、いざAクラスの算数の白板問題に撃沈...。理解するのに時間がかかる娘にとって、白板問題の復習と次の予習をしていくのに深夜1時に及んだこともありました。1ヶ月ほどAクラスで頑張ってみましたが、親子で疲弊して来たことを先生に相談して、このままだと算数以外の教科が疎かになってしまうとのことでBクラスに舞い戻りました。戻ってからは通常運転になり、安定した成績で推移していきました。

【5年生】

Aクラスでスタート。

通常通り、予習復習はきちんとこなしていましたが、算数を始め、全教科難易度が上がり、4年生のときのように点は取れなくなってきました。更に5年生の後期から、夫の長期出張が入り、受験生活の山場ともなる時期に算数の予習に付き合えないと...。そこで夫婦で相談して、「算数シリーズ解説」と「個別指導」をお願いすることにしました。父娘で予習する中では、時に娘が夫に注意を受けて泣くこともあったり、プチ反抗期だったり、揉めることもありましたが、シリーズ解説や個別指導の優しい先生に教わることによって、予習もスムーズにいき、分からない問題をリストアップして聞くことが出来たお陰でAクラスを維持出来たように思います。今考えてみると、親がフォローするには限界の時期だったのかもしれない。

【6年生】

ギリギリのラインでAクラスでスタート。

一通りの学習が終わり、5年生の時ほど吸収するものが少なくて、ここからは復習に徹して仕上げていけば少しずつ成績は伸びていくものだと思っていましたが、これまた撃沈...

合不合では算数ではそれなりに取れるものの、理社で足を引っ張り、想像していたような伸びはありませんでした。夏期講習での単元ごとのまとめテストでも衝撃的な点数ばかりでした。このままではさすがにAクラスについていくのは厳しいのではと夫がデカク先生に面談を申し込みました。親の私達の焦りとは裏腹に先生は至って冷静でいらして、ここ何回かのテストでクラスを下げなくても良いとのこと、Bクラスで正答率を上げて自信を付けることも必要だけれど、本人のモチベーションも大事であり、富士見第一志望で

あればAクラスで頑張った方が入学してからが楽だとアドバイスを頂きました。確かに娘は自らクラスを下げるのは嫌だからもう少しAクラスで頑張りたいとのことで、踏ん張ることにしました。あとは先生に今後の授業の出来具合などを見て頂いてクラスは判断してもらおうとお任せしました。その後、劇的に成績が上がるようなことはありませんでしたが、何とか踏みとどまることが出来ました。

【直前期】

夏期講習も冬期講習も大変と言っている暇もなく通り過ぎて、あっという間に埼玉受験がやって来ました。小学校は今まで力を入れてきた席書会に参加したのを最後に、感染予防対策と過去問の仕上げの為に休みにすることにしました。とにかく、学校に行っているときと同じリズムで過ごすことを心がけました。

☆過去問の取り組みで工夫した点☆

第一志望校の富士見に関して、最新版1冊分(4教科)とそれ以前3年分(算数と理科)が一通り終わったら、最新版の算数と理科に関しては3周し、それ以前の3年分の算数と理科は1周しました。

※超直前期は下記のように取り組みました。

朝 算数 大問1 10分目安で解く

昼 理科 地学、生物、化学、物理に分けて、どれか1つ10分目安で解く

夕 算数 大問2 10分目安で解く

例) 朝 算数 2024年大問1 昼 理科 物理2024年大問4 夕 算数 2024年大問2
このように2018年から2024年まで毎日行いました。

更に、理解を深めたい苦手単元は、4まとや授業プリントなどで再度徹底確認しました。色々試行錯誤しながら取り組みましたが、4教科完璧にして入試当日を迎えることは難しかったです。

【入試結果】

埼玉受験：怒涛の3日間を味わうことに...

1月10日：開智所沢第1回

想像はしていましたが、受験会場の人の多さに圧倒されました。試験後、娘は意気揚々と会場から出て来てぱっちりだったと！家で大体のところを答え合わせをした限り、合格だろうと高をくくっていたら、まさかの不合格...。去年の合格最低点より38点も高かったのに...。よく見ると合格点より1点足りない...。一瞬めちゃくちゃ悔しがりましたが、明日はのんびり出来ると構えていた私達は悔しがっている場合ではなく、気持ちを切り替えて、即寝る準備をし、1点の重みを痛感しながら眠りにつきました。

1月11日：午前 開智所沢(特待A) 午後 開智所沢(算数特待)

この日は、特待回ということもあり、悔いのないよう最後まで諦めずに取り組もうとだけ言って送り出しました。娘は意外に出来たと会場から出て来ましたが、結果は不合格。

1月12日：開智所沢第2回

三度目の正直... 娘はポジティブな性格の為、いっさい緊張せず、今回は絶対合格すると言い放って会場入りしました。毎回出来たと言って出て来る娘ですが(笑)、今回ばかりは本当に自信があったようで、ようやく合格を頂きました。1日目、2日目が駄目でもいっさいマイナスなことを言わずに、ひたすら自分を信じて立ち向かう娘の姿にものすごく成長を感じました。

東京受験

2月1日：午前 富士見(4科) 午後 大妻中野(2科)

ついに本命当日を迎えました。まずは元気で富士見の門をくぐれたことに感謝し、「問いに答えるんだよ！」とシンプルに声がけをして、グータッチで送り出しました。私は、埼玉受験での怒涛の3日間の経験もあってか、意外と落ち着いて待機していました。試験が終わり、子供達がまるで花道を通るかのごとく、次々と出て来ては保護者と合流していく場面が印象的です。娘の第一声「激むず... 今日はダメだと思うから明日頑張る」と。そのまま受け止めて、「チャンスはまだあるから気持ちを切り替えて」と声がけし、午後の大妻中野へ向かいました。大妻中野での第一声「めっちゃ出来た！」でした。心落ち着かないまま、とりあえず家族で夕飯を食べに行くことに。そうこうしているうちに、富士見の合格発表の時間が迫って来ました。外食先で合格発表を確認するとは予定していませんでしたが、いざ19時！！まさかの合格！！出先にも関わらず、親子で大号泣してしまいました。そして大妻中野も無事に合格！！発表後は信じられなくて受験番

号を何回も見直したり、数日は何かの間違えじゃないかと実感がわかず、親の私はフワフワしておりましたが、入学手続きに行ってやっと現実なんだと受け止めることが出来ました。

【受験を終えて...】

本番3日前にようやくスイッチが入った娘...。親の私としてはこんな感じで本当に大丈夫なのかどれだけ心配したか分かりませんが、夫はいつも「絶対大丈夫」としか言わず、根拠のない自信に不安しかありませんでした。でも面談ではいつも先生方にも富士見には合格出来るとおっしゃって頂いていたことを励みにひたすら娘を信じるしかありませんでした。実際に合格を頂いて改めて、子供の力を信じてやることの大切さを学んだように思います。また、苦戦して勝ち取った開智所沢の存在, 先生方のズーム応援は親子共々、心のお守りになりました。

何より娘の富士見へのぶれない思いと努力は合格へと導いてくれたに違いありません。

アントレに出会い、ここで過ごした3年間は娘にとってかけがえのない思い出になりました。関わって下さった全ての先生方に心から感謝申し上げます。娘の受験がようやく終了したと同時に今度は3歳下の妹が新4年生としてお世話になります。これからも末永く宜しくお願い致します。

平井 貴一郎くんのお母様

《入塾したきっかけ》

息子は4年に大手塾に入りました。本人が塾に行きたい、中学受験をしたいと言ったので、はじめはそこまで調べずに、通いやすい大手塾にしました。息子は当時、スポーツだけでなく、ロボットの大会に出場するのに土日祝日も活動していて、塾を多々休むことがありました。5年生になると土日にも塾に行かなきゃいけないことも多くなる為、基本的に土日に授業が入っていないアントレを選び、体験授業で気に入って転塾しました。前の塾では基本的に一番上のクラスで、算数は得意で国語がすごく苦手だったのですが、アントレは算数のレベルが高く、体験後に本人に聞いてみたところ、Sの授業はついていくのが難しかった、とのことで、Aクラスで授業を受けることになりました。使っていたテキストは前の塾と同じでしたが、やり方もずいぶん違い、白板メインの授業にも戸惑ったようで、慣れるまで時間がかかったように感じました。

転塾したばかりの頃は友達もいなく、不安そうにしていたのですが、すぐに友達をつくり、授業後には楽しそうに話しながら帰るようになりました。

◇習い事

- ・野球⇒5年の春まで
- ・陸上⇒5年の春から6年の夏まで
- ・ロボット活動⇒6年にあがるまで
- ・習字⇒受験期間も最後まで続けました

《小5》

クラスは算数がずっとAクラスでした。本人としては算数が一番得意でしたが、アントレのまとめテストでは点数を取ることが難しく、なかなかいい成績を取れずにいました。理社は割と成績もよくSで授業を受けることが多かったです。小5の時はロボットの活動が大変で、正直アントレの宿題、勉強自体後回しになってしまうこともありました。5年生が勝負だと先輩ママに聞いていたので、親としては少し焦りましたが、「本人がやりたいようにやらせる」ことを一番に今までやってきたので、当時はぐっと堪えて息子のやりたいことを応援し、フォローすることに徹していました。土日は基本的に勉強に回せないことも多かったのですが、授業後その日のうちに白板直しをして、授業がない平日に復讐や予習をするようにしていました。どんどん算数が難しくなってきましたが、なかなか算数の予習に時間を割けなかったことが反省点です。なかなか時間が取れないことから、毎日ではないですが、朝早めに起きて宿プリをするようにしていました。

《小6前半～夏休み》

6年になって生活が少し変わりました。ロボットの活動をいったん休むことになり、土日も前より少し時間が取れるようになったので、家族でいくつかの中学を見に行ったり、勉強時間を増やすようになりました。ちゃんと志望校を考え出したのが6年に入り夏前くらいだったので、かなり遅かったと思います。もう少し前から考えておくべきだった、説明会にも5年から早めに参加しておくべきだったと思います。

クラスは算数がAのままで、結局最後まで所属クラスはAクラスでした。国語がずっと苦手意識が強かったのですが、記述の授業のおかげで少しずつ好きになり、一度国語がSクラスになりました。ですが、国語は成績の浮き沈みが激しくて、模試の成績もジェットコースターのようでした。前半は武蔵算数の授業を取っていたのですが、かなりレベルの高い問題が多く難しかったそうですが、楽しい！と言っていました。

6年になると合不合模試が始まりました。算数はそれなりでしたが、理社の成績が思ったようにはいかず、国語も悪いときは何から勉強すればいいかわからないほどで、さすがに本人もこのままではマズい、と焦りだしました。ですがデカッチョとの面談で算数がそれなりに点数を取れたことを評価してもらい、合不合の結果は参考程度にして頑張るようにアドバイスされて落ち着きました。とは言え、男の子だからなのか、しっかりやる時とやらない時との差が激しく、土日に外で何時間も遊んでいることも多かったです。周りからも「受験生」と言われ焦る気持ちもあり、やる気も前よりは出てきたと思っていたのですが、夏休み前まではどこか他人事で、半年後に自分が受験するという事実が想像できていなかったのかもしれません。

夏休みは夏期講習の予定も多かったのですが、旅行などは断念して勉強に集中するようにしていました。でもそれだけだとストレスが溜まってしまうので、夫とキャッチボールをしたり、体を動かしてリフレッシュするようにしていました。ですが、この頃はいつも穏やかな息子の心が少し荒れていたように感じます。私の焦りも感じ取っていたのかもしれませんが…6年生とはいえ、まだ小学生の息子が朝から晩まで勉強漬けになっている姿に、親として何度も葛藤しました。

アントレの子は優しくて温かい子が多く、友達と少し早めに行って一緒に文房具を買ったり、趣味の話をして楽しく過ごして気持ちを切り替えていたようです。今までで一番大変で過酷な夏休み。アントレの先生方、お友達のおかげでなんとか乗り切ることが出来ました。

《6年後半》

夏休みが明けて、入試演習が始まりました。息子は「上位男子校」を取り、ほぼ毎週土曜日にひばりが丘に通いました。いつもとは違う場所で実践的な学習をすることにより、息子もこの頃から少しずつ変わったように思います。最初は試験後に発表される結果も思うようにいかず、合格をとれないこともありましたが、少しずつ成績が上がり、合格をもらえるようになり、順位も上がっていき喜んでいました。ひばりが丘までは自宅から結構遠かったのですが、練馬校の友達と待ち合わせて電車に乗ったり、帰りもみんな一緒に鬼ごっこをしたり(笑)、楽しんで入試演習に通っていました。順位が出るプレッシャーはあるけど入試演習が好きなんだ、と息子が話していました。最後はもうひばりが丘に行けないのか…と寂しそうでした。

《志望校について》

志望校は息子の希望で①男子校 ②スポーツが割と盛ん ③通学がしやすい
を中心に考えました。6年の初めごろは都立も見学に行きましたが、結局いくつか説明会に参加した結果、私立の男子校を選びました。

その中でも本人が気に入る、上記の条件を満たしている本郷、巣鴨を志望校として対策を進めることにしました。巣鴨は説明会の様子を見て、息子も一緒に行った息子もとても気に入りました。ですが、中学で野球もやりたい、良い大学に進学したい、という希望もあって第一志望は本郷に決めました。本郷の説明会には何度も足を運び、生徒だけで行う説明会でとても活気があり親切に対応してもらい、更にこの学校に入りたいという気持ちが高まっていったように感じました。

埼玉受験は合格してもあまり通うことは考えておらず、もし上記の2校が不合格だった場合は公立にするつもりでした。そのことを本人が面談でデカッチョに伝えたところ、あまりにも攻めすぎな考えであることを指摘されて、3日目は成城を受けたらどうか？と進められました。それが11月末頃で、「デカッチョの言うことは絶対!!!」な息子はそこから成城も考えて、なんとか今年度最後の説明会に参加しました。最終的には1日午後に一度も足を運んだこともない都市大付属の午後入試を、受かったらラッキーな気持ちで組み込んでみましたが、この時は1日にどんな状況かは全く考えていませんでした。

本郷は過去問1冊分を解いて、7割くらいが合格という成績でした。何年かは2周しました。購入した過去問が3回目の問題は記載されていなかったのと、3回目は倍率もレベルもかなり厳しいのは理解していたので、2回目までの分を解きましたが、入試直前にやはり3回目も少しチャレンジしたいと言ったので、購入して2年分くらいは解きました。

巣鴨は受験するとしたら、3回目になると思っていたのですが、2回目までの分しかなかったのと、何年分か解きましたが、本郷ほど解きませんでした。解いた過去問は算数選抜以外は合格を取っていました。

開智所沢は通うことをあまり考えていなかったのと、1、2回分を、成城もデカッチョに問題に少し慣れる程度でいいとアドバイスされたので、2回分くらいしか解いていませんでした。直前で受けることにした、都市大付属は2教科だったのですが、4年分ほど解いて全て合格という成績でした。

◇受験スケジュール

1/10 開智所沢(第1回)⇒不合格

初めての入試で極度の緊張をしたようです。いつも得意な算数でも点数を取れず、社会も見ただことのない点数を取っていました。あと4点でしたが、前年との倍率、合格最低点との違いに驚き、翌日以降のことを考えていなかったのが戸惑いました。

1/11 開智所沢(算数特選)⇒不合格

7割ほど取れていたのと、前年を考えると大丈夫だと思っていましたが、今年の合格最低点は80点。息子もかなり落ち込んでいました。想定外のことが続き、自信を失いそうな感じでしたが、朝のzoom応援でアドバイスをもらったことが力になり前を向き直しました。

1/12 開智所沢(第2回)⇒合格

やっと合格が取れてホッとしていました。アントレや学校の友達の姿を会場で見たようで少し落ち着いたようです。

《東京入試》

2/1AM 本郷(第1回)⇒不合格

数日前に体調を崩し高熱を出しました。当日も解熱剤を飲ませて午前、午後と受験しましたが、かなり辛かったです。体調を考えたら、翌日のためにも午後は受験しない決断をするべきだったのではないかと深く反省をしています。全教科うまくいかず、特に国語は「終わった、と思った」と結果後にカミングアウトしました。

本郷の繰り上げの条件は複数受験だったので、2 日目に本郷を再チャレンジするか、巣鴨を受けるか迷いました。この日の結果はかなり悪かったので親としては巣鴨の方が可能性があると思いましたが、本人は迷いなく「明日も本郷を受ける！」と言ったので、出願を済ませ、23時の都市大の発表を待たずに早めに休ませました。

2/1PM 都市大付属⇒不合格

お昼にも薬を飲ませ、今まで一度も訪れたことのない都市大付属へ。出来としては算数はそれなりにできたと話していましたが、集中しきれなかったとのことでした。

本郷からの移動もあったので、2教科とは言えかなり疲労を感じました。体調が良くない中、翌日以降連日受験をするかもしれない、という過酷さに親の私の方が心が折れかかっていました。

2/2 本郷（第2回）⇒不合格

しっかり寝てだいぶ体調が回復し、前日より解けた！と話していました。算数の試験の終了の声がかかる直前で計算ミスが分かり、直そうと思ったけど間に合わなかったそうです。あと4点だったので、それを直していたら…と悔しがっていました。あと少しだったと思うと私の方が涙をしてしまいましたが、息子は悔しながらも、すぐに前を向いていました。「明日の成城で最後にする！合格してくる」いつの間にこんなに強くなったのだろう、いびきをかいてぐっすり寝ている息子を見て思いました。4日、5日も受験校を考えていましたが、もう巣鴨は受験せずに成城が合格できたら進学を決めると話していました。

2/3 成城⇒合格

前日に夫と最後の対策を二人でしていました。いつも通りできれば合格できるはず！この日は自信のある顔をしていました。朝 7:00m でデカッショに「今日で最後にします」と伝えたときは驚かれましたが、息子としては今日で受験を終わらせるつもりで覚悟を持って臨んだのかもしれない。算数かかなり手ごたえがあったようでした。

家族で話し合った結果、4日は受験せずに久しぶりに登校する。5日目かなり厳しいけど、本郷の3回目を受験してやり切って終わらせよう！ということになりました。

2/5 本郷（第3回）⇒不合格

成城に決めた、という気持ちを持って受験したせいか、やり切ったけどそこまで集中できなかったのかも、と話していました。1.3倍という例年通りの厳しさでしたが、やはり手ごたえも殆どなかったそうです。でも全回受験したことで、やるだけのことはやれたんだ、という達成感があったかと思います。

《健康管理について》

本人の希望で1月もある程度は学校に登校しました。リフレッシュにもなる習字にも数回行きました。最後の1週間ほどは学校は休ませて、家で学習させていました。インフルエンザ、コロナ、マイコプラズマ、色々と流行っていたので、最後の1週間は家で過ごしていましたが、1月末に急に体調を崩し、高熱を出しました。親の私の管理不足なので、反省しています。食事や、睡眠時間等、もう少し考えればよかったのかもしれない。薬を飲みながらも、zoom 自習室で勉強していたので、zoom のおかげで頑張っている戦友たちの姿を見て、どうにか踏ん張れたんだと思います。

《最後に》

中学受験を通して、息子はとても逞しくなりました。アントレでかけがえのない戦友でもある友達に会い、時に厳しく、でも温かく最後まで支えてくださった先生方に会えたことに感謝してもしきれません。年が明けてからは家族全員、一丸となって受験と向き合えたので、とても大変ではありましたが、とても良い経験ができました。転塾したころは慣れるのに時間もかかり、不安もありましたが、今はアントレで受験出来て本当に良かったと思っています。先生にアドバイスされなかったら進学先である学校に出会うこともありませんでした。マイペースで人に流されてふざけやすい息子を支えてくださり、本当にありがとうございました。

息子は「大変だったけど、受験して良かった。第一志望ではないけど満足してる。」と言っています。これからは、今まで経験したことを糧に中学でも楽しく学んでほしいと思っています。

堀隼太郎くんのお母様

先生方、個別指導の先生方、共に勉強や楽しい時間を過ごしてくれたお友達の皆様
そのような恵まれた環境の中で大変お世話になり、感謝申し上げます。

恐縮ではございますが、我が家の
「体験記」として書かせていただく事にしました。

◆アントレ入塾まで

小3の冬頃、TV「2月の勝者」をたまたま観て中学受験の事を知ることになりました。「中学受験やってみたいと思う？」と聞くと、すぐに「やってみようかな」と言ったので驚きました。

その頃、幼稚園から通っている水泳で力もついてきて、もっと速くなりたい、小学6年の泳力発表会で1位になりたいと目標を持っていたので4年生の1年間は週4の水泳を続けました。その間も中学受験をやってもいいと言っていたので、4年の冬頃塾探しを始めました。インターネットでたまたま最初に「アントレ」と出てきたので開いてみると、子供一人ひとりに寄り添った温かい指導の様子が感じられ、こちらなら我が子に合うと思いました。

おっとり、マイペース、競争がちよっと苦手なので、成績順による席順ではない、入塾テストがない、大量の宿題がない事から他の塾情報を見る事もなくアントレにしたいと思いました。早速連れていきプーさんの体験授業を受け、楽しかったと言ったのですぐに入塾を決めました。

◆アントレ生スタート

いよいよ受験生としてスタートだねと最初は明るく家族で話していましたが、入塾後すぐに大量のテキスト、今までやった事のない勉強時間、全くわからない状態から次の回の予習、確認テスト... 私は何を予習させどのように復習して次の確認テストやまとめテストの対策をさせればよいのか、毎週の外れの予習、復習をさせていました。本人も必死に準備をして必死に通っていました。帰るとくたくたで復習をする余裕はなくなっていました。5年生の1年間は全てにおいてきつく、本人も「通っても無駄だよ」と言う事もありました。私達もその言葉を聞くのも辛く本当にこのまま受験をさせるべきか日々悩んでおりました。子供の前では「次はきっと大丈夫だよ。このままやっていればいつかいい結果が出るよ」と言うしかありませんでした。

◆自分で準備、学びへ

いつの間にか環境にも慣れお友達も出来て親しく皆様と話せるようになり、わからない問題は先生方へ質問したり、確認テストの問題を友達とクイズで出し合って覚えたりするなどだんだん自分で準備して学べるようになっていきました。気がつくと、私が用意していた事は少なくなっていました。成績は安定の低位置をキープしていました。入塾当初の志望校へはほど遠く本人にも厳しい事を言ってしまいました。自分で学べるようになってきて、これ以上このペースを無理に変えるのではなく今のペースで受けられる学校を探そうと思うようになりました。

本人も自分の力を素直に受け入れいろいろな学校の見学にも行くようになりました。

◆先生方のご指導、スランプ？

保護者会や面談でご指導いただいた学習習慣はなかなか身につかず親としては我が子の学習の量、この内容で本当に受験が出来るのかと... もどかしい日々は続きました。家での復習をあまりしなかったので授業後の「居残り」は大変有難かったです。(本人はもちろんイヤがっていましたが...)

特に社会のダンディーの居残りは覚える事が多く大変だったようです。ですが、次の回でいい点を取りたいと言って一生懸命覚えるようになり、6年生後半には社会が得意になってきたと言うようになりました。国語のピーチャン、一休、理科のコバト先生方から「今日、声をかけてきてくれて褒めてもらえた」と嬉しそうに話す事もよくありました。そんな様子を見ているうちにこれなら諦めずに受験をチャレンジできると思えるようになりました。

いよいよ6年生の12月になり最後の模試を受けました。これまでで最も悪い結果が出てしまい、本人にも何と言っていいか迷い、先生にも実はこの模試の結果は伝えていません。(今更ですが) この結果ではどこも受からないのでは... と不安になり、毎日頭から離れなくなっていました。

そんな親の気持ちを察したのか、年末に本人が急に体調を崩し(軽い風邪)、冬期講習に行きたくないと言い出しました。まさかこれが直前のスランプ?、それまで行きたくないと行かされたのに、今回は今までとは違う様子でした。この時ばかりは1月受験は無理だなとも思ってしまいました。数日は家

で様子を見ていましたが、やはりこのままでは本当に行かなくなるかもしれないと思い声をかけてみました。すると「算数だけはアントレに行きたい」と言ったので、算数が始まる時間から行くようにして年明けからは通常で行かれるようになりました。

◆いよいよ入試に

お正月は幼い頃から毎年出場していた元旦マラソンは参加できませんでしたが、親戚との恒例の集まりでは夜まで楽しく過ごしました。冬期講習、個別指導も通い、1月の受験日を迎える事ができました。

1月10日、11日。両日とも寒い朝でしたが、Zoomでダンディー、カピバラ、コバト先生方の応援で心温まりました。10日午前・午後どちらも自信ないと言っていましたが、「合格」をもらえた時の喜びは忘れません。

11日。次の日は特別選抜クラスでチャレンジでした。しかしこれもまさかの「合格」。家族で何回も画面を確認しました。これが本人にとってとても大きな自信になり2月を迎える事にもなりました。

2月入試までの間もいつも通りの日々でした。過去問もだんだん点数が上がってきて自信が持てるようになっていきました。12月のスランプ？から考えられない落ち着いた様子になりました。

2月1日、2日。この日もZoomでフンチャン、ピーチャン、コバト先生方の応援とても嬉しかったです。東京入試は埼玉入試より受験生が圧倒的に多く、保護者控室も満席近くなり身の締まる雰囲気でした。

あいかわらず全然自信がないと言って会場から出てきました。ですが早く発表が見たいと待ちきれない様子でした。1日の午前、午後、無事「合格」。2日の学校も「合格」をいただき我が家の受験は終わりを迎える事ができました。

◆進路

合格をいただき、有難く学校をどこにするかを選択する事になりました。

第一志望は東京の学校でしたが、本人の口から出たのは埼玉の学校でした。自然豊かな環境、生徒さんの雰囲気、活発な部活動の数々... 通学が遠く、男子校という事を最後まで悩んでおりましたが、「学校が楽しい方がいい、勉強も頑張る」と本人が決断しました。

◆最後ですが

入塾の時はあこがれの学校があり、頑張れば行かれると思っていました。

現実と思うように行かず、早々に諦め、親子で何回もやめる、やめないで衝突をしました。ですが、我が子のペース、能力を受け入れようと思った時に気持ちが楽になり、優しい言葉をかけられるようになりました。今は4月からの中学生活が目につかび、親の私の方が楽しみにしているみたいです。

平日は夕方から夜まで、そして春期、夏期、冬期、演習クラス... 最後までやり遂げたこの苦しく、時に楽しかったアントレの日々はこれからの人生にきっと役立つと思っています。

2年間、本当にありがとうございました。

三澤昂右くんのお母様

受験を終えて、心身ともに元気に乗り越えられたことに安堵しています。これから受験へと向かわれる親子の皆様に、私たちの体験が少しでもお役に立てればと思い、書かせていただきます。

【入塾のきっかけ】

小学2年生から始めた野球を中学の部活で続けたいということ（近くの公立中学には野球部がない）、息子にとって公立の小学校での生活が少し窮屈そうに見受けられたことがきっかけで、中学受験を勧めてみました。

意外にも息子の反応は悪くなく、本格的に受験を考え始めました。まずは塾選びですが、息子が幼稚園の頃から、ゲーム形式で勉強をしてくれる面白い塾がある、という噂を耳にしていました。その後も折に触れてアントレの良い評判を耳にしましたので、もし塾に入るならアントレ一択だと思っていました。

体験授業を終えた息子が「勉強ってこんなに楽しいものなんだね!」と目を輝かせて話してくれたことは本当に驚きました。一体どんな授業を受けてきたのか不思議でなりません。そして保護者会の時に話されていたフンちゃんの教育に対する信念が私の心に響き、即入塾を決意しました。

【4年生～5年生】

新4年生（3年生の2月）のAクラスでスタートしました。まだまだお友達と遊びたい時期、アントレは楽しいけど予習復習の勉強時間はのんびりペース。算数の白板は象形文字のような息子の筆跡を私が解析し清書ノートを作り、まとめテストまでにマルが付くまで解き直しました。勉強を教えることは無理だと諦めた私は、専らプリント類の整理と毎日のスケジュール管理役に専念し、わからないところは引っ張ってでも先生に質問させに行くようにしました。まとめテストごとに目標点と達成できた時の小さなご褒美（我が家ではスパジャボに行く、焼肉に行く、など）を決め、息子も親も楽しんで取り組めるように工夫してみました。

5年生はSクラスでした。土日は野球があったので休みの日の勉強時間は2時間弱ほどだったと思います。その代わり平日予習復習をしっかりできるようにスケジュールを組みました。学校や野球で疲れ果てて課題をこなさず寝てしまうことも多々あり、スケジュール通りに進まないことに焦りを感じることもありましたが、時々学校を遅刻していくなどの対策をとり、なんとかやっていました。

受験の相談に乗ってくれた先輩ママから、白板でたとえマルが一つだったとしてもその一つを褒めてあげてね、の金言を守り、なるべく褒めるように努めました。（あまり実践できていなかった気もします）

【6年生前期】

さらにハードになる野球と勉強の両立に苦戦しました。勉強への取り組みは4,5年の頃と比べると良くなってきたのですが、おそらく他の子と比べて圧倒的に土日祝の勉強量が足りておらず成績はズルズルと落ちていました。カッシーにも夏頃には野球を整理して勉強時間を増やそうとアドバイスをもらっていました。得意と思っていた算数もまとめテストでは平均点を下回り、勉強の話になると親子関係も悪化し、何を言っても逆効果でした。再度先輩ママに相談したところ、「成績の見える化」だよ!と。見える化?? エクセルに成績を入力し折れ線グラフで得点の推移を表すのです。そして黙ってリビングの壁に貼っておく。これが後に思わぬ効果を発揮しました! 息子もそのグラフをじっと眺め、「これはまずいね」と。苦手単元を洗い出し演習問題集やコアプラスを使って勉強しました。

- ・4/7 第一回四谷大塚合不合判定テスト偏差値 63.7（武蔵 70%）
- ・6/30 第二回四谷大塚合不合判定テスト偏差値 62.7（武蔵 65%）

【6年生夏期講習～後期】

夏期講習の始まりを機に一度野球を休会し、勉強に専念した夏期講習後半からは自然と成績が伸び安定してきました。

後期になると模試も増えますが、体力的負担や復習がおろそかになることを危惧し、カッシーと相談して四谷大塚の合不合は受けずサピックスだけに絞ることにしました。模試ごとに目標点を決め、それをクリアできるよう弱点克服に努めました。

- ・9/16 学校別サピックスオープン（武蔵）偏差値 51.0（武蔵 40%）
- ・11/23 学校別サピックスオープン（武蔵）偏差値 63.9（武蔵 80%）

- ・10/20 第二回サピックスオープン偏差値 59.7 (武蔵 80%)
- ・11/10 第三回サピックスオープン偏差値 58.9 (武蔵 80%)
- ・12/1 第四回サピックスオープン偏差値 57.3 (武蔵 50~80%)
- ・武蔵演習 15 回中、13 回合格、1 回不合格、1 回補欠 (合格率 9 割)

【志望校について】

アントレに通いはじめて息子も自然と「武蔵」を意識するようになり、訪れた学校説明会では素晴らしい環境に驚きました。息子も自由な校風と広々とした環境、そしてヤギがいる (!) ことが一発で気に入ったようでした。教育目標の一つである「自調自考」がまさに私たち夫婦の息子に対する理想でしたので家族全員の意見が一致しました。後に過去問に取り掛かり、考察を重視する特殊な内容も、部分点という結果だけでなく回答に至るまでのプロセスを追ってくれるのも「愛」を感じました。

埼玉入試は得点開示がある栄東 A 日程を選びました。第二志望として 2/2 の本郷、チャレンジで 2/3 の早稲田、2/4 日は城北へ出願をしました。

【1 月、埼玉入試】

三学期は始業式のみ登校し、あとは自宅での勉強に費やしました。といっても集中力にはムラがあり、Zoom 自習室は映る仲間の姿を観察したのみでした。勉強内容は復習が主で、冬期講習、夏期講習、白板、6 年のまとめテスト、それまでに受けた模試、過去問の間違えた部分をマルがつくまでなん度も繰り返しました。あとは武蔵対策のプリントを反復して取り組み、試験を想定して毎朝算数のみ様々な学校の過去問を解きました。早稲田の算数はなかなか点数が伸びず苦ししましたが、カッシーに相談したところ平面図形対策プリントを出してくださり、それを解きました。

果たしてこの勉強方法でいいのか？という不安が私の頭には常に付き纏っていましたが、その都度保護者会の資料を読み返し、カッシーの面談でのアドバイスを思い出し、これまでの受験体験記を読み返し参考にしました。

1/10、栄東 A 入試。算数で一部回答用紙に答えを書き忘れるという痛恨のミスを犯すも、なんとか東大コースで合格。

【2 月 1 日武蔵】

いざ本番！朝から特に緊張の様子もなく、いつも通りにやれば大丈夫！と言って送り出したのですが、数時間後。試験を終えた息子を迎えた夫から、「試験の出来が思わしくない様子」というメッセージを受信し、一気に暗雲が立ち込めてきました。

本人曰く、緊張でお腹が痛くなり、加えて隣の席の受験生のビンボー揺りのシャカシャカ (ズボンの素材はおそらくナイロン) が気になって集中できなかった、多分補欠か不合格だろう、と。。。

帰宅後、言葉数も少なくそのまま寝てしまいました。私の不安は一気に膨らみ、もうどこも受からないようなマイナスイメージが付き纏い、カッシーにアドバイスを乞うことに。すぐに頂いた返答は、「彼ができなかったということは他の子もできなかったはず。今からやることは本郷の対策ですが知識を軽く確認し、立体の問題の解法をチェックする程度でいいです」とのことでした。こんな時こそどっしりと構えていなくてはいけない親がぐらついてしまい反省しました。息子が起きたら励ましの言葉をかけ続けようと決め、リビングの壁に「ピンチはチャンス!!!」と赤文字で大きく書いた紙を貼りました。

【2 月 2 日本郷】

翌朝も相変わらず暗い表情と言葉数少ない状態でした。あいにくの雨も相まって寒さがいつそう身に染みます。駅近くまで見送り、別れ際に「今日頑張って合格もらえたら一気に楽になるよ！とにかく踏ん張れ!!」と気合を入れました。息子は今にも泣きそうな表情です。私も思わず涙が出ました。

試験を終え、迎えた夫からのメッセージは「今日は手応えがあった様子!」とのことでした。最寄り駅まで迎えに行くのと明らかに昨日とは違って表情が晴れやかです。その日の 19 時、無事に合格を頂けると一気にジェット気流に乗ったように勢いがついてきました。この日の合格をもらえたことは本当に大きかったです。

【2 月 3 日早稲田】

3 日は早稲田の 2 回目でチャレンジ校でしたので、受からなくてもしょうがないよね、というスタンスで、でも最後だから全力を出し尽くそう!と誓って送り出しました。

幸い、本郷の合格を頂きこの日が最後の試験日となったので、初めて私が息子を迎えに行きました。校舎から出てくるとすぐに笑顔で「できた!」と言います。本当に?と思いましたが既に武蔵の合格発表が出ているので気持ちはそちらへ行っていました。

帰り道にあるレストランに入り、iPad で武蔵の合格発表の確認を。

「補欠 2 番目」おおお！なんとかしがみついた！！

翌日 10 時、早稲田の合格発表。受験番号を入力。なんと「合格」の文字が！家族全員で喜びました。お昼過ぎに夫の携帯が鳴り、武蔵から繰り上げ合格の連絡をいただきました。学校から帰宅した息子に伝えると「武蔵に行く！」と即答でしたので、早稲田も魅力的でしたが武蔵で入学手続きを進めることになりました。

結果的に武蔵は補欠でなんとか滑り込めた形にはなりましたが、チャレンジ校の早稲田で合格もらえたのだから自信を持って武蔵でやっていけるね、と話し合いました。

- ・ 1/10 栄東→合格（東大クラス）
- ・ 2/1 武蔵→繰り上げで合格→進学
- ・ 2/2 本郷→合格
- ・ 2/3 早稲田→合格
- ・ 2/4 城北→試験受けず

【最後に】

アントレとの出会いがなかったらこの受験を乗り越えられただろうか、と時々想像します。学校や野球で疲れて帰ってきても、アントレに行くとイキイキとして帰ってくるのは本当に不思議でした。それだけ授業が楽しかったのだと思います。

ともに受験を乗り越えたクラスメイトの存在も息子にとって様々な影響を与えてくれました。

そして、将来はアントレで個別の指導員になりたいそうです。（こんな子でも雇ってくれますか？）困難に立ち向かった時、親としては、なんでこの子は悔しがりやがむしゃらに食らいつかないのだろう？と歯痒い思いをしたことがなん度もありましたが、表情に出さないだけで心の奥底では色々感じ、考えていたのかもしれない。この 3 年間の受験を通して見えた息子の一面です。

程よい距離で見守ってくれた夫にも感謝です。体調管理のための R1 を足繁く買いに行ってくれたり、絶妙なタイミングで雷を落としてくれたり、寒い中連日の試験会場への送り迎えなど。ワンチームで乗り越えられた受験でした。

アントレの先生方、3 年間本当にお世話になりありがとうございました。

宮崎有くんのお母様

【中学受験を決めた理由・アントレを決めた理由】

息子は科学者になりたいそうで、保育園の年長の時から栄光サイエンスラボに通い、隔週で実験をしていました。それだけでは科学者になれるかわからないのでお勉強も、ということで、公文も勧めましたが、「プリントを大量にやるだけらしいから、行かない」と宣言され、母親としては途方に暮れていました。2年生になる頃、コロナ禍となり、市立小学校は1か月休みになった後、1か月自宅で4時間授業を自習しないといけなくなり、共働きの我が家はまた途方に暮れました。私立小学校はオンライン授業をしているとも聞き、中学はできれば私立に通わせたいと親は思うようになりました。3年の夏休み、宿題以外はずっとゲームをしている息子を見て、これはそろそろ中学受験の塾に入れた方が良いなと考えていました。そんな時、ひばりヶ丘駅入口のバス停で、夏休みに小学校高学年くらいの子供が数人降りることに気がつき、アントレの存在を知りました。アントレについて検索したところ、旧ツイッターでカッシーがつぶやいていることを知り、良さそうな規模の塾だなと思いました。3年の春休み前に、息子にアントレの体験授業に行ってもらったところ、授業がとても楽しかったそうで、息子が「あそこなら行ってもいい」と言ってくれたので、この機を逃さずアントレに入塾しました。他の進学塾は一切見に行っていないです。多分、大手の”いかにも”の中学受験塾だったら、当時の息子は行ってくれなかったと思います。

【志望校選び】

両親ともに中学受験は経験しておらず、また息子の小学校のタイミングで多摩地区に引っ越してきたため、どこにどんな私立中があるかもわからないままの入塾でした。息子はCクラスで、ただ理系の大学には進ませたいので、東京フォーラムの中受フェアに行き、家にも比較的近い、東京電機大付属中のパンフレットを入手し、帰宅後息子に見せました。「理科の実験がたくさんできるって」と話し、最初の志望校としました。その後、フンチャンとの面談や、息子の意向（大学は工学部より農学部？）もあり、男子校の城北中や成城中を目指そう、ということになりました。5年生の時にその3校の見学に行き、学園祭は城北中だけ見に行きました。息子は成城中に行く大江戸線の騒音が苦手で、こんな理由で受験を諦めることもあるのかな、とも考えていました。その他、芝浦工大付属中（ちょっと遠い）と獨協中（私は場所も学校も割とお気に入り）の説明会には行きました。

よく考えると、埼玉方面は下り電車だし、多摩地区からは通学圏と気がつき、埼玉の中受フェアに行き、西武文理中には5年生の時に説明会に行きました。西武文理中のペドロ校長の話はとても面白く、息子は西武文理中をかなり気に入っていました。その時に会った6年生の子のお母さんから、新設される開智所沢中のことを聞きました。開智所沢中については、6年になってから、前年のアントレの合格実績を聞き、Bクラスでも合格できそうな雰囲気でしたので、6年のうちに3回ほど説明会に行きました。秋津⇄新秋津間の乗り換えは不思議だけど通学時間は1時間以内だし、給食もあるそうで、魅力的に感じました。その他、保護者会でフンチャンの口からよく出ていた星野学園中と、西武池袋線沿線の狭山ヶ丘中は、気になっていました。

結局、志望校は①息子の熱望校の城北中、②開智所沢中、③成城中、となりました。

【塾生活】

息子の所属クラスは、4年はC、5～6年はBでした。4年までは、塾の時間数も少ないので、中受を経験していない共働き親でも、予習をなんとか伴走できました（まだコロナ禍で、私が在宅勤務中心だったこともあります）。本人のやる気が出ない時は、私がテキストを読み上げて、なんとか予習を間に合わせていました。5年の後半になると、私の仕事が忙しくなったこともあり、国・理・社はなんとかできても、算数については息子に問題を急に聞かれても私はうまく回答できなくなりました。そこで、6年になるタイミングで個別の算数を1コマお願いしました。うちは基本的に最後まで、塾のある週は、その準備と解き直しで精一杯の状態でしたので、個別については息子から最初は「これ以上塾を増やすのか」とクレームが出ました。しかし、先生との相性が良かったようで、最後まで楽しそうに通ってくれました。毎回参加をゴネていた学期間の講習も、6年の夏期講習以降はようやく意識が変わり、同じ小学校のメンバーとワイワイやりながら、嫌がらずになんとか最後まで通いました。

【埼玉受験】

6年で6回受ける機会のある、四谷大塚の合不合格判定テストの息子の結果は、第5回までは50前後を行ったり来たりでしたが、12月初めの最後のテストで算数の点を大きく落としました。開智所沢中は受験料2万円で5回受験でき、連続受験で第二回試験以降の加点が30点付くため、1月10日からの埼玉受験では全回受ける予定をしていましたが、算数の配点が高い学校であるため、親としてはかなり慌てました。5回の受験の合間をぬって受験できる星野学園中（最後の説明会に滑り込んで、家族みんな気に入りました）と狭山ヶ丘中（未訪問）も、開智所沢中の不合格が続くようなら受験するよう、予定に入れました。そんな策を練っているうちに、私は開智所沢中の2週間限定オンライン公開の入試問題説明会を見逃しました。息子が開智所沢中に不合格だったら、墓場まで持っていく秘密になるところでした。

5年の後半以降、私の仕事の忙しさは続き、息子の弱点分析は最後までお粗末でした。冬期講習の前と中休み（大晦日と元旦）に、改めて息子の状況を確認したところ、社会のテコ入れが必要だと感じました（大変遅いです）。特に、地理の地域と産業のリンク、歴史の流れが把握できていないようだったので、前から読むように勧めていた「合格する〇〇の授業」シリーズの”地理”と”歴史”を読んでももらいました。その他、”理科”と”算数”についても読んでももらいました。

冬期講習が終わった数日後には埼玉受験が始まりました。結果として、開智所沢中を第一回で合格してくれたため、親としては精神的には大変楽になりました。その試験の点数開示結果を見ると、算数がよくできたための合格（個別の成果！）でしたが、社会は散々でした。その後の開智所沢中（特待）の試験結果はすべて不合格でしたが、今年の開智所沢中の合格基準点の爆上がり状況を考えて、仕方ないのかなと思い、息子にもそう伝えました。

【東京受験】

2月の東京受験については、息子の受験継続意思も高かったため、小学校は休んで勉強することにしました。メインは城北の過去問に取り組むことでしたが、入試説明会でいただいた資料の中の「前年入試問題の正答率」は、息子の不得意分野と現状を確認できて役に立ちました。その他、再開した塾の予習・復習をしながら、苦手な地理については、桃鉄の本の「白地図ドリル」と「日本地理まるわかり大図鑑」に取り組んでももらいました。

2月受験では、本人熱望校の城北中を全3回受験しましたが、不合格でした。当日朝のアントレの先生のオンライン応援は、ワイヤレスイヤホンを息子と私で片耳ずつして聞いていましたが、私もかなり励まされていました。不合格の連絡は息子自身で毎回アントレに電話し、先生方が交代交代でアドバイスしてくださり、親としては大変ありがたかったです。成城中については、開智所沢中が合格していたため、結局受験しないことにしました。

息子は数日間は気落ちしているようでしたが、2月5日から小学校に登校できるようになったこともあり、放課後友達とゲーム三昧の日々が帰ってきて、楽しそうです。数日そんな風に過ごした後、「こんなに遊んでいいのかな。今まで勉強ばかりだったから」というので、解禁したスマホにDuolingoを入れ、ファミリープランにしてあげたところ、かなりやり込んでいます。息子が好きだった英会話の塾は、アントレの予習が間に合わないので、5年になる頃に一旦やめさせていました。私立中の準備として、英語を始めるのは良いと聞いたことがあったので、2月半ばから3月まで、また英語塾に行ってもらうことにしました。やはり学習習慣は身についたのかもしれません。

【最後に】

うちの子に中学受験は無理かな、と思う瞬間は、この3年間で何度もありましたが、誰かが「中学受験をすると、その後の人生の解像度が上がる」とつぶやいていて、いい言葉だな、と思いました。私は息子に中学受験をさせて良かったと思っています。「ゆる受験」なんて、うちはありえませんでした。保護者のストレスも大変だと思いますが、私はティップネスのオンラインフィットネスがその解消に役立ちました。アントレの先生方・個別の先生には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

山本実和さんのお母様

高学年でもお人形遊びが好きで、自分の事を自分でやるのが苦手、しかも公立中学は給食だから嫌というのが私学志望の理由、そんな実和が中学受験という荒波に飛び込み、最後には自分なりの岸に辿り着けるのか…不安しかないスタートでしたが、何とか無事終えることができ安堵しております。

また、他塾でしたが2歳上の姉の受験を含めて約5年間、胸を張って体験記を書けるような熱心な保護者では決してなかったですが、それなりに葛藤した事は貴重な経験でした。

【3年生2月～6年生前期】

アントレの体験授業が楽しく入塾を決めました。というものの、初めの一年は姉の受験にかかりっきりで白板のマルの数にも関心せず、さあ実和の番！となっても姉の受験の後遺症であれをもう一回やるのか…と全くエンジンからず、しかも中学受験に対する冷めた気持ちもありました。そんな中アントレの持ち物さえ自分で用意しない実和の成績が伸びるわけもなく、やるべき事の半分ほどしかできず時間だけが過ぎ、5年生の途中から本人の希望で算数のシリーズ解説も受講し、6年生になっては個別も受講しましたが生かしきれず、このままでいいはずがないと思いながら過ごしていました。

【6年生夏～直前期】

「D」前期最後のまとめテストの算数の評価です。それを見た時、実和がそのうちやる気を出すという保証は全くなく、気づいたら1月2月を迎えるのでは？と突如焦り、また、いつかの保護者会でお話があった、中学受験は子供に寄り添える(伴走できる)最後の機会というのを思い出し、今やるべきでは？とやっと後遺症から抜け出すことができました。

ほぼゼロからの試行錯誤でしたが、とりあえず色々試しました。

- ・夏期講習中は授業時間以外に仕事をなるべく入れず、実和と共に過ごし進捗を確認する。(私が居ると居ないのでは成果は雲泥の差でした)
- ・過去問全て目を通し、マル付け後の解き直しの際に同じ目線でいられるようにする。
- ・苦手な算数は、過去問と後期入試演習のできなかった問題を中心に、何をどう間違えたかを一問ずつチェック。その対策として四まとや演習問題集を使って弱点補強。また、夏の白板は何度も解き直しできるよう、問題を全問打ち直し解きやすいように作成。
- ・コアプラス(理社)を自分でまわせるタイプでなかったので、後期授業でのチェックテストや確認テストを繰り返せるようコピーを作成

姉は自走タイプでしたが、実和は逆で「ママがいないとできない」と宣言したほどで、その先の心配が頭をよぎりましたが、少しずつ伴走できたことが成績にも表れ始め、夏期のまとめテストで上位が取れ、入試演習で合格となる機会が増えました。

【各科目について】

●国語：語彙力なく表現力も乏しく、姉にも何言っているか分からないと突っ込まれる日々。正直国語が一番足を引っ張る科目だと思っていましたが、いつの間にか安定して点がとれ、国語が大丈夫なら…と頼れる科目になりました。家では漢字語句以外やっていないので、これはまさしくムーミン先生はじめ先生方のご指導のおかげと感謝しております。

●算数：計算ミス、問題文の読み間違いや思い込み…ノートも綺麗な使い方をしないので、その整理からのスタートで苦労しました。算数の問題を解く前には「問題をしっかりと読む、線を引いてもいいんだよ」と何度も話し、もったいないミスを減らすことを幾度となく伝えました。

●理科：4科の中では唯一自分からやる科目でした。ただコアプラスは最後まで綺麗なままで、アントレのプリント復習がメインでした。

●社会：漢字が苦手、社会情勢などは興味なしの為苦労しました。ただ、志望校の一つは歴史の時代が限定されていることや、別の学校は入試説明会で「ここから出題される」というプリントをもらったことが救いで、直前期はかなり絞って取り組みました。記述はモタロー先生にアドバイス頂き国語の説明文の気持ちで解き、勝手な知識や曖昧な内容はいれないことを心がけました。歴史は大好きな「ねこねこ日本史」にもお世話になりました。

【志望校】

我が家は、私学にはそれぞれ良いところがあるという考えに基づき、女子校・共学、宗教、附属などへのこだわりはあまりなく、受験する学校は本人が行きたいと思う学校、が条件で、実和が実際に足を運んで決めました。ただ、姉の時にかなり上の学校を熱望しすぎ、塾からはっきり可能性なしと言われても絶対

受けると最後まで突き通した経験が親としても辛く、もう少し現実をみながら過去問に取り組んだり挑戦させたりしたいと思っていたので、偏差値的なものは多少意識しました。

吉祥女子、東洋英和女学院、学習院女子、立教女学院、大妻、富士見、恵泉女学園、東京女学館、山脇学園、三輪田学園、跡見学園、実践女子学園、都立大泉、成蹊、日大二中、実和が訪れた学校です。

気になった学校は再度別の訪問機会を作り、実和の意思を確認しました。初めに憧れたのは立教女学院、敷地の広さと充実した施設、観光地と思うほどの素敵な聖堂、親が見ても惹かれるものばかりでしたが、相当頑張らないとダメと察したのか第一回の合不合で第一志望とした以降は名前が挙がりませんでした。6年生の夏までにひと通りの学校見学を終え、なぜかプールがある学校が条件の一つに加わり、成蹊、三輪田学園を志望するようになりました。

●成蹊：なんとなく女子校と勝手に思っていたのですが、共学も見てみたいと言ったので軽い気持ちで訪れました。親としても初めての共学見学で、広い敷地とこのびのびとした雰囲気がとても新鮮に見えました。実和も授業体験や部活体験を通して生徒同士の和やかな雰囲気や、充実した理科実験施設などに惹かれたのがポイントだったようです。

その後説明会でも話を聞き、個性を重んじ、やりたいことをのびのびと見つけられそうな学校だと感じ、志望が現実となりました。

●三輪田学園：伝統女子校ながら近年の広報力や積極的な高大連携に興味を持ち、また水泳授業を本格的やっていることがきっかけで訪れました。学校に入り案内を待っている間、生徒の様子が垣間見えたのですが、あっ実和がここにいるのが想像できる。と思いました。校長先生の熱意を強く感じるとともにとても温かみのある学校で、実和もそう思ったのか、初めての訪問から三輪田がいいと決めていました。

偏差値という指標だと違うかもしれませんが、成蹊と三輪田の両方が第一志望と実和がずっと言っていたので、そのつもりで秋以降過すようになりました。

●その他：親としては必ずどこかには合格して中学受験を終わらせたいと思っており、もう一校候補に挙げようと11月まで見学を重ね、跡見学園を志望校に加えました。（こちらも雰囲気とプールが本人の決め手です）

余談ですが、見学した中には姉の進学先も入っていましたが全く興味を示さず、姉妹それぞれの母校を持った方がお互いに尊重できるかなとも思い、小学校より至近距離の富士見についても、近すぎるという賛否すぎる理由でこちらも気持ちが向かず、私としては受験だけでもしてみようと声掛けしましたが、らっきょ先生に「対策しないで挑んでもダメです」と言われ、そうだ、そんな甘くないと我に返り、実和の希望のみに従おうと決めました。

【過去問】

アントレのご指導に沿って、夏頃から成蹊10回分、三輪田6回分を11月末（三輪田は1月にも）までに取り組み、直前期には2回目として成蹊の直近過去4回分を解きました。

●成蹊：とても特徴ある出題傾向で、学校からもらう資料や入試対策講座などを参考に学校が求めているものをしっかり把握するようにしました。4科に共通するのは文章をよく読む必要があること、特に国語と社会はその傾向が強く記述も難しく、はじめはかなり苦労しました。算数は基本的な問題が多いですが、計算問題と小問題の配点が半分の50点なので、とにかくそこを落とさないことと、大問は(1)(2)などできるところを優先するようしつこく伝えました。らっきょ先生との12月の面談で何とか近づいてきたのでGoサインを頂きましたが、9月の時点では、女子の合格最低点はとても高く難しいですよ、途中で軌道修正（諦める）が必要になるかもしれませんと言われていました。

●三輪田学園：国語に特徴があり、漢字10題とともに長い長文読解が一問という構成。漢字は大人でもあれ？と思うようなものが出てきます。物語文なら長文も苦ではないですが、説明文が長く続くとさすがに気が遠くなるようで、説明文が出ませんように…と言っていました。前述しましたが、社会では11月の入試説明会で「ここから出題される」という資料をもらい、それを活用しました。過去問は安定していたので、数回やった後は成蹊に集中し、また直前になって解きました。

ちなみに、中学受験での過去問の大切さは受験2回目にしてやっとわかりました。姉の時はレベルが上すぎる第一志望だったこともあり常にマイナス50点などで、ただ途方にくれ何をして良いか分からない、回数を重ねるごとに近づいていく実感もゼロ、しかもその学校に囚われすぎて他の学校は1-2回しかできず…という状態で本番を迎えました。今回は成蹊については1回目で合格最低点に届いたのは1回のみ（しかもプラス6点）と頼りなかったものの、ここをやれば点数がとれるかも、この科目はここがポイントだというように回を重ねる毎に対策を打つことができ、常にそれを意識して臨めたので過去問対策はこういうことなのかと初めて理解しました。

【本番】

実和が受験した学校・結果は下記のとおりです。

●1月

1/10 午前 星野学園（進学） ⇒ 合格

1/10 午後 星野学園（理数） ⇒ 合格

星野学園は2年前にも受験しましたが、受験者数が少なくなったなという印象を受けました。でも実和にとっては初戦、それなりの緊張はあったようですが理数合格はとても自信になったようです。埼玉受験が終わり、学校は1月20日過ぎまで行きました。その頃も「ママがいないとできない」というのは続いており、私も仕事をすべて休むわけにはいかず、その間に家でダラダラしているならと本人の決断に任せました。

●2月

2/1 午前 成蹊 ⇒ 合格（2/2 15:00 発表）

2/1 午後 三輪田学園 ⇒ 不合格

正門の前で別れる時、やりたいようにやっておいでと言ってハグしようとしたら恥ずかしいと嫌がられ、何ともいえない送り出しでした。待機場所で保護者向けに閲覧用の問題が配布されるので見たのですが、社会を見た途端、苦手分野でダメかもと…

終了後、できたよという声は聞こえず、各科目のできなかったところをポツポツ話してきたのでこれは難しいかなと思いました。

吉祥寺から市ヶ谷へ移動し夫が場所取りしてくれていたカフェで昼食。なんとなく落ち着かない雰囲気です。パスタを残し三輪田へ。ここで夫と役割交代し私は一足先に帰りました。夫から国語は説明文だよと連絡が…でも跡見の入試試験で読んだ文章と同じ本からの出題だったので大丈夫かなと思いましたが、帰宅後、国語の時間が足りなかった、疲れたと連発。22:40の発表までがとても長く感じました。

●22:40 三輪田

残念ながら、不合格です。

過去問では安定していたので、この日の合格をお守りに2日・3日は成蹊の結果と残念だった場合はその準備、というシナリオを描いていましたがそれが叶わず… 実和はふーんとすぐに寝ようとしたのですが、少し涙を見せたのでやっぱりショックだったのかなと思いました。（後日談ではそこまで深刻ではなく、その日の三輪田は全く手ごたえがなかったけれど明日はなんとかかなるだろうと思っていたようでした）

一方、親の方がその結果に慌てました。翌日の出願を済ませ（三輪田・跡見）、GCにてアントレへの結果報告共に翌朝 Zoom 応援での励ましをお願いして早く寝ようとしたのですが、三輪田がダメなら成蹊もダメだろうと長期戦になる覚悟をし、また、翌日の三輪田も跡見もいつも通りやればと思いながらも例年の倍率を思うと全く油断できず不安になり、どうなっていくのだろうと眠れない一晩を過ごしました。姉の時は1日午後の合格があったので、それがいかに大切だったかを実感しました。

2/2 午前 三輪田学園 ⇒ 合格

2/2 午後 跡見学園 ⇒ 特待合格

実和がとてもすっきりした顔で起きたので私も頑張ろうと思ったのを覚えています。眠れなかったことと、前日の落ち着かなさを反省しその日は休憩の為にアパホテル（飯田橋）のデイクースを予約したので昼食の準備をしたいことから朝の送り出しを夫にお願いしました。雨だったので市ヶ谷駅の地下道で Zoom 応援をお願いし、らっきょ先生やムーミン先生から「いつもの授業だと思って受ければいいよ」とアドバイスをもらいリラックスできたようでした。

三輪田の終了後、夫とバトンタッチしましたが試験の手ごたえよりもホテルで休めることにウキウキの様子で完全にリラックスモードで逆に心配になりました。（姉の時はコロナ禍だったのでホテルを利用しましたが、実和はそれがずっとうらやましく思っていたようです。実際ファミレスなどに長居するよりはお勧めです）試験の手ごたえは相変わらず話さないのが心配でしたが、私から聞くことはしませんでした。その後「もう一度頑張れる？」「うん」という会話をしながら跡見へ向かいました。

跡見で待機する間、成蹊の発表時間は分かっていたのですが実和と約束していたので見ず、逆に今日どこもダメだったら…ということばかり考え、今から出願できる学校などを調べたりしていました。

跡見からの帰宅中、会場で見かけたアントレのお友達の事ばかり話し、また、突然「高校受験で大変なの？」と聞いてきたので、今日もイマイチですでに高校受験で頑張りたいと言いだすの？とより一層不安になりました。

帰宅したのが18時。三輪田の発表が18:30だったので、まず三輪田、その後に成蹊を見ると決めました。

●18:30 三輪田

「合格」です。おめでとうございます。

ヤッター、まず私が声を上げ、父親・姉も喜びの声。でも実和は冷静でそんなに騒がないで〜と。

●18:35 頃 成蹊

合格おめでとうございます。

またまた私が最初にすごい！と言い、父親・姉も大喜びでしたが実和はほほ笑む程度。

1月の時からそうでしたが、後からじわじわくるタイプのように、すぐに歓喜の声にはならないようです。これも後日談ですが、成蹊の試験後、できなかった箇所は話していましたが全体として手ごたえがなかったわけではなく、本人的にはやることはやったと五分五分だったようです。親の方が1日午後の三輪田の結果に完全に引きずられていました。

●22:00 跡見 合格

特待での合格で、こちらもとても嬉しかったです。

その朝まで長期戦を覚悟していましたが、3校連続の合格発表によって喜びや安堵とともに実和の受験は終了を迎えました。

【父親の役割】

夫は3年前から単身赴任中で姉妹の受験のサポートは主に私でしたが、本人の意思を尊重する受験姿勢は共有していたので、私が行けない時などは学校見学に何度か一緒に足を運んでくれました。また、新年早々の湯島天神へのご祈祷や、受験当日にスムーズに動けるよう、送迎や家での待機中の家事などに積極的に協力してくれました。（姉の時は入学式が初めての学校訪問だったので、実和の時は意識したのかもかもしれません）余談ですが、埼玉受験の翌日インフルエンザに罹り、実和も感染するのでは？とハラハラしましたが、解熱しすぐに松本へととなったので夫一人で済みました。

【最後に】

良くも悪くも全科目3年間不動のBクラスでしたが実和にはとても合っていて、チーム戦やご褒美のジュースなどモチベーションアップにつながる授業などには素直にやる気をみせ、また、アントレでできたお友達と自習室へ行ったり一緒に帰ったりすることもやる気につながり、大変でしたが充実した3年間を過ごせたのかと思います。担任のらっきょ先生はじめ各科目の先生方、お話し相手にもなってくださった個別の佐藤先生、たくさんのお友達と保護者の皆様、実和の成長を見守り支え、一緒に頑張ってください本当にありがとうございました。

一つの区切りとしてまたここからスタートですが、頑張ったことを自信につなげ、中学校生活も楽しく過ごしてほしいと願っております。

吉崎遼太郎くんのお母様

アントレには4年生から3年間、大変お世話になりました。目指してきた第一志望校には届きませんでしたが、息子のチャレンジをアントレの先生方が見守ってくださったおかげで、最後まで受験をやりきることができたと思います。

【アントレ入塾のきっかけ】

小1から地域の野球チームに所属し、家族旅行よりも野球の試合を優先したがるような子供でした。野球を始める前は将棋教室に通い将棋に熱中していた時期があり、考えること、特に算数が好きであったため、小4の学童がなくなるタイミングで塾に行くのがよいのではないかと考えました。

色々検討していく中で、アントレは土日にテスト等がなく野球を休まなくてよいこと、算数でクラス分けされることを知り、息子に合っているのではないかと思い体験を申し込みました。勉強よりもお友達と公園で遊ぶほうがよいと本人は猛反発しましたが、何とか連れて行ったタケノコ先生の授業で「楽しかった・・・」と言って入塾に至りました。

【4年生】

Cクラスからスタートし、初回まとめテスト後にBクラス、5月にAクラスへ移動となりました。お友達もでき楽しく通塾していたのも束の間、早いペースで環境が変わり、本人も不安を感じているようでした。Aクラス移動後の初回の算数の授業で宿題の提出の仕方がわからず、それを聞けるお友達もいない、白板も解けない、もういいや・・・となってしまう、そこからは予習もせず、ハンコ台帳もきれいなまま無言で帰ってくる姿が気になっていました。しかし、白板で○がもらえないのは予習をしていないからで、当然面談でも厳しいことを言われるのだろう、お友達がいらないことを相談するのもおかしいし。。と私もなかなか面談に行くことを躊躇してしまっていました。

いつまでも躊躇しているわけにもいかず意を決して初めてタケノコ先生との面談に伺ったところ、「彼はアントレを楽しめていますか？」と勉強のことよりも私が一番気になっていたことを聞いてくださり、その面談をきっかけに親子で前向きになれたと思います。そこから予習も毎週取り組むようになり、白板でも○が増えていき、自信に繋がったと思います。4年後半には志望校に武蔵が挙がるようになりましたが、週末は引き続き勉強よりも野球の日々でした。

【5年生】

算数のみSクラス、国理社はAクラス。算数は4年の頃から夫が算数の白板問題を全問書き起こし、(書くことで自分も考えられるから、と言っていました)ルーブリーフ1枚に1問、裏に解答を書いて、それをコピーして、毎日復習していました。勉強の比重はほぼ算数で、その他の科目は最低限の予習復習のみであったかと思います。野球も継続。季節講習時は野球のスケジュールとにらめっこしながらどちらかを遅刻や早退にしつつ通っていました。

【6年生・志望校選び】

家から近いことを重視しました。足を延ばせば素敵な学校はたくさんあると思うのですが、部活を始めて朝練や放課後の練習があることを考えると、通学時間はできる限り短いほうがよいと考えていました。徒歩で通える武蔵と自転車で通える城北はどちらも広いグラウンドがあり、何度か見学に行きました。

また、算数1科で受けられる巣鴨も候補に入れました。

【6年前期 初めて国語に向き合う】

算数は大好きで意欲的に取り組むものの、国語が大きく足を引っ張る状況に本人も苦手意識が大きくなるばかりの時期がずっと続いていました。6年生になり初めて受けた合不合模試での厳しい結果を受けて、タケノコ先生との3者面談をお願いしました。そこで先生から、昨年武蔵に合格された生徒さんの家庭での国語の取り組み方を教えていただきました。それは同じ本を2冊用意して、親子で読み合わせをするというもの。「国語を何とかしないといけない、自信になるから小説を1冊読み切ってみよう」タケノコ先生の言葉に、息子がようやく国語に向き合う日々が始まりました。数行しか読めない日もあり結局夏休み差し掛かる頃までかかってしまいましたが、小説「獣の奏者」の読み合わせを親子で取り組みました。

親子で衝突することも多々ありましたが、私にとってこの読み合わせは、大切な思い出になりました。

【6年夏 野球をお休みする】

野球をいつまで続けるか、なかなか決められないまま時間が経過していましたが、本人とも相談し、夏

休み前で一度休部することになりました。受験のためにはもっと早く整理すべきであったかもしれませんが、野球に未練の残る本人にとってはギリギリのタイミングであったと思います。

野球のない夏休み、定着できていなかった理社の知識も入れなければならずやるべきことが満載で、講習以外の時間は毎日図書館に通い頑張っていました。春期講習で1位だった白板レースが夏期では取れず、悔しっていました。

【6年後期 国語の個別スタート】

後期からは国語の個別をお願いし、武蔵OBである先生をご紹介いただきました。初回の授業で「楽しかった！国語わかりやすかった！」と明るい顔で帰ってきたことをよく覚えています。国語は常に不安で暗いトンネルの中を進んでいくような気持ちであったであろう遼太郎にも、家庭で上手に伴走ができない私にとっても、先生は本当に心強い存在でした。主に武蔵演習の復習と、城北の過去問をお願いしていました。11月からは「天声人語」の音読を始め、読むスピードが少し上がったと本人は言っており、手応えを感じました。先生には色々とお苦勞をおかけしてしまったかと思いますが、本当に感謝しております。

遼太郎も、最後は武蔵合格で先生に恩返ししたいという気持ちで国語に取り組んでいたようです。

【武蔵演習・算数のスランプ】

息子の武蔵の合格パターンは、算数を8〜9割得点した上で、国語を50点くらい取る必要があると言われていました。しかし、国語が当初は程遠い点数で苦しい時期が続きました。それでも個別授業で粘り強く教えていただいたおかげで記述も書けるようになり、少しずつ伸びていったと思います。

その一方で、11月後半頃から得意の算数で得点できなくなっていきました。本人は最初「大丈夫だから」と言い張りましたが、城北の過去問でも算数が伸び悩むことがあり、どうすればよいものか解決策が見出せず、不安を残したまま1月の埼玉入試を迎えました。

【1月受験】

1月は1/10 栄東と1/11 開智所沢（4科と算数特待）を受験し、開智所沢の算数特待のみ合格。

やはり算数で思うように取れていないことがわかり、夫と2月の本番まで図形の穴埋めをしていました。

最後の武蔵演習の日、タケノコ先生に声をかけてもらい励ましてもらったそうで、その日算数100点で久しぶりの合格判定。本番もこの調子でいってほしい、と希望を持ちました。

【2月受験】

2月1日午前 武蔵

体調を崩すことなくこの日を迎えられたことに、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。本人は不安で押しつぶされそうな表情をしていましたが、タケノコ先生とラクダ先生のZOOM応援を受けて気持ちを立て直し出発。ですが帰宅後、国語がわからなかった、不合格だと思う、と泣き崩れてしまいました。

2月1日午後 巣鴨（算数選抜）

夫に付き添いをお願いして、試験後「出来た」と手応えありの表情で出てきたそうです。

本人は疲れていたので早めに休ませましたが、親は先に合格を確認して安堵しました。

2月2日 城北

朝、前日の巣鴨合格を伝え、本人も安心した表情で入試に向かいました。城北は国語が物語文1題なので心配で仕方ありませんでしたが、「国語の記述もできたし、算数もできた」とのことで結果は合格。

これまでの合格はすべて算数1科でしたが、初めての4科での合格に、国語も理社も頑張ってきたことがやっと報われた気がして、とても嬉しかったです。城北の合格をもって、受験は終了しました。

そして3日武蔵の結果は不合格。覚悟はしていたようですが、しばらく涙が止まりませんでした。

【おわりに】

受験の結果を受けて、もう少しうまく伴走できればと思うことが多々ありますが、親子ともに今の実力の結果だと受け止めています。本人はまだ挫折感の渦中かもしれませんが、それでも、この3年間頑張ってきたあなたを誇らしく思う、ということを遼太郎には伝えたいです。

算数はアントレの学びの中で伸ばしていただきましたし、苦手な国語も、「解説の時、タケノコともラクダともすごい目が合う・・・」と本人が言っていたように、最後まで伸ばそうと必死になって教えてくださっているのだと、ありがたく思っていました。

紆余曲折あったアントレ生活を支えてくださった担任のタケノコ先生はじめアントレの先生方、個別の土井先生、お世話になりました。本当にありがとうございました。

H. S. くんのお母様

アントレには3年の夏期と冬期の季節講習だけお世話になり、4年の春（3年の2月）から正式に入会しました。息子は姉が通っていた時から自分が通うのを楽しみにしていました。

息子は怠け者で雑な性格のため、丁寧な作業が難しく、ミスも多く、6年前半まで受験への熱意もなく、受験をやめる、やめない、で親と喧嘩になることも多々ありました。褒められないと頑張れないタイプなので、なかなか褒めてあげられず悪循環だったのだらうな、と今は感じています。

家族に3つ上の姉がおり、約5年間アントレの先生方にはお世話になり、長いようで過ぎてみればあっという間の時間でした。

【受験のきっかけ】

本人の希望ではなく、公立中に進学したら、怠けて楽な方にしか行かないだろうと親が考え、親の勧めで入塾。学校見学で桐朋中を気に入り、本人も受験に前向きになりました。

【アントレを選んだ理由】

姉の時からとても信頼が出来る塾だったのと、競争好きなので、チーム戦など競いながら楽しんで学べるところが本人に向いていると思いました。また、先生との距離が近いところなども気に入っていました。

【志望校の選択】

息子の進学校選びのポイントは、①大学進学実績の定評がある学校 ②大学付属は避ける（入学後安心して勉強を怠ってしまいそうな為）③バレーボール部が有る ④先生の話が面白い、独創的な授業が有る ⑤直観的に気に入ったところが有る などに絞りました。

北嶺は父親の勧めで東京での説明会と、学校見学（北海道）に行きました。寮で勉強時間が管理されていること、学校の施設のキレイさ、定期的な寮でのイベントが気に入りました。

桐朋は学校説明会の内容は全く気にもせず、校舎のウッドデッキが気に入った、とのことで心が動いていました。松尾芭蕉「奥の細道」にちなんだ林間学校に母は心惹かれました。

開智所沢は通学時間が短く、通いやすいのが一番の魅力でした。新しい学校で施設がキレイなこと、磯のフィールドワークが気に入りました。朝読書の時間を設けているのも魅力でした。

当初武蔵中学も選択肢にあり第一志望を武蔵にするなら、城北も良いのでは？とのことで選択肢として考えていました。武蔵は試験問題との相性が悪く、入試演習での点数の低さに親子ともども撃沈し、早々に諦めてしまいました。また城北は2/1、2/2が桐朋と同じ試験日、管理型の学校か自由度の高い学校かで悩みました。最終的に本人の強い希望で 第一志望 北嶺中学 青雲寮コース（北海道）（1/8）、第二志望 桐朋中学（2/1、2/2） 第三志望 開智所沢中学に決定しました。

【学習の様子】

ゲーム好きの息子はメリハリ良くゲームと勉強の切り替えが出来ず、なかなか勉強に集中できずにいました。「これ終わったらSwitchやってもいい？」と、勉強よりも暇さえあればゲームとYouTube。6年初め頃、母がゲームの隠し場所を忘れてしまったことから、ゲームが出来なくなり、仕方なく少し勉強中心の毎日になってきました。毎日自分で決めて同じことを出来ないのも、親が今日やることリストを作りただやらされる毎日。自主性を育むことが出来ませんでした。

《算数》

もともと算数は4年のBクラスでフンちゃんから貰える1000円に釣られて100点を取ったという経緯もあり、他教科より得意な教科でもありました。力を入れて頑張っていた教科ではありましたが、5年後期くらいから理解度に不安が有り、いよいよ夏の白板の正答率が酷くなり、後期からは個別指導を算数に変えてもらいました。さすが畔柳先生の指導のおかげで入試演習（男子上位クラス）の算数で安定した点数を取れるようになり、過去問演習だけは意欲的に取り組めていました。

過去問は8月後半から桐朋を中心に5～6年分2回11月からは北嶺を6～7年分12月後半開智所沢1年分を取り組みました。シリーズ計算、4までではいつも計算ミスや自分の字が汚すぎて見間違えることが多く、大問1、2のミスを無くすよう丁寧に式を書くことに注力しました。下剋上算数、中学への算数などの教材を使って学習しました。また過去問で間違った問題ノートを作って何度も間違い直しをしました。

《国語》

苦手科目で6年前期から個別指導をお願いしました。丁寧に文章を読めず、早く終わらせたいがために急いで読んで大事な文を読みとばし、書かせてみれば、問題文に使われている漢字すら間違い、ひらがなばかりの読みにくい文章、文章中の言葉を勝手に別の言葉に変換、前後の意味が繋がらないへんてこな

文章など散々でした。地道に読むことも書くことも嫌いなため記述の練習も捗らず。個別指導の先生に丸投げしてしまい、先生もさぞや苦戦したことでしょう。
結局国語は横ばいのままでしたが、入試演習、授業の演習問題でへんてこな文章ながらも、ただひたすら沢山書くことを覚え、何とか点数を稼ぎ、やりすごしました。

《理科》《社会》

授業の確認テストは合格するものの受験演習問題では、時間が経つと忘れていたり、知識が曖昧だったり、文章が長文になると正しく文章を読めず、応用問題が出来ず、ここでも国語力が問われる不安定な教科でした。

理科は計算分野よりも知識が不安定だったため、とにかく過去問間違い問題解き直しとコアプラスで知識確認しました。

社会の歴史は得意でしたが、ここでも漢字間違いが酷く、人名や地名を悉く間違い点数を落としていました。できなかった漢字をノートやメモ帳に書いたりするのですが、読み返すことがほとんどないため活用されず。受験前になっても漢字間違いだらけで、ぎりぎりになって慌てて練習しました。

算数に力を注ぎすぎて他教科のバランスが悪く、このままでは危ない、と慌てて理社をやりましたが劇的な得点の変化は得られず。自分で読んで復習するのが苦手なため、算数、理科はYouTubeで「中学受験のリスタート」という動画を見て知識を確認しました。

最終的に全教科バランスよく得点を上げるのは困難なため、算数を強みにして受験に臨むことにしました。

【受験結果】

(1) 1/8 第1志望 北嶺中学→合格

アントレではトップバッターの受験日でした。会場は秋葉原で9:20 試験開始だったため、家で鳥鍋雑煮を食べて、7:00 東久留米出発の電車に向かいました。下見をしていなかったため、駅の出口を反対方向に進んでしまい慌ててしまいましたが、早めに最寄り駅に到着していた為、余裕をもって会場入りすることが出来ました。

試験会場は会議場で、保護者は中に入れなかったため、会場前でZoom応援を受けました。通信状況があまり良くなく、途切れたり画像が出なかったり、カッシーにはご迷惑をおかけしました。それほど緊張している様子ではなかったのですが、カッシーの言葉のおかげで自信を持って試験に臨むことが出来た様子でした。

結果が1/11 午前発表だったため3日間落ち着きませんでしたが、「算数がかかなり出来た！社会が昨日やったところが出た！理科も出来た！」というので半信半疑ながら1/10の開智所沢の対策に集中しました。やはり結果が待てずにカッシーに算数の点数を確認しに行きましたが、自己採点では120点満点中の90点以上のはずが結果は63点。北嶺は成績通知が送られてきて、出題分野と得点を表にして出してくれた為転記ミスが有ったことが判明。算数を強みにして行くはずが、いつもは不安定な国語と社会の得点に助けられ複雑な心境でしたが、何とか合格できて一安心でした。

(2) 1/10 第3志望 開智所沢中学校→合格

全く緊張もなく朝食に定番の鳥鍋雑煮を食べ、受験者が3000人以上いるとのことで、受験番号で受付時間の指示が有り朝6:30に電車に乗りました。7時には東所沢に到着しましたが、肝心のZoom応援を忘れ、母はそのまま帰宅してしまいました。家に通学前の弟を置いて来ていたので、慌ててしまいました。本人は落ち着いて受験出来たとのこと。

母が忘れたら気付いてほしいよ、息子よ。開智所沢には何度も来ていたので、その他特にトラブルなく、「絶対に受かっている！」とのこと。開智所沢は当日結果発表でした。「算数は満点かもしれない」と言っていたのですが、結果は90点。北嶺といい開智所沢といい、自己採点の点数に乖離があるのは何故か？どうやら先に問題を解いて後でまとめて解答用紙に書き写した、とのこと。解いたらその都度書き写すように修正させました。雑な性格はなかなか変えられず、相変わらず失敗をやらせてくれます。

(3) 2/1 第2志望 桐朋中学校→合格

以前の試験では合格しているものの、何かとやってくれる息子を信用できず、問題は解いたらその都度解答用紙に書き写すこと、カッシーとのZoom応援を忘れないよう、出勤する父と車で出発しました。駐車場を前日に予約していたので、学校から少し離れた駐車場から歩いて向かいました。少し緊張は有ったもののZoom応援でカッシーと話をするとやはり元気が出ます！学校や塾の友達に会い緊張もほぐれたようでした。桐朋の算数は過去問での相性も良かったせいか、自信を持って受検することが出来ました。結果は当日午後10時。今日の結果がダメだったら明日も受験するつもりだったので受験結果を見ずに寝させるか迷いましたが、「結果が気になって眠れない」というので結果を確認し、家族みんなで喜んで3年間の受験生活に幕を下ろしました。

【受験を終えて】

ゲーム以外は、自分で決めたことでも3日坊主どころか2日までしか続いたことのない息子が、3年間アントレに通い続けることが出来たこと、これだけは立派だな、と思いました。授業中は授業に関係ないことはいち早く発言し、成績は振るわないのに余計な発言をして授業を妨害しては減点、廊下に出されたり、本人はさほど反省もせず、楽しい塾生活だったと思います。最後の冬期講習の休み時間、受験直前の大事な時期に呑気にラップ対決をして巻き込んでしまったお友達、本当に申し訳ありません。アントレは好きだけど受験勉強は嫌い、友達とワイワイするのが本当に楽しかったようでした。

個別指導で算数が劇的に伸びることが出来て、畔柳先生のご指導には感謝しかありません。短い期間では結果の出ない国語では根気強く書くことをできなかったのも、もっと早い時期から読み書きをするのが必要だったと痛感しました。

褒められるのが大好きなわが子、もっとたくさん褒めて調子に乗せてやれば良かったのですが、危機感のない姿に、親が不安になってしまい、怒ってばかりであれこれ口出しして勉強嫌いにさせてしまい本当に反省です。こんなに忘れ物やミスばかりしていて本当に大丈夫だろうか、と息子を疑ってばかりでしたが、なんとか希望した学校に合格することが出来てホッとしました。今までは楽な道ばかりを選んできましたが、これからはフンチャンのモットーのように進むべき道がいくつかある時は自分にとって困難な道を選択して欲しいと思います。

最後にいつも少し残念で突っ込みどころが多い息子を温かく見守り、ご指導いただいたアントレの先生方には感謝しか有りません。お弁当箱、水筒、教材、忘れ物ばかりで本当にご迷惑をおかけしました。(塾最終日も弁当箱を忘れそうになり、友達に助けられました。) 息子はカッシー信者です。またダンディーも大好きで今でも、ダンディー、ダンディーロズさんでいます。楽しい授業と塾生活をありがとうございました。

K. I. さんのお母様

最後に笑顔いっぱい！とはいかなかった中学受験でしたが、終わってみると、この濃すぎた日々が親子共々楽しかった～！という感想です。

参考になることはあまりなさそうですが、アントレでの中学受験を我が家なりに楽しめた体験なら書けそうです。

<受験をするにあたり>

中高一貫校に通う姉を見ていると、中学受験は本当に”通過点”であることを実感します。そこを踏まえて大事にしたことは『健康第一！』。心身ともに元気に過ごせるように気を付けました。夜は遅くて22時には寝ること、無理はせず本人が前向きに勉強できる量まで取り組むことを意識しました。

<入塾～4年生まで>

・4歳上の姉がそれはそれは楽しんでアントレに通っていた姿を見て、「早く行きたい！」「いつから行けるの？」「私はね～どこの中学校にしようかな～！」という感じだったので、新3年生になる2月のスタートから入塾しました。

・4年生までは絶好調！予習復習も一人でできて、まとめテストの成績は4科でほぼAが取れていました。「すごいね～！」「頑張ったね～」の声掛けだけでできていた頃です。

<5年生～6年生>

・5年生からです。算数の白板問題のレベルが一気に上がって、まとめテストでは点数が取れなくなってきました。本人の笑顔が減ってきた時期です。

・アントレのすごいところは、算数は予習シリーズのレベルをすでに前年度の白板問題で扱ってくれていたようで、算数の予習シリーズが20分ほどで終われるところでした。その後に最難関問題集Aまでを、じっくり解くことができたので、本人も算数の予習に関しては大変さはさして感じず、達成感を持って取り組めていました。

・理社は予習シリーズの分量が増え、でも予習時間は今まで通りしか取れないので、時短のため、母が横で解説しながら予習をするようにしました。予習の段階で暗記事項は仕上げておくと、授業の理解も格段に上がり、復習は算数メインで回せました。

・算数は、テストではイマイチでしたが、授業にはついていけているとのことで、引き続き予習復習をこなすだけでした。だんだん積みあがってきて5年生のレベルに慣れてきたのか、やっと12月頃に点数が取れるようになりました。

・アントレでの勉強が純粋に楽しすぎて”お友達作り”まで目がいかず、保護者会で「S女子は無言です。。。」「と言わしめた張本人はたぶん娘です。見かねた柏原先生が何度か女子に声掛けしてくださり(笑)アントレはお友達作りまで面倒見てくれるのか！と知りました。そんな子でも楽しめる塾です。

・6年前期は同様のサイクルで予習復習をしました。成績も安定してきました。

・武蔵算数にも参加しました。5年生まで習い事の時間だったので、時間的には今までと変わらないペースで組み込みました。白板問題とは違うその場でじっくり考える思考系の問題で、初見の問題を読み解く訓練ができたようです。丸はあまりもらえず、難しかったです。

・6年春期講習では、白板正答率が出て「56.3%」。夏期講習での目標は「67%」でした。

・6年夏期講習は、その日の予習を朝、帰ってきてから復習をしっかりやり、早く寝る！という生活であったという間に過ぎていきました。アントレのない講習前や、お盆休みの期間で次週の予習を組み込めると楽に回ります。アントレ漬けの日々が「楽しかった！」と今でも言っています。

・夏期白板の正答率は目標をほぼ達成！！頑張りきって目標をクリアしていく喜びが経験できました。

・夏期講習では、「勉強体力」もだいぶついてきました。ここで頑張りきれたので、後期からの勉強時間増も負担感なく適応できていたように思います。

・6年後期は予習がなくなり、復習になるという意味では勉強が少し楽になります。算数は白板復習、理社はコアプラスなど、単元テストに合わせて取り組みました。

<習い事>

・クラシックバレエを3歳から続けています。

5年生までは週3～4日。体力がつきました。6年春にはコンクール、その後は月1～2回程度に減らし、夏の発表会まで続けました。後期も入浴後のストレッチは続け、よいリラックスにつながっていました。

・勉強だけでなくバレエもあった5年生が一番大変だった！と振り返っています。

＜個別指導をとる＞

- ・理科は、6年生まであまり時間をかけてこなかったもので、理解が浅いような気がしていました。柏原先生に相談し、不安な単元を出してそのコマ分個別を取ってみては、と助言をもらい7月頃から数回理科の個別を取りました。
- ・その時に担当してくださった先生がとても分かりやすく、娘は個別大好きになりました。
- ・後期も同じ先生に見ていただき、主に理科をやりました。「豊島岡対策プリント」で演習量をこなすことで理解が深まり、最終的に得意科目になりました。

＜志望校＞

- ・志望校の一番の条件は「近いこと」。乗り物に弱く酔いやすいので、バス通学は外し、電車でも40分までを限度として検討しました。あとは本人の希望で「女子校」でした。
- ・浦和明の星女子中…5年生夏の見学会で校長先生のお話が娘にささり、げらげら笑っていました。「ここ行きたい!」と初めての憧れの学校になりました。広々とした校舎で温かい校風が母娘とも大好きでした。通学時間はネックでしたが、それを上回る校風の良さでした。
- ・女子学院中…「私服だから」。決しておしゃれをしたいわけではなく、大好きなワンピースとスニーカーで楽に通学したかったようです。文化祭で生徒さん達が明るくはきはきと機敏に対応してくれて、その姿がキラキラして見え「なんか楽しそう」と感じたようです。母は、娘の真面目な性格の上に面白い何かを積み上げることができそうだと感じました。
- ・豊島岡女子学園中…「近い!」から。女子学院と比べると落ち着いた雰囲気にも見え、「勉強勉強!」なイメージが強い印象でした。当初良い印象ではなかった豊島岡でしたが、個別の先生と出会い、「あんなに明るくてかわいくて、めっちゃ頭いい人がいるんだ〜。豊島もいいな!近いし!」と夏頃から話し始め、志望校として意識するようになりました。

＜志望校対策＞

●女子学院

- ・入試演習…今年はクラスがなかったので、独学での過去問演習でした。合格判定は柏原先生に確認していましたが、大体合格が取れていた感触です。
- ・模試…志望者中の立ち位置を知ることと、傾向に触れたくてなるべくたくさん受けました。
 - NN 女子学院オープン 全5回受験 合格4回、不合格1回 ※自宅受験でき便利です。
 - 学校別 SAPIX オープン 【女子学院】全2回受験 合格可能性 60%→50%
 - SAPIX オープン 全4回受験 合格可能性 50%→30%→70%→80%
 - 四谷大塚合不合格判定テストは偏差値も取れず、「なんか楽しくない」とのことで、後期はSAPIXを受けました。前期に2回受験し、35%→25%

・他塾の志望校別クラスの受講

アントレの教材でリズムができていて成績も取れてきていたので、新たな教材に触れることや、慣れない環境に通うことでペースが崩れるリスクの方が大きそうと判断し、柏原先生にも相談の上、受講しませんでした。結果、それが正解だったかどうかは分かりませんが、最後まで余計なストレスなく勉強できた、という意味では我が家にはちょうどよかったように思います。何度か受講お誘いの電話を頂いた際には、娘の現状とか、女子学院の対策についてまた違った視点で助言も頂け、新鮮でした。

・過去問

4科100点でとても重いです。

4科とも分量が多く、なのに40分で解く必要があるため、開始からトップスピードで正確に解くことが必要です。算数も「考えるな!捨てろ!」ぐらいな感じで、解ける問題の瞬時の見極めも必要です。今までアントレでは、じっくり考え抜く!というスタイルで身に着けていたので、だいぶ様子が違い、とまどっていました。もしかしたらそこの対策がもっと必要だったのかもしれませんが。

過去問1週目は全く時間内に解ききれず、慣れるのに精いっぱいでした。最低点(280点で設定)まで-50点から+24点(1回だけ合格)で推移しました。

2週目(明の星後)には、+30~+40点の8割以上は取れるようになりました。

元々スピードがあるわけではなくじっくり考えていたタイプなので、スピードを意識するとミスも増えました。傾向が本人に合っていたとも言い切れず、模試の判定を見るにつけても、合格可能性は50%かな、という挑戦でした。

●浦和明の星

・過去問

11月頃でも国語が7割ほどしか埋められず、これはヤバすぎる！！と気づいて焦りました。

女子学院の過去問からいったん離れ、12月を「明の星国語月間」として、アントレのない平日に1年分ずつ解きまわりました。だんだんスピードがつき、点数が取れるようになりました。さらには、物語文が楽しい！と内容を楽しむ余裕まで出てきました。

この特訓をしたことにより、他校の過去問でも授業内でも国語が安定してきました。

過去問は夏と11月に2回分(国語が取れず不合格)、年末年始や冬期講習期間で5回分取り組み、12月以降は最低点をクリアしました。国語は全部で15回分取り組みました。

●豊島岡女子学園

・入試演習

全8回参加。合格6回、補欠1回、不合格1回でした。

・過去問

家では解く時間がほとんど取れず、主に1月に過去3年の全6回やりました。

最低点を大きく超える回も、年度の中での下回る回もありました。3回受ければどこかでは受かるかな、という気がしたので、2/2、2/3、2/4を豊島岡に挑戦することに決めました。

<入試結果>

●栄東…難関大合格(得意の社会で失点していて、算数も冴えず東大クラスまであと2点)

●浦和明の星…合格

●女子学院…不合格

スピードを鍛えて、4科だいたい仕上がりましたが、算数で今年はさらに大問が増えて、その上をいくスピードを求められたようでした。それでも当日は、手を付けた問題は○を取ろう！と冷静に取り組めたようでした。国理社はできた！と言っていました、どこかの記号で2〜3問落としたのかもしれないし、変な計算ミスが出てしまったのかもしれない。

●豊島岡…合格→進学

2/2はまだ「JGに行けるかも！」とっていて、また、「豊島は受かるだろう」と楽に受けすぎたら、なんか難しかった。。。とのことでした。不合格。。。泣きもせず、すぐ寝る)

2/3は、女子学院も諦めがつき、相当な気合いで挑みました。「いつも通りできた！」と言いながらも、連続で不合格をもらっている、不安しかないようでした。母は怖すぎて『もう今日は見ないで寝よう』とオロオロしてましたが、娘は『いや、あり得ないでしょ』と自分でサイトを開き、番号を見つけました！！本当に嬉しい合格でした！

<入試を終えて>

娘に入試の感想を聞くと『JGの入試本番が本当に一番楽しかった！あとは1月の猛勉強！』とのことです。

女子学院に憧れ、手が届きそうでイマイチ届かず！なレベル感は挑戦しがいがあり、最後まで走り切る原動力になっていました。そして、入試当日の在校生によるゲームの時間(面接時間が後半になってしまったので、待ち時間にクラスみんなでゲームをしたようです)は、『ここ1か月で一番爆笑した！』とニコニコして会場から出てきました。頑張った娘へ最後にご褒美をくれたようです。女子学院、素敵な学校でした。

また、1月は学校を休み、家では1日10時間！を目安に取り組み、そんな日々は充実感いっぱい、日に日に楽しくなっていた様子でした。何をやってもスラスラと解ける感覚があり、全範囲が仕上がっていく実感を持てたようです。

大好きな塾の教材に、憧れの志望校など、色んな事がいい刺激を与えてくれて、娘を飽きさせず、最後まで”楽しい！やって良かった！”の感想で終わることができました。

皮肉なことに(?)、家族やお友達に合格報告をすると、みんなが口をそろえて『豊島似合う！』『言いにくかったけど、JGよりも豊島だと思ってた！』と言われます。慰めかもしれませんが、“一番合っている学校に決まる”というの聞いたことがあり、今は本当にその通りだと思います。豊島岡の教育方針を地で生きてきたような娘です。

持ち前のコツコツと努力ができる真面目な性格を大いに活かして、胸を張ってたくさんのチャレンジを楽しんでほしいです。

いっちゃん、合格おめでとう！！！！

娘に努力、喜び、楽しさ、最後は涙も含めて。。。12歳にして豊かな本気の経験をさせてくださったアントレの先生方、本当にありがとうございました！

K. M. くんのお母様

【はじめに】

息子は3年生の冬期講習からアントレに通いはじめました。
ふり返ってみれば、入塾当初は「親子二人三脚の中学受験」に幻想を抱いていました。
しかし、息子が4年生になってしばらくたった頃、思いのほか早く、激しい反抗期がおとずれました。
ゆえに、家庭での親の献身的なサポートは困難でした。そんなわが家の受験体験を、本稿に記します。

【志望校の条件】

息子からの条件はただひとつ、「鉄道研究部がある学校」でした。また、親としては、通学時間が片道1時間程度、男女別学、外部進学者が多い学校を希望していました。

【入塾のきっかけ】

先述の条件に当てはまる学校の中で、最も通いやすい学校が武蔵中学でした。そのため、武蔵対策が可能で、予習型かつ宿題が多すぎない塾を探しました。

アントレは、体験授業で「楽しく通えそう」と親子ともに感じたことが決め手でした。入塾後もその心証に違わず、塾選びは息子にとって最良の結果となりました。

【入塾後のこと】

親がやり方を指示したり間違いを指摘したりすると癪癪を起こすため、授業の予習も宿題も、基本的に全て息子が一人で進めていました。親は、息子からたまに投げかけられる質問に、ヒントを返す程度でした。

算数はわからない問題があると、意地でも解答を見ずに取り組んでいました。この姿勢には、親も非常に感心しました。

算数が好きなおかげで、クラスは順調に上がりました。一方で、知識系の復習を嫌がっていたせいか、国理社はSクラスとAクラスの間を行ったり来たりしていました。

5年生の夏休み前には、個別授業を申し込みました。先生へご相談することで、息子は気持ちを落ち着かせることができました。さらに指導報告書もこまかく記していただけて、とてもありがたかったです。

【アントレでのクラス変遷】

4B→4A（4年前期第6回～）→5S→6S

6S前期に武蔵算数、6S後期に入試演習武蔵クラスを受講。

【入試演習武蔵クラス】

カッシー先生のアドバイス通り、算数に力を入れました。主に武蔵プリントや夏期講習中の白板問題の復習に取り組みましたが、後者は親がうながしても全く手をつけなかったため、カッシー先生に宿題として課していただきました。

また、国理社の記述の直しをおろそかにしがちだったので、ダンディー先生に直しのチェックをお願いし、モチベーションを上げていただきました。

全15回の演習を通し、息子は安定した得点を取りにくいタイプで、武蔵の可否は出題内容（運）次第という印象でした。

入試演習結果（全15回内訳）：合格11回 補欠3回 不合格1回

【過去問】

6年生の夏休みから過去問に触れはじめました。そして6年生後期では、毎週の入試演習や模試に加え、過去問も進める必要があります。このルーティンはなかなかうまく回りませんでした。

元より、親がたてたスケジュールに反抗期の息子が素直に取り組むことは難しく、解いた過去問の量は相対的に少なめだったと思います。

【外部模試】

外部模試の成績推移は表 1 と表 2 の通りです。

6 年生後期に入ると、なぜか入試が近づくほどにやる気をなくしていきました。表 1 と表 2 の 11 月～12 月の欄を見ると、それが成績へ如実に表れていますね。

表 1：四谷大塚合不合判定テスト結果

第 n 回	日付	点数(500 点満点中)	4 教科偏差値(男子)
1	04 月 07 日	299 点	54.02
2	06 月 30 日	342 点	60.42
3	09 月 08 日	368 点	63.05
4	10 月 06 日	386 点	64.71
5	11 月 17 日	353 点	58.29
6	12 月 01 日	355 点	57.30

表 2：学校別サピックスオープン武蔵結果

第 n 回	日付	点数(320 点満点中)	4 教科偏差値(男子)	武蔵合格可能性
1	09 月 06 日	189 点	63.00	80%
2	11 月 23 日	164 点	53.60	50%

【2025 年 1 月頃のこと】

感染症対策のため、小学校は 1 月の始業式後からお休みしました。しかし、メリハリの欠けた生活になるばかりで、感染症のことさえなければ、小学校には登校させた方が良かったと思っています。

栄東東大特待 I の受験後、不合格の報を受け息子が奮起することを少しばかり期待しましたが……結局、最後まで火が付くことはなく、東京校入試を迎えました。

【入試結果】

入試結果は表 3 の通りです。

武蔵の入試では、国語に例年にない形式の問題が出題され、動揺したようでした。得点源の算数にまでその動揺を引きずってしまい、過去問と比べ手応えもあまりなかったと聞き、合格発表まで親も気が気ではありませんでした。

結果としては、無事に合格をいただきました。息子がアントレで楽しく学び、本人なりに真剣に受験と向き合ってきた成果だと思います。

表 3：受験校と合否

受験日	出願校	合否
01 月 10 日 AM	開智所沢①※	合格
01 月 12 日 AM	栄東東大特待 I	不合格
02 月 01 日 AM	武蔵(進学先)	合格
02 月 01 日 PM	巣鴨算数選抜	合格
02 月 02 日 AM	城北②	合格
02 月 04 日 AM	芝②	合格

※ 開智所沢の入試問題解説動画は、視聴可能期限が 12 月上旬まででした。受験予定の方はご注意ください。

【おわりに】

反抗期がはじまって以来、はたして中学受験をやり遂げることができるのか、不安に胃を痛める日々の連続でした。ですが、今こうして受験体験記を書き上げながら、ほっと胸をなで下ろしています。

最後に、アントレの先生方、個別授業の畔柳先生、松尾先生、大変お世話になりました。息子に人生の財産となる体験をさせてくださり、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

N. Y. くんのお母様

元気な姿で会場に送り出せた事に感謝します。アントレで過ごせた約3年間は楽しく充実していたと思います。しっかりと自分の意見を持ち、言ったら聞かない頑固な性格なので最後まで走り通せると信じていました。長男も通っていたアントレの体験に3年生で参加。私立受験をする事を決定。しかし私は長男の受験で疲れ切っていた為、次男の伴走は初めやや消極的でした。都立中高一貫校にチャレンジし、だめなら近所の公立中学校でいいとも考えていました。私立中学受験の条件として5年生の2月からゲームテレビマンガは一切禁止、6年生の夏頃からは友達と遊べなくなる事をあげました。

入塾前からしていた習い事

水泳、公文は両方とも5年生の春にやめました。漢字が好きで5年生の秋までに漢字検定4級を取得。算数は苦手で公文の進度も良くありませんでした。

志望校決定まで

4年の夏頃から合同説明会に参加しました。本人の希望は男子校でも共学でもどちらでも良い。環境、校風重視、クラブ活動がたくさんある学校。合同説明会で気になった学校は全て訪問しました。初めから日大豊山を気に入り、去年新設の開智所沢もありますが、きれいな学校に魅力を感じていたとも思えます。私は各学校の説明会でいつも大切な我が子を預けるかもしれない前提で聞いていました。自分たちの学校を好きになってもらいたいと思っている学校を探したいと思っていました。

5年生

まとめテストでランクインすることは殆どなく。危機感も一切なくのんびりと楽しく塾に通っていました。先生チェックがある宿題だけこなしていれば良いとさえ思っていたのか、親に指示されないと動かない。集中力は長く続かない。ゲーム漫画は隠して当たり前にする。典型的な幼い小学生男子でした。Bクラスから算数のみCクラスへ。Cクラスでの授業はついていけるので更に楽しそうでした。ご褒美帳を作り、頑張ったらシールとご褒美なんて子供騙しの工夫もしましたし、半年だけオンライン授業のコベツバもやりました。

6年生

合不合テストが始まり、いよいよ自分の立ち位置の危うさを理解してきたのか？第一志望の日大豊山の第1回目～6回目の合不合判定 25%→75%→20%→20%→20%→50%全然安心できません。まとめテストでは振るわなかった順位も、入試演習クラスが始まると実名での順位公開があり、やっと自分から勉強するようになりました。同時に9月から個別指導にて算数強化。本人の口から「こんなにお金をかけてもらっているのに全落ちしたらどうしよう。」と焦りの言葉まで聞こえてきました。苦手な算数は個別や入試演習クラスのおかげで、定着までとは言えなくても徐々に基礎の大問1、2の正答率は上がりました。しかし壊滅的だったのは理科です。嫌いなものは嫌い！と最後までやりませんでした。合不合の2科と4科の偏差値差は4科-5ポイントで、入試を4科でクリアするのは厳しいと判断しました。

◆入試結果

1月

1/10 午前、開智所沢 × 1/10 午後、城西川越 ○
1/11 午前、城北埼玉 ○ 1/11 午後、開智所沢 算数特待 ×
1/12 午前、開智所沢 ×
1/15 午前、開智所沢 B特待 × →開智中併願型判定 開智未来 ○

2月

2/1 午前、日大豊山 ◎ 2/1 午後、校成学園 グローバル特待 ×
(2/1の結果次第で2/2午前に武蔵野大を予定していましたが出願せず)

開智所沢は算数120点配点のため4科バランス（特に算数）の取れない子には難しいのでチャレンジ校と思って挑みました。開智学園は同時判定を行っていて、開智中以外にも開智望と開智未来の結果も希望すれば見ることができます。算数が苦手なのに算数特待を受けたのは加点の為です。開智は最大加点+30点と大きいです。1月は2月の対策に時間を充てるため、本来はこんなに受ける必要はないと思います。しかし我が家は2/1までに6回の入試を経験できた事で落ち着いて本番を迎えられたような気がします。開智所沢以外は2科判定ありの学校に絞っています。

過去問で点数が取れない！入試直前の状況

開智所沢、城北埼玉の過去問を夏から行いましたが、全く合格最低点に届きませんでした。本人も自信を無くし「城北埼玉の問題は自分に合わないから受けたくない」と言ってきたため、対策をする時間がありませんでした。城西川越も受ける事にしました。

日大豊山は昨年、佼成学園は今年から問題が難化しました。時間配分、1問でも許されないミス、字の丁寧さと対策は一見簡単そうですが幼き男子には不利です。追い上げの時期は問題ごとにタイムを計りペース配分強化と苦手な問題から逃げない、粘り強さを身につける事に努めました。結果本番で埋められなかったのは1問だけで、入念な見直しができたそうです。最後は根性と執念で勝ち取ったなと思いました。

受験を終えて

「絶対に2月1日で合格するから！」と振り返る事なく会場にあっさりと入っていく息子は有言実行してひと回り成長して帰ってきました。受験を終えて、私自身が子供にチャレンジする心と勇気を逆に教えてもらいました。子供が受験すると言わなかったら見られなかった景色は素晴らしかったです。先生方、手の掛かる子供を連続で預けてしまってすみませんと言う気持ちと、6年間お世話になりありがとうございました。素晴らしい塾に出会えて親子共々成長させていただきました。

S. H. さんのお母様

アントレの先生方、大変お世話になりました。あまり欲がなくマイペースな娘が志望校から合格をいただくことができたのは、先生方からの日々の励ましや「あなたなら大丈夫」という言葉のおかげです。

是非体験記を書いてくださいと言っていただきましたが、皆様に参加していただけるような子供との関わりや勉強ができたわけでもなく、どうしようかなあと迷いました。ただこの3年弱、事あるごとに悩み試行錯誤を繰り返し、最後の最後で家族で喜び合うことができたという経験を何らかの形で残しておきたいと思いました。この場をお借りして、我が家の体験記を記録させていただきます。

◆入塾のきっかけ

両親ともに中学受験未経験者、親と違う経験ができるのもいいのではないかと思います、4年生の春から受験を検討し始めました。いくつかの塾でお話を伺いましたが、フンチャンのお人柄に惹かれたことと、体験授業を受けた本人が「楽しかった、通いたい」と言ったことが決め手になり、4年生の5月に入塾、娘の受験生活が始まりました。

◆習い事との両立と、視力低下危機

最初の難題は習い事をどうするのかでした。それまで4つの習い事をしており、さすがに4つ+塾は無理だろうと娘との話し合いを開始。週2日で宿題もあるくもんは諦めようと話すと、一番好きだから絶対やめたくない！と聞かず、できるところまで並行してやってみることにしました。が、忙しい生活が始まってから1か月半で、左目の視力が1.5から0.4まで落ち、仮性近視の診断。長時間細かい字を見ないようにと言われてしまい、娘と話し合った上でくもんは諦め塾を続けることに。他の習い事もタイミングを見ながら終わらせていき、3歳ではじめた体操だけは6年生の夏期講習前まで続けました。やりたいことを諦めてもらい、目まで悪くして、中学受験を勧めたことは正しかったのかと考える日々…。

現在の視力は右が1.5、左が0.1とがちゃ目で固定されてしまい、眼鏡は不要ですが、疲れないか心配です。最終的には「塾が一番楽しい！」となったので、習い事で悩んだ日々も忘れてしまうぐらいになりましたが、眼だけは後悔が残りました。皆様はくれぐれもお気を付けください。

◆志望校の検討

自然災害や感染症の広がりなど不測の事態を考えた場合、できるだけ近くの学校がいいと思い、通学1時間以内を目安に志望校探しをスタートしました。娘の希望は女子中学。保護者会で度々話に出ていた富士見中学を調べてみると、校舎がきれいで明るい雰囲気、この学校に娘が通うのは素敵かもしれないと感じるように。4年生の10月からオンライン説明会や校内案内、サマースクール、学園祭など参加できるイベントは概ね参加し、母娘共に気に入って、第一志望校に決めました。他の学校も調べなければと思いつつ、日々のやることに追われて放置してしまい、本格的に他校を調べ始めたのは6年生の夏前になってしまいました。大妻中野中学、星野学園中学のオープンスクールに行き、大妻中野の合唱部に感動、星野学園は施設が素晴らしく学業も部活も頑張れそうだなと感じ、両方とも受験校に加えました。開智所沢中学にも行ってみたのですが、本人が何となくしっくり来ていない様子。こちらも親の意向で受験校に加えましたが、本人のやる気が出ず受験日までそれを引きずってしまいました。

◆苦戦した受験勉強（最初が肝心だったのかも…）

4年生はBクラススタート、当初は親が積極的に予習に関わっていましたが、忙しさにかまけて本人に任せようになってからぐんぐん成績が落ち、5年からはCクラスに。まずいと気づいたときには得意なところだけ頑張るといった勉強スタイルになっていました。5年生からは朝の時間にやることを明確にし、生活リズムを整えるところからやり直しました。クラスが落ちた悔しさから本人も頑張り、国語と算数はBクラスに戻れましたが、理社はずっと苦手意識が抜けず、最後まで苦戦しました。6年生から個別をお願いし、算数を見ていただきながら理科の計算単元も教えていただきました。私自身仕事が忙しく、一緒に勉強する時間を十分に確保できないことはわかっていたのに、親がやるものだという考えに固執し、仕事と育児の両立に悩み、家庭の空気が重くなりました。よく中学受験は親の受験と言いますが、私たちには頼れる塾があったのだから、もっと早く個別をお願いして自分ができないところを補うべきだったと感じています。

◆ドキドキの1月受験

1月10日、午前は開智所沢、午後は星野学園の理数選抜入試。開智所沢は事前準備が全くとできておらず記念受験かなという感じ。理社に不安があるので、星野学園は進学クラスでの合格を目標にしましたが、初日に理数選抜クラスも受けることができたのでチャレンジしてみました。結果は両方とも不合格。予想はして

いたのに、親が意外とショックを受けてしまい、もしかしたら全然足りていなかった？全部落ちる？？と不安が押し寄せます。当の本人は「そっか〜」という感じで、何を考えているのか気持ちを汲み取れず、大した声かけもできない初日になりました。翌日、星野学園の進学クラスは本人曰く完璧にできたようで、無事に合格。開智所沢はダメでしたが、同時判定の開智未来の合格をいただきました。娘も私もようやく一息つけましたが、ここまで受験にノータッチだった主人が2月受験に向けて一緒に勉強すると言い出し、2月本番までの約2週間、父娘の算数特訓が始まりました。主人が朝2時間、四まと過去問を解き、夜2人で2時間勉強、私は他の教科の管理を担当しました。残りの時間を悔いなく取り組みたいと思い、フンチャンに最後の面談をお願いし、本番までの学習方針を定め、我が家は一気に本気モードに切り替わりました。あれもこれもと混乱した時には個人面談をお願いし、明確なアドバイスをいただくことで安心することができました。

◆2月受験〜3度目の正直

2月は第一志望の富士見と第2志望の大妻中野を3日間受け続けるつもりで予定を組みました。2月1日、朝食に富士見米で作ったおにぎりを食べ、学校に向かいました。先生の応援で力をもらい、いざ試験会場へ。帰ってきた娘は国語の漢字が全然できなかった・・と出鼻をくじかれた様子で、案の定不合格。家の中に重い空気が流れたところに大妻中野合格の連絡。富士見がだめでも大妻中野に行ける！という安心感から、また明日も頑張ろうという気持ちが復活したようでした。2日目は「すごいできた。白板が全部出た！」という帰ってきたので、もしかしたらという期待と、でも理社のことを一言も言わないということは・・という不安とを抱えて結果を待ちました。家族3人で見えた画面には「不合格」の文字。少し覚悟を決めていた私とは裏腹に、娘は初めてショックを受けた様子。主人も心配そうに娘の顔色をうかがいます。

「国算はよくできたと言っていたよね。理社はどうだったの？」「国算で疲れちゃって理社はあまりできなかった」「そうしたら、まだ力を出し切れなかったのかもしれないね。明日は悔いが残らないように、最後の最後まで力を振り絞ってみるのはどうかな」「うん、頑張ってみる」

そんな会話の後で、娘は「理科やろうかな・・」とやって夏期まとめテストを解き始めました。3日目が相当厳しいことは本人もわかっていたましたが、やるだけやろうと気持ちを奮い立たせたようでした。

2月3日最終日、今まで支えていただいた沢山の先生方のエールをいただき、最後のチャレンジに向かいました。帰ってきた娘に恐る恐る出来を聞くと、前日よりはできなかった気がする、でも理科は初めて全部埋められたといい、本人なりに最後までやり切ることができたようでした。

そして、家に帰り少し落ち着くと、「受験してみて、もう一度受験がしたいと思った。もっと頑張ればよかった。大学受験はもっと頑張りたい」と言い、まだ計算テキストが何日分が残っているから、明日も朝やると言い出しました。その言葉を聞いた時、今回第一志望には届かなかったかもしれないけれど、娘は小学6年生にして、未来につながる良い経験ができたと感じました。

半ば諦め気分で、でも最後だから皆で結果を確認しようと画面をのぞき込むと、まさかの『合格』の文字。

「うそでしょ？受かった！？」大騒ぎになる3人を4つ下の弟がビックリして見ています。お姉ちゃん大好き、一緒に遊びたいのに沢山我慢をしてきた息子が「ひよりさんおめでとうございます、ふじみお疲れさまでした」とかしこまった挨拶をして、皆で大笑い。主人も娘の追い込みに付き合ったことで喜びを共有することができ、家族総出で目まぐるしく感情が揺さぶられた3日間が終わりました。

◆最後に

第一志望校が早い段階で決まっていたのに、こんな綱渡りのような受験になってしまい、受験生の親として至らない点が多すぎました。ただアントレに合格の報告をしたときに、フンチャンに「最高の受験でしたね。悔しい思いもし、最後に笑うことができましたね」とおっしゃっていただき、救われた気持ちになりました。

最後の最後で力を振り絞れたこと、そしてもっと頑張ればよかったと後悔しながら、次はもっと頑張ろうと言うことができた娘は、私が思うよりも強い子なのかもしれません。最後までやり切った経験は、この先の娘を助けてくれるはずです。

最後に、アントレの先生方に心から感謝申し上げます。一緒に学んだお友達とも離れがたく、アントレがない毎日を寂しがっています。キットカットを配ってくれたクラスの男の子たちもありがとうございました。素敵すぎて直接御礼を伝えなかったです。娘に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

S. K. くんのお母様

我が家にとっては2回目の、次男である息子の中学受験体験記となります。

次男には3歳ずつ離れた兄と妹がいます。

3年前の長男の時は主人が担当しましたが、次男は母親と勉強したがるが多かったため、母親が担当することになりました。

主人も私も中学受験をした、という経緯から子供にも中学受験をさせるという方針が最初からありました。

[新3年生の2月からの入塾]

兄(当時6年生)が毎日通っているアントレに自分も行くことが嬉しいくらいの気持ちで通い始めました。

○勉強の習慣作り

(アントレ週1、サッカー週4、公文週2)

小学校のサッカークラブに所属していたためクラブがない平日は勉強の習慣を取り入れたいと考えていました。土曜日も共働きのため自宅で全く勉強できないことから、3年生の夏に個別も1コマのみ取り始めました。

3年生から個別を取ることに対して、アントレからは難色を示されました。個別といえば6年生が取るものらしく、3年生から個別を取っていた生徒は過去にいないかもしれません。

今となっては個別最長記録を出したと喜んでいますが、とにかくアントレが好きだったということは間違いないです。予習も復習も自宅における学習はほとんどしていませんでした。

[4年生Aクラス]

小学校のサッカークラブに入っており5年生の夏まではサッカー優先、夏以降は受験に本腰を入れるというのを予め本人と話し合っておきました。

(アントレ週2、シリーズ解説(土曜日)、個別平日1コマ、サッカー週4、家庭教師週1)

○国語が苦手な息子

3年前の長男の受験において最後まで得点の足を引っ張った国語に関しては、次男も同様苦手で早めの対策が必要と感じていました。

長男の受験を振り返った時、国語という科目が苦手な子にとっては集団授業だけではどうしても消化できない部分があると思うようになりました。国語の復習は多分非常に時間がかかるのだと思いますが、答えを覚えてしまっているため復習にならないと感じることも多かったです。

長男は最後まで国語嫌いのまま受験を終えましたが、このループにはまる前に何とかしたいと考えていました。

そこで国語のみ週に一回(都合がつかない場合はキャンセルという無理のないペースで)家庭教師をつけることにしました。国語への関心を引き出すことを目標にしました。

家庭教師の先生は興味を引くような本を数ヶ月ごとに持ってきてくれました。

この頃は家庭教師の時間に居眠りすることが多かったのですが、読書を通じてか苦手意識は持っていなかったようです。

また、サッカーの試合が土日に入ることが多くアントレの予習、復習ともできないことが多かったです。

○理社は後からでもなんとかなる

○算数はアントレのAクラスについていくことができている、今のところ心配ない

○国語は短期間で急には伸びない

この3つは長男の受験を終えた後主人もよく口にしていたことで、私もそう思いながら次男のことを見ていました。

[5年生前期] 算数Sクラス他Aクラス

(アントレ週3、個別土曜日に2コマ、サッカー週1~2、家庭教師週1)

○アントレの保護者会①

年に4回ある保護者会だが、非常に重要です。

長男の時から聞いてきたお話ですが、ジョークも交えながらサラッと大事なことを言う先生たち。アントレファンが増えていくのも納得です。

志望校設定の考え方、入学後のイメージなどフンちゃんのお話は子供の将来を遠い先まで見据えた上でのものであろうことが感じ取れます。

入学後に成績が中の上にポジショニングできそうな学校こそが適正校である、という考えに深く共感することが出来ました。

この頃から次男の志望校は長男と同じ桐朋であると意識していたように思います。

○モチベーションと個別

5年生からは勉強時間が急激に増えていきますが、学習習慣の確立には多くの課題が残っていました。

特に、勉強に対するモチベーションの維持は容易ではなく、親がいない環境下での自律的な学習には限界がありました。

平日はその日やることをリストにし勉強コーナーの机の前の白板に記載しておくという形をとっていましたが、全て終わっている日はほとんどありませんでした。

また学校のない土曜日午前に国語の家庭教師を、午後は個別を取ることにしました。

個別はお友達と2対1という形でスタートしましたが、様々な問題が生じて結局1対1の形となりました。

サッカーは、日曜日の試合と平日練習のみで継続していました。

相変わらずご褒美がないと勉強に向かおうとしない次男の姿勢は変わっていませんでした。

○S→A→S

Sクラスの算数についていこうと白板の予習復習をこなすことで精一杯な状況が続きました。

国語は家庭教師頼み、理社に関しては要点チェックすら解いていない時もありました。

まとめテストにおいて理社国はおろか、算数も得点できない状況が複数回続きました。

最後までAクラスにいた長男とは違うという気持ちが次男にはあったようですが、算数のまとめテストで2回連続ボーダラインを割り、Aクラスへ移動することになりました。

Sクラスに戻りたいという気持ちがモチベーションとなり、自主的な勉強姿勢が見られました。

次のまとめテストでしっかり点を出し、再びSクラスへ戻りましたが、それと共に自ら机に向かう姿勢も消失しました。

こうした小さな成功体験が彼の中に自信を形成する理由になったのかもしれませんが、根拠のない自信や言動が多くなってきた様に感じるのもこの頃からでした。

家庭教師の方では1回の授業で難易度の高くない過去問や予習シリーズの読解を2問ずつくらい行っていた。

○白板ノート

白板の字は相変わらず読めず、解読には時間を要しました。

解き直ししやすい宿プリの整理の仕方なども母友達から教えてもらい授業のノートと宿プリは一つにまとめました。

アントレは面倒見がよい塾だとの評判を聞きますが、それは予習復習をしっかりこなしている場合の話だと思います。

自らやる姿勢のない子には決して甘くないと思います。白板があまりにも読めないので一括してコピーが欲しい、とカッシーに頼んだことがあります。本人にさせようとするのとは違いました。

もし簡単に手に入ってしまうとやはり子供が育ちません。けれど本人すら読めない白板の復習などやる気にならないのです。6年生の最後の方は本人のみぞ分かる白板ノートとなりましたが、母親にとっては最後まで解読不能でした。

○とにかく算数

5年の夏期講習は今思うと算数固めと言ってもいいほど非常に重要だと思います。

単元毎の予習は必ずしておかなければ受講する意味がありません。これができないと算数は伸びないのだと思います。

ここでまた過去の白板ノートが大切になってきます。

しっかり整理されていないと毎回の予習にとりかかることができ。復習が甘いと実は解答がちゃんと写しきれていなかった、などの問題が再び炙り出されます。何度足りない白板のコピーをもらったことかと思えます…

夏期講習では4科目受講しましたが、算数の予習と復習に追われて他の科目はそっこのけでした。

この大変な夏期講習を終えての夏期まとめテストですが、辛酸を舐めるような結果と共に終わりました。

この時点では恐らくみんながそこまで高得点は取れていない状態だったのではと思います。

○Nintendo Switch

後期も算数のみSクラスに在籍することになりましたが、少ない勉強量とそれ相応のまとめテストの結果が続きました。

なんとか自宅での勉強時間を増やしたい母と勉強したらご褒美が欲しい息子。

これまで家にゲーム機を置かない状況でやってきましたが、つまらないご褒美にも限界がきます…

なんとここで母は最強のご褒美として Nintendo Switch を購入する約束をしてしまいました。この時のまとめテストだけはよかったです…

Switch が我が家に導入されてからはその日の課題とプレイ時間の管理が日課となりました。

[5 年生後期]

(アントレ週 3、個別土曜日に 2 コマ、平日 1 コマ、家庭教師週 1、サッカー休会)

○アントレの保護者会②

毎回の保護者会で各科目への取り組み方、課題についてしっかり説明があります。配信制だったので冊子を手に何回か見て、日々の時間割へと落とし込んでいきます。やることが非常に明確で迷いませんが、息子にとってはついていくのが大変でした。

○とにかくまだ算数

5 年の後期になると算数の難易度はピークを迎え、最難関問題集をやり切ることが困難な状況になってきました。予習の時にサブスクで中学受験コベツバを利用していました。カッシーのようにテンポよく予習シリーズ、最難関問題集の解説をしてくれます。その動画を見ることで予習がすんなりできるので重宝しました。

S クラスの算数についていくことでいっぱい息子にとって理社まで手を回す余裕は全くありませんでした。

課題をこなせない状況について数ヶ月に一度くらいカッシーに面談をしてもらっていました。

白板の復習だけはとにかく翌日もしくは週末までに終わらせ、まとめテストの直前に 2~3 回目の復習をするということだけは徹底しました。

S クラスに所属している子は武蔵！というのがアントレでは当たり前のような雰囲気と感じます。この頃は本人的にはみんなと同じ武蔵志望と考えていたかもしれませんが。ただ親としては A クラスにいた長男とほぼ変わらないポジションだという認識でしたので志望校もやはり桐朋になると予想していました。

[6 年生前期]

(アントレ週 3 個別土曜日 3 コマ、平日 1 コマ、家庭教師週 1)

○四谷の合不合格判定テスト

6 年生からはカリキュラムに模試が入ってきます。

第 1~3 回のテストにおいて志望校判定はほとんどの科目において E 判定でした。

S クラスの算数に慣れていけばスピード感もついてくるため算数のみ B 判定の回もありました。

しかし国語は平均より大幅に下回っていましたし、理社も平均より下回っていました。

それでも理社は後回し、国語の対策を本気で考える時期となりました。

○苦手な国語

国語は家庭教師に任せっきりにしていましたが、気付けば丸 2 年半経っていました。先生とはとても仲良しになっていましたが、緊張感が全くなく眠いと未だに船を漕いでいることもある、とのことでした…

国語という教科を嫌いにはなっていないし、読解力は低くないとも言われましたが点に結びついていないことは確かでした。このままではまたしても国語がネックになってしまうのではという懸念から先生の変更してもらいました。新しい家庭教師の先生になってからは、ひたすら色々な学校の過去問の読解を行いました。

また個別の新本先生とラクダに相談に乗ってもらい、語彙力を上げるドリルや読解用の教材のご提案をいただきました。

更に A クラスの国語を真面目に受けていないというお話も受け、苦手な国語を敢えて S クラスで受けることにしました。S クラスの記述についていくため記述の予習を行なうというかなり特殊なことも土曜日の個別にて始めました。

アントレは個々を伸ばすためになら色々な保護者の要望にも柔軟にに応じてくれる、と改めて思いました。先生たちは普段の授業において生徒たちをよく見ていることが分かります。家庭教師の先生からは読解力はそれなりにある、と言われひたすら色々な学校の過去問をこなしていききました。

さらに個別の先生やラクダにも読解、記述力が少しずつ伸びてきている、と言われました。

ようやく第 4 回目の合不合格判定テストで国語が平均点に少し近づいてきており、兆しが見えてきたように感じました。

○アントレの保護者会③

アントレでは 5 年生までは特に模試を受けません。あまり参考にならないこととその時間があるのならアントレの課題に沿ってしっかりこなしていく方が大切と考えているからだと思います。

子供のポジションと志望校も気になってくる時期ですが、その点もアントレはしっかり分析しています。とにかく先生達の言っていることを信じてやるべきことを続けるのみです。

[6年夏期講習]

算数基礎固めを行なった5年の夏期の時と違うのは理社への取り組みでした。

算数の予習復習は5年の時よりも時間がかからなくなってきていましたので、理社の予習復習に少しシフトできました。

相変わらず自宅での勉強にはご褒美が必要な次男で、Switchのプレイ時間もそれなりに確保できないと満足できなくなっていました。モチベーションを上げるためにも必要なことだと割り切るしかありませんでした。

志望校を目指して自ら勉強する日というのは本当に来るのだろうか？あと半年しかないのに…という親の焦りは全く子供には届いていなかったように思います。

夏期講習が終わると算数だけでなく理社の苦手単元が明確に出されます。

後期はこれを元に日々やるべきことを時間割にまた落とし込んでいきます。

[6年生後期]

(アントレ週4：土曜日の入試演習が追加、個別：日曜日3コマ平日1コマ、家庭教師週1)

○木曜日以外は毎日アントレ。

こうして振り返ってみると息子はほとんどアントレにいたことが再認識される。自宅での勉強時間は短いといつも思っていたのですが、今思うとアントレでやっていたのでしょう。

6年生の9月は息子にとって受験がまだまだ先に感じるらしく、夏期講習を走り抜けて少し中だるみへ突入してしまいました。

小学校の行事も最後の思い出作りということで勉強へのスイッチがなかなか入らない日々が続きますが、こういったことも先生たちは最初から分かっています。

○志望校の決定

入試演習開始後1ヶ月間は武蔵クラスを受講していましたが、親としては志望校を確定して傾向を掴み、対策をしっかりと取りたいと考えました。

そして10月に本人との話し合いを行い桐朋に決定しました。

自由な校風と自主性を育てる教育。 国語の課題に文作が多いことも特徴です。

苦手科目国語はこの受験を通して伸ばしたいというのがそもそも根底にありました。

また通学においても西武線の下りは登下校とも空いていて座れる、というメリットもあります。

親としても兄弟同じ学校で予定を立てやすく、何より本人が仲良しのお兄ちゃんと一緒に登校したい、と初めて自分から言ったことが決め手となりました。

○そろそろ理社

この時期から理社に本腰を入れ始めた。

長男の時もコアプラスとサピックスの白地図、年表をやってきましたが、次男はなぜかコアプラスが好みでなかったため社会に関しては白地図と年表をメインに勉強していました。

理科に関してはアントレのまとめテストや夏期講習の結果を見るに得意な単元がない状態でした。

この頃から個別で理科の重要単元(天体、力学、電気など)を総復習し始めました。

○冬期講習まで

日曜日の個別では過去問の復習と合不合判定テストを受けた日はその復習を行い、平日の個別で理科の単元復習を続けました。

自宅では主に日々の白板復習と夏期講習の白板のできなかった問題の復習を取り入れました。

なかなか点数に反映されない国語は時間配分ができていないことが主な原因であると分かってきました。

そこで時間配分の詳細なイメージを持つことを徹底したところ、ようやく第5回合不合判定テストにおいて国語が平均点を超えてきました。

この辺りから入試演習などにおいてもようやく国語の力が点数に反映されてくるようになってきました。

○桐朋対策

過去問を何度か解くと、傾向とそれに対する対策が見えてきます。親がすべき事は志望校の傾向をよく調べることで、合格するためにどの科目で何点取っていくか、そのために何が必要か明確にし、具体的に日々の勉強に落とし込むことだと思います。

桐朋は国語が大問2題、漢字が10点近くあるため読解のスピードアップと漢字を絶対に落とさないように対策を行ないました。なかなか見つからない抜き出しやまとめづらい記述に時間をかけないというアドバイスを家庭教師の先生からもらい、実践を繰り返しました。

社会は歴史、地理、公民とバランスよく出題されるのですが、桐朋は世界を絡めたものが非常によく出題されるため時事問題や世界地図をよく見ました。またそれぞれ2行程度の記述があるのでダンディーの記述対策プリントの中でも世界情勢や日本の時事問題に絡めた部分をやりました。

息子の場合は全ての教科において時間配分イメージを持つことが非常に大事だったようで、どの科目においても時間が余れば合格最低点を超えることができました。

○とにかく理社

算国で戦えるようになってきたので、当初の予定通り 12 月からは理社に充てる時間を大幅に増やしていきしました。

覚えては忘れていくものがあるため、2/1 に照準を合わせてやり続けるしかありませんでした。

過去問と入試演習が中心になると、コアプラスや年表の暗記時間も限られてくるため、桐朋の傾向をみて落としやすい単元を優先して行なっていました。

[直前期]

なるべく早めに就寝し、起床する生活へ切り替えていきました。

この頃、第 2 志望校の過去問を解いていて算数で明らかに落としやすい単元が出てきました。対策としてカッシーにプリントをもらい入試までに毎日 1〜2 問解き続けました。

毎朝やっていた漢字 出る順はやり過ぎて飽きてしまったため、サピックスの漢字の要をやり始めました。

コアプラスは結局 4〜5 周くらいしかやりませんでした。社会は年表、白地図を中心に、理科は後期のプーさんのプリントを総復習しました。

○過去問

過去問は第 1 回と 2 回合わせて 7 年分くらいしか解いていません。他の子たちと比べると多分少ない方だと思います。

けれど一回毎を大切に過去問に臨みました。

直前期なので、受験票を机の上に置き、時計合わせをして本番とまるで同じ時刻で全てこなすということをしました。

最後の数回の過去問においては算数 8 割、国理社で合格者平均あたりという感じの得点を出すことができました。

息子は受験が終わった後の予定を立てる、などはっきり言って最後の方だれてしまいました。油断して足をすくわれるのでは、と心配することもありました。

○出願

2/1 桐朋、2/2 桐朋 or 城北、2/3 成城、2/4 城北

最後まで悩んだのが、2/1 桐朋を受けて決まらない場合 2/2 の受験校を城北にするか、再度桐朋を受験するのかという点でした。

親としては安全策の 2/2 城北受験を考えていましたが、本人から 2/2 も桐朋を受けたいという希望を聞きこのチャレンジを応援するべき、と考えました。カッシーとの面談で本人がそう望むのであれば 2 日目も桐朋でいいのではという言葉も後押しとなりました。

[入試]

1/10 開智所沢 合格

息子は焦りや緊張をあまり感じないタイプなので 1 月受験はだれてしまわないよう受験しました。

2/1 桐朋 合格

理科が最後まで終わらなかったことが気になっていたようで桐朋からの道中はほぼ無言でした。

もし合格がもらえなければ明日は城北を受けると言い出し、結果を見るまで決定できずにいました。

2/1 巣鴨算数 不合格

算数は得意でしたのでチャレンジ校として受験しました。

2/2 城北

結果的に 2/1 で合格をもらえたため楽な気持ちで受験しました。

[最後に]

アントレに通ったからこそ、親としても中学受験というものを楽しみながら乗り越えることができました。

2 人の息子が通ったアントレは親の私たちにとっても何か特別な存在です。

いつも楽しそうに通う息子を見て、どんな魔法仕掛けがあるのかと思ってしまいます。

やんちゃな生徒が毎年数多く通うアントレには先生達の魅力がたくさん詰まっているのでしょう。

何度も面談をお願いしたカッシーと 3 年半という長きに渡り個別指導してくださった長澤先生はじめ多くの先生方、本当にありがとうございました。

S. K. くんのお母様

アントレのような素晴らしい塾が、家から通いやすい場所にあって本当に良かったです。6年生では都立の中高一貫校が第一志望となり算数単科＋個別の国語を受講と、異質な生徒だったと思います。

【家族構成】

紺太 鉄道好き（時刻表鉄）。進学先は共学を希望。算数は好きだが図形に難あり。第一志望試験日の2日前まで時刻表やテレビ、ゲームを楽しむ。

弟 紺太と3歳違い。マイクラとスクラッチと沼ハマ、流行の歌が好き。

父 中学受験の経験なし。大学卒業後に上京。都内の中学受験事情に驚き、通塾や受験勉強には静観の構え。紺太の誕生日（小6の11月）にハムスターをプレゼントすると言い出し、ハムスターを延々眺めて勉強しなくなったらどうするんだと狼狽える私を余所に連れてくる。ハムスターが夜行性で助かる。

母（私） 小5からN塾に通う。成績順で決まる席争いに燃えるタイプで、ライバルたちと互いに教えあって讃えあう素敵な関係だったと良い思い出となっている。小6の夏前、家の事情で突如退塾することに。夏や2月は仲間の合格を祈った。地元中学で充実した3年間を過ごしたこともあり、自分の子どもには「受験はしてもしなくてもどっちでも良いが通塾はさせたい」と考える。

【不思議な赤い塾】

その昔、仕事帰りの道沿いに気になる塾がありました。子供たちの声が外まで響く大盛り上がりの塾でした。ある時は授業を終えた男子生徒が飛行機のように両手を広げて塾から飛び出て路上を走り回り、数名が笑い転げながら追いかけていました。それをお迎えのお母さんたちが微笑ましく見ていました。今しがたまで勉強をしていたとはとても思えないほどの元気の良さで、一体どういう塾なのかと不思議でした。きいたことのない名前の赤い看板の塾を、当時の私は「きっと小学校の補習がメインの塾なのだ」と解釈しました。そしてある日、その塾の電気が長く消えていることに気づきます。「やはり補習塾は経営難しかったのかな」と少し淋しい気持ちになりました。

時は流れて、紺太の入塾を検討する時期に。

私は「教育方針」というと大袈裟ですが、子どもたちに真剣で楽しそうな大人の姿をたくさん見せたいというのがありまして、習い事も塾選びもその点を常に最重要視してきました。駅周辺の各塾の体験授業や季節講習を通してそれぞれの雰囲気を探りましたが、有名な塾でも「先生方のQOL低いのかも…」と感ずることもあり、なかなか良い出会いがありません。ちなみに本人はどの塾に行っても「ここでもいいよ〜、大丈夫」と言っていました。そんなとき、カッシー先生のblogを発見し、潰れたとばかり思っていた赤い塾が、実は駅前のビルにお引越をしていたことに気づきます。体験に行くと「すごく楽しかった。ここがいい！絶対ここに通いたい！！」とのこと。3年の春と夏の季節講習に参加後、入塾しました。

【練馬からひばりヶ丘へ】

紺太が4年生になるタイミングで、私は長年の個人事業主から会社員へと転職しました。慣れない通勤電車に疲れ家事炊事のまわし方に試行錯誤で、私は保護者としてのサポートが全くできず、恥ずかしながら学習スケジュールだけ立てて後はほったらかしでした。丸つけや予定通りやっているのかの確認もせず、ましてや教えたり一緒に解くなんて事は一度もなく、極めて稀に、紺太選りすぐりの算数の問題を解説してもらう程度でした。そして鉄道好きゆえ（？）紺太は家から近い練馬校ではなくひばりヶ丘校へ通いたいと希望しました。コスパ・タイパ・遅延リスク等を話し合いましたが、どうしてもというのでひばりヶ丘でお世話になることとなります。

【不慮のことで4科断念】

4年生の12月、学習や塾とは全く違うところで長らく悩みを抱えていたことが判明します。本来の元気や笑顔が失われ、力が全く湧かない状態となっていました。紺太が4年生になってから違和感を感じるものがしばしばあったにも関わらず、私が自分のキャリアチェンジに勤しみ、そして秋から成績が急降下していた時も本人のやる気低下によるもの誤認し、さらに追い詰めていました。この時のことは深く反省しています。

状況が判明してからの小学校の対応は驚くほど早く、家庭と学校で紺太のメンタルの回復を最優先に進めていくことで一致しました。私はもうアントレは辞めて、W塾の高校受験コースに通ってはどうかと提案しましたが、本人は「W塾のそのコースに通うのはいいけど、でもアントレの算数だけは続けさせてほしい」とのこと。

W塾に問い合わせたところ曜日が被ってしまいどちらかを選ばなくてはならないことがわかり、結局「アントレの算数は絶対に辞めない！」という紺太の熱意により、アントレのみ継続することに。そのう

ち「アントレの国語は5年から記述が加わるんだけど、どんな感じなんだろうなあ」と興味がある様子だったので、結局中学受験するか高校受験にするかは保留のままアントレで2科受講することになりました。この事態の折には清水先生（タケノコ先生）にお話を聞いていただき、あの時間、空間、先生の眼差しは忘れられないものとなっています。真剣に話をきいてくださり、放心状態の私に複数の選択肢をご提示くださり本当にありがとうございました。

【5年生】

小学校の適切な対応と、テレビやゲーム、習い事、おでかけ等を楽しむなかで徐々に元気が戻りました。そこで、私立の2科目で受験可の学校があること、都立中高一貫は5年生からでも対策可能らしいこと、でも近所の学校も綺麗だしそれもまた良いと思う、と話しました。この頃から早稲田進学会の授業を予定が空いている時に、たまに受けるようになります。早稲田進学会は完結型の講座を運営する組織です。習い事の多い紺太には月謝制ではない気軽さ・気やすさも魅力でした。

秋のある日。ふと早稲田進学会から帰ってきた作文添削を眺めました。もともと紺太は字が汚く白板ノートも判読不能で読み返せなかったのですが、この作文も判読が難しく、文字の横に赤字で「？」とたくさん書かれていました。内容云々よりもまず採点者が読めない。夫にそのことを話したところ、これまで学習には静観だった夫が「受験はさておき、将来困るだろうから」と公文の書写クラスを探してきて入会まで終えてきました。

2月、はじめてE塾の都立中模試を受けました。偏差値は適性Ⅰ：67、適性Ⅱ：58、適性Ⅲ：65とまずまずでした。しかしこんな成績は最初で最後でした。

【6年生1学期】

早稲田進学会週2日受講、曜日の関係でアントレ算数単科と国語は個別の畔柳先生の講義を受講となりました。また同じタイミングで、私は2年制の専門学校（通信）に入学しました。通信課程といえどもレポートとスクーリングに追われながらのフルタイム勤務で、ますます本人任せとなりました。紺太はなぜか『ブギウギ』から朝ドラ視聴にハマリ、週末には録画した「虎に翼」を一気観し、弟とともにゲームやテレビを楽しんでいました。そして四谷合判とE塾の都立中合判と早稲田進学会、各種模試が返却されてきました。国語と適性Ⅰが壊滅的な状況で得点10点台、偏差値30台。適性Ⅱと適性Ⅲについても、問題文が「説明せよ」なのに、数式と答えだけ書いてあったり、2月のまずまずの結果だった模試は一体何だったのだろうと思うほど酷い点数でした。頭の中では解答がわかっているのに、求められている答えの書き方が全くわかっていないようでした。

【6年生夏】

夏期講習をアントレと早稲田進学会、どちらをメインにするかが課題でしたが、本人の希望でアントレの算数単科（21日間）と国語の個別（5日間）、早稲田進学会は小石川特講（5日間）のみ参加となりました。算数単科だと1日に2コマある日は長い空き時間ができてしまう日もあったのですが、そんなときはアントレの自習室を利用させていただきました。自習室では公立中高一貫適性対策問題集（6冊）に取り組み、解答の書き方の習得に努めてもらいました。講習の合間に2泊3日お墓参りと海と主人の実家に行きました。

【6年生2学期】

代表委員会に入っていたこともあり、各種行事のため貸与タブレットでカチャカチャと作業をしている時間が多かったです。さらに私の勤務先の社員旅行（家族もOK）が今年沖縄で、迷いましたが真剣で楽しそうな大人の姿をたくさん見せる機会だと紺太と弟を2泊3日連れて行きました。

夏休みの努力の甲斐あって適性Ⅱと適性Ⅲの模試の結果が急上昇し、あとは国語と適性Ⅰだ！ということで、オンラインの適性Ⅰ対策の受講を始めました。しかしながら、適性Ⅰの点数は相変わらず「のび太の答案？」と思うような点数が続きます。「やっぱり私立も小石川もどこも難しいかも」と私が弱気になり、東附の推薦を受けることを提案しました。東附へは2年前に文化祭に行ったことがあり、その時の本人の反応は可もなく不可もなくといった具合でしたが、小石川同様に自由な校風でアクセスも良く私のオススめの学校でした。紺太は数日東附のホームページを見たりして悩んでいましたが、受験を決意しました。私は、紺太の学校の成績はまずまずだし、関係あるかわかりませんが学校内外での活動も志願書に書くことがあったので、合格できるんじゃないかと勝手に思っていました。ひとつ気がかりだったのは「本校が第一志望の方のみ受験してください」という、合格したら絶対に進学しなければならないという規約です。出願後も、「もしも東附に合格したら小石川に挑戦できなかったことを後悔するのでは」と揺れました。10月出願、11月1次試験（書類審査）の結果発表、12月2次試験（適性試験および面接）。一足早く受験に突入です。

12/20 東京大学教育学部附属中（推薦枠受験） ダンディ先生が事前に面接対策をしてくださったのですが、今年はグループ面接でした。30分ほど4人で運動会の新種目について相談したそうです。長い時間のやり取りを評価していただいた上で不合格なので仕方ないと思いました。

【直前期】

東附合格して穏やかな年末年始を…と、現実と理想との乖離から目を背けていましたが、東附不合格で私立各校の受験と小石川の受験が現実のものとして迫ってきました。どうにか適性Ⅰを「壊滅状態」から、なんとか「人並み」に向上させねばと焦りました。尻に火が付き、ここにきてようやく私は紺太の作文と早稲田進学会からのプリント、オンライン添削の解説を読みました。誤字脱字の多さは相変わらずでしたがなんとなく原因がつかめました。

アントレの5年国語の記述授業のおかげ様で2月末のE塾模試では好成績を取れたものの、その後国語は個別のみになってしまったこともあり、他で聞き齧った「これを書けば〇点あがる」みたいなテクニックに囚われ、しかもその受け取り方が拙く、継ぎ接ぎのような文章になっていると感じました。「作文テクニックは一旦全て忘れて！きつと示された意図とは違う捉え方をしている」とお願いしました。そして、紺太はポピュラーミュージックを習っていたので「好ましくないコード進行、違和感を感じるコード進行があるでしょ？文章も音楽と同じで心地良い流れがあるから！作文はコード進行と一緒にだと思って！！」と伝えました。かなり極論ですが、紺太も「あ〜、それならなんとなくわかる」とのこと。その日から心地よい流れを落とし込んでもらうためにオンライン添削の模範解答の音読してもらい、誤字脱字による減点を減らすためにこれまで紺太が書いた作文から【頻繁に書くけど読みにくい文字約20個】をピックアップして試験当日まで毎朝縦書きで練習してもらいました。

【入試】

1/11 開智所沢（算数特待：算数Ⅰ科で受験） 駅から坂を上っていく景色は空が広くのどかで、紺太は「いいところだなあ」としきりに言っていました。過去問はますますでしたが、試験を終えて出てきたとき「ダメかも」と言っており案の定でした。

1/18 西武文理（適性Ⅰ&適性Ⅱ） プーさん先生がZoom応援してくださいました。本来応援日として設定されていない日だったにも関わらず、先生からご提案して下さり本当に有り難かったです。保護者待機場所として広いカフェテリアが解放されます。暖かく心地良かったです。また適正型については後日各大問の出来栄えについて一口アドバイスが送られてきます。

2/1 午前 駒込中学（適性A型：適性Ⅰ&適性Ⅱ&適性Ⅲ） 紺太は小学校で3年間和太鼓クラブだったので、珍しく部活として和太鼓部が存在する学校でした。保護者待機場所は体育館でした。適Ⅱで学校の理科で習っていない分野（受験組が終わってから皆で学習する予定になっていた単元）が出て驚いた、と言っていてヒヤッとしました。

2/1 午後 広尾小石川（算国2科） 国語の読解問題はかなり長い文章が特徴です。秋の時点では到底読み切れない・解ききれない問題でしたが、畔柳先生のご指導によりなんとか制限時間内に埋められるようになりました。算数の過去問では紺太から簡単と聞いていましたが、試験を終え「（苦手な）図形が出たよ。説明会に行ったお母さんが『今年は図形問題を出すってさ。対策してね』って言ったのをすっかり忘れてたよ〜」と…私自身もすっかり忘れていました(°_°) 案の定ご縁得られず。2/3午後の受験も考えていたのですが「こんなうっかり親子ダメだね。2/3午後の受験はやめて小石川に全力を出し切って終わろう」となりました。

2/2 午後 淑徳（スーパー特進東大選抜） 紺太が4年生の時に見学に行き、本人が気に入った学校でした。試験中はホールや図書室が待機場所となりますが、お迎えは人工芝のグラウンドで合流です。日が暮れて群青色に染まっていく空の下、グラウンドから眺める校舎はとても綺麗でした。

2/3 午前 都立小石川 11月のE塾の小石川模試を受けた際、小石川担当の先生が「2/1は適性型の私立の試験をどこか受けてください。2/2は翌日に備えてゆっくりしてください」と仰っていました。これをE塾の保護者の皆様に紛れて聞き「なるほど。紺太は2/1午前&午後と、2/2午後受験してヘトヘトの状態だけど、E塾の皆さんは元気いっぱいしてくるわけね」とリカバリーの必要性を感じました。2/2、淑徳中学からホテルへ。映画『孤独のグルメ』に出たという近隣の有名食堂で美味しい夕飯を戴き、ユニットバスではなくゆっくり一人でお風呂に浸かれる部屋に泊まってエネルギーチャージに努めました。

翌朝。小石川で毎年出る桁数の多い計算を8問と【頻繁に書くけど読みにくい文字】の練習をして、プーさん先生とカピバラ先生によるZOOM応援をいただき、出発しました。

【最後に】

紺太が算数好きになったのは100%アントレのおかげです。アントレで培った理数の力は適性Ⅱ、適性Ⅲで大きなアドバンテージとなり、これによって秋も直前期も適性Ⅰ対策だけに集中することができました。紺太は早稲田進学会の授業後しょっちゅう「みんなが苦戦している問題を、アントレに通っているから僕だけスラスラ解けた」と言っていました。アントレなくして紺太の合格はあり得なかったと思います。また、アントレは科目の取り方の選択肢が広いのも有り難かったです。我が家のように途中で事情が変わっても2科、単科での受講を選択できたことで助かりました。

紺太と紺太の文字に長らくお付き合いくださり、毎回丁寧なレポートを書いてくださった畔柳先生、ご指導くださったアントレの先生方、変則的な受講スタイルの紺太にも温かく接してくれたクラスメイトの皆さんに心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【エピソード】

2/3の朝、ZOOM応援のあと軽く体操してホテルの部屋を出ました。エレベーターで降下中、サイドのボタンに紺太のリュックサックが当たって停まる必要のない階を押してしまいました。同乗していた若い女性に謝りました。

私：すみません！（紺太に）ちょっと気をつけてよね！

若い女性：大丈夫です、大丈夫です。…これから受験なんですか？リュックのバッチに合格って…。

私：あ、そうなんです！これから。

若い女性：実は私も今日、面接試験なんです。会社の。田舎から出てきて。

私：ええええっ！？そうなんですか？それはそれは。一緒ですね。

若い女性：ですね（笑）…（紺太に）頑張ってね！

紺太：はい、ありがとうございます。…あの…がんばってください。

若い女性：ありがとう（笑）

1階に着き「それじゃ」と女性は朝食会場へ、我々はエントランスへ。

紺太：あの人も一緒だったね。なんだか、いい気分～。

いい気分です試験に向かえて幸いでした。きっかけを作ってくれたアントレ合格バッチに深く感謝しています。素敵な合格グッズをありがとうございました。運気が上がりました！

Y. K. さんのお父様

3年生からアントレを初めて4年間、娘のアッシー君に徹していた父です。2025年2月2日、アッシー君の努力が報われました。アントレの先生、個別の先生方、ありがとうございました。

振り返れば、長かった……。

そもそも、うちの娘は「スーパーキッズ」ではなく、どちらかといえば「のんびり屋」。とにかく行動が遅く、食事を食べ終わった後も勉強することなくダラダラしている状態。

塾のクラスもSクラスやAクラスとは無縁で、4年生の頃はBクラス、5年生以降は安定のCクラス。正直、「中学受験って何かの修行ですか？」と思う日々でした。

特に算数と理科（物理系）は父である私の担当。YouTube「算数教室～親子で学ぶ中学受験～」

(https://www.youtube.com/@sansu_kyoshitsu)と「こばちゃん塾 中学受験理科」

(<https://www.youtube.com/@katekyo-aspiration/videos>)を頼りに、試行錯誤の日々。ところが……。

算数の「水溶液のやり取り」問題では、文章が長くなると完全フリーズ。「この水がこっちに移動して……」と何度説明しても「???」。そして最大の難関「売買損益」。「原価?定価?売値?利益??」というレベルからのスタート。何度も図で説明しても理解せず。

理科の「テコ」もまた苦戦。重心?支点?回転方向?支点を見つけても「こっちに回る!」と毎回間違える。私の説明が悪いのか、いや、娘の発想が自由すぎるのか……。

模試の結果も散々で、首都圏模試は6回ほど受けたものの、第一志望校 30%未満~30%…。でも、娘は落ち込むことなく、「次は頑張る!」と前向き。その姿勢だけは見習いたいと思いました。

そして迎えた2月1日。大妻中野と実践女子を受験。

結果は……不合格。

しかし、ここで娘のすごさが発揮されました。落ち込むかと思いきや、「明日が本番だから!」と気持ちを切らさずに挑む姿。親としては、もうそれだけで胸が熱くなりました。(親としてはCクラスで大妻中野は厳しいかと半分思っていました・・・反省)

そして2月2日。大妻中野、再挑戦!

結果は……合格!!

信じられない!娘の成長に涙が出るほど感動しました。思えば、前日の試験だった実践女子の算数の問題は「売買損益の問題」でつるかめ算を使って見事に正解していたし、算数だけなら自己採点で80点ぐらいはとれていました!!合格の前兆だったのかもしれません。

こうして4年間のアッシー君生活は終わりました。

……が。

これから息子がアントレに通いますので4年後にまた受験すると思います。

4年後にアッシー君は再び報われるのか?4年後、また受検体験記でお会いしましょう!!

Y. K. さんのお母様

3年生の秋からアントレにお世話になりました。のんびりぼんやりとした幼い娘と中学受験のいろはもわからない両親…、そんな中で始めた受験でしたので当然うまくいくはずもなく…。体感としてはうまくいかなかったこと99%、うまくいったこと1%というところでしょうか…。のんびりぼんやりしている娘にやきもきしながら、夫婦で修行しているような気分でサポートする日々を過ごしました。そんな状況だったにも関わらず、娘の熱望する第一志望校に合格できたのは、ほかならぬアントレの先生方や個別の先生方のおかげだと思っています。そしてアントレで仲良くなったお友達の存在もとても大きかったです。娘と関わってくださった皆さまに感謝の気持ちをこめて体験記を書きたいと思います。

○通塾のきっかけ

3年生当時の学校のクラスが荒れており、「女の子だけのクラスだったらよかったのに！そういう学校ないの？」と娘から言われたことが発端でした。その時に女子校があることを説明すると、「なんで小学校受験させてくれなかったんだ」と娘が怒り出しました。考えなかったこともないが、保育園の頃はひらがなを書く練習すらいやがったため小学校受験に適さないと判断し公立小学校への進学を選択したと説明したところ、娘憤慨。「ちゃんと説明してくれれば勉強したのに！中学からは絶対女子校に行くからね！」と、普段フワフワしている娘が固く決意。私自身が女子校出身で学校生活がとても楽しかったこともあり、娘が望むなら受験して女子校へ進学するのもいいか…、そんな気持ちから塾探しを始めました。塾探しをする傍ら、娘には受験するなら毎日勉強しなきゃいけないと言い聞かせ、あれこれ教材やプリントを用意してやらせるものの、ちょっとわからないとすぐに拗ねて放棄。これはやはり無理か…と思いつつ、ひとまず本人にも自分の立ち位置を把握させようと他塾の無料の全国模試を受けさせました。そこで出されたのは衝撃的な数字…。国語は27 算数35…これ偏差値です。これまで学校の宿題＋自宅で通信教育の教材や市販のワークなどで親が教えていましたが、それを全否定された気分でした。その数字を伝えても娘は理解せず、「大丈夫、私はできる。」と勉強はいやがるのに根拠のない自信だけがありました。この結果を踏まえ、入塾テストがある塾や、大人数で流すような授業をする塾も娘には適さないと除外。少人数でしっかり目を離さずみてる塾はないかと探しに探し、見つけた塾がアントレでした。夏に体験を兼ねて夏期講習へ参加しましたが、娘の学力では授業についていけそうになかったため、断念しようと思いましたが、その時点で娘はアントレが大好きになっており、アントレ以外の塾は行かない、と他塾の体験すら行こうとせず。最終的には夏期講習でお世話になったムーミン先生にも相談し、娘にきちんとアントレのルールを守って予習→授業→復習のサイクルを徹底する、ということを決めて入塾しました。ご想像の通り、この約束は早々に破られることになりました…。

○4年生～5年生

隙あらばすぐに勉強から逃げる娘とバトルになることは数えきれず…。むすっとした顔の娘の横に座り、一緒に予習を進める作業は本当に苦痛でした。4年生の間はBクラスにいましたが、まとめテストで点がとれないことも多く(DまたはEばかり見かけた…)、Cクラスに移してもらうことを面談で相談しました。ただ、らっきょ先生からは、「今のCクラスはレベルが高いので、移ったところであまり変わらない。Cクラスに移ることで本人のモチベーションが低下するならBクラスで。」と助言をいただきました。ただその後もどんどん内容も難しくなり、さらに点も取れなくなり、5年生の半ばごろに親の希望でCクラスに移らせていただきました。久しぶりに白板ノートにも丸がつき、嬉しそうにしている娘の顔を見て、少し落ち着いてくれたら…と思いました。しかしその後も娘が変わることはなく、面談でいただいた助言もすべて実行したもののどれも効果がなく、あまりにも自宅で勉強しないため、「もうここまでやっても無理ならやはり娘に適正がなかったんだ」と、私の気持ちもブツリと切れ、「もう受験はやめよう」とすっきりと決意したのが5年生の冬。娘は断固拒否。ただもう私や夫の中では受験からは撤退すると決めていたため、退塾の連絡のためにアントレに電話。経緯を話したところ、らっきょ先生と私と娘で三者面談をすることになりました。そこでらっきょ先生から娘に話していただきました。娘は真顔でじっと聞いていました。結局、自宅での予習復習を必ずやるとその場で改めて約束し、首の皮一枚つながった状態で通塾継続となりました。今思えば親の覚悟も足りなかったのだと思います。それからは娘が自分からギブアップするまではサポートを続けようと思い直し、淡々とサポートに徹する日々が続きました。ちなみにこの三者面談以降、娘は自ら勉強するようになりました。内容は不足していることが多かったのですが、逃げることはなくなったのが新6年生となる頃です。

○6年生～入試まで

Cクラスでスタート。算数は時折Bクラスにいたこともあったようですが、首都圏模試の結果は毎回惨憺たるものでした。保護者会で模試の結果や偏差値はあまり気にしなくていいと言われましたが、やはり数値のインパクトは強く、このころから娘が第一志望としていた大妻中野の合格率は30%未満。絶望的な数値でした。ただ低迷した結果の中でも、じりじりと算数の偏差値は上がっていき、夏期講習開けに娘史上最も好

成績がでました。ただそれでも大妻中野の合格率は30%。結局これがいちばん良いパーセンテージで、入試直前の12月頭の模試では再び30%未満でした。過去問でも合格最低点に届かず、やはり大妻中野は厳しいか…と思い、面談でも相談しました。模試の結果では跡見の方が合格率がよかったため志望校を変更することも相談しましたが、「過去問で点数がとれていないので相性が悪い。このまま大妻中野チャレンジでいいと思う。」と言われ、今だから言いますがちょっと信じていいものか迷う気持ちもありました。ほかには、実践女子を勧められ、学校見学や説明会に行ったところ、毎度会場案内がスムーズでいちばん先生方の連携がとれていると感じた学校でした。面倒見もよさそうで生徒さんも元気！娘は門から校舎までの道とセーラー服が気に入ったとのことで第二志望としました。このように、年末まで志望校を迷っていたため、志望校対策を絞るまでに時間がかかってしまいました。そこは反省点です。ただ言い訳すると娘の志望動機が意味不明だったのです。第一志望（大妻中野）→近くのパン屋さんがおいしい（駅挟んで学校と反対側…）、第二志望（実践女子）→門から校舎までの道、第三志望→京華女子（制服・新校舎）、跡見→校内の吹き抜け…。ここに低迷した成績が加わるわけですからどう判断していいかわからず、結局入試直前の1月下旬にも面談していただき、受験スケジュールを最終決定しました。京華女子は首都圏模試の結果が特待扱いとしかたける数値だったため、事前に学校での相談会に出向いて手筈を整え、2/2午前中に受験予定とし、2/1はAM大妻中野、PM実践女子としました。

2/1AMの大妻中野は不合格、PM実践女子も不合格。正直…大妻中野は2/1AMに合格できなければかなり厳しいと思っていたので、合格は難しいと思いました。ただ本人の意思が固かったことと、実践女子は不合格だったものの、自己採点では算数が80点ほどとれていたため、おさえ校で合格を確保したうえで、繰り返しチャレンジする価値はあると思いました。娘本人は「もう一回頑張る」と言いながらもなんとなく放心状態。このまま受けさせたらまずいと思いました。でももう入試が始まった状況で、ガリガリと苦手分野を勉強するなど現実的ではなく、いかにして気持ちを前向きにさせるかに注力しました。それだけしかできませんでした。娘本人に伝えたことは、「今日、楓乃が不合格だったけど、お父さんもお母さん弟も誰も悲しんでないでしょ。何も変わらないの。楓乃がどうかするわけでもない。結果は結果でしかないし、勝つ人がいれば負ける人がいる、ただそれだけ。でも受験が終わったときに後悔するのがいやだったらこれ以上はできないと思うくらい、何も気負わずやってきてごらん。全力出し切った後の結果ならもし不合格でもすっきりできるはず。今の気持ちのまま受けて後悔はない？」と伝えました。娘は、「いや、後悔する…」とポツリとつぶやいていましたが、表情は変わらず、翌朝になっても特に変わらないまま家を出ました。そして夜、翌日以降のスケジュールを考えながら発表を待ちました。結果は娘が自分で見ました。ログインすると、合格の文字！！娘も驚いて飛び上がって喜んでいましたが、私たち夫婦はもっとびっくり。山あり谷ありの娘の受験は、第一志望合格という最高の結果で終わりました。残りの日程でも実践女子に出願していたため、チャレンジしてもいいのでは？と思いましたが、娘にその気がなく、らっきょ先生に合格を伝えた直後に、「もう受験やめます」と宣言していたことから、娘の受験は終了としました。

○結果

2/1 AM 大妻中野→不合格

2/1 PM 実践女子→不合格

2/2 AM 京華女子→特待合格

2/2 PM 大妻中野→合格

このように、うまくいったことの方が圧倒的に少なかったのですが、うまくいったことのひとつとして塾選びだけは成功したと思っています。娘はアントレが本当に大好きで、「受験終わったけどアントレの授業受けたいなあ」と今でも言っています。受験が終わってから娘から聞いたことですが、アントレまでの道中（フルタイム共働きのため一人で通室）は、「今日は白板で丸つかなさそうだな」「今日は結構できそう」「順位表やばいかな」など、その日その日で色々な気持ちを抱えながらアントレへ向かっていたそうです。小学生が抱えるにしては少々重いとは思いますが、それでも娘は体調不良や移動教室などの理由以外で休みませんでした。それだけアントレの授業やそこで一緒に過ごすお友達が大好きで、入試直前までとても楽しそうに通っていました。1月半ばからは、「もう疲れてきたから受験は終わってほしいけどアントレは終わってほしくないなあ…」とぼやいていました。受験直前まで、娘にとってかけがえのない場所となったアントレで過ごさせていただいたことに心より感謝申し上げます。

説得力に欠けるとは思いますが、模試の結果よりアントレの先生方の助言を信じてください。入試当日まで伸びるというのも本当でした（ごめんなさい、信じてなかったです…）。この春からは弟が新3年のアントレ生としてお世話になることとなりました。お姉ちゃんがあまりに楽しく通っていたため、自分も行きたいと1年生のころから入塾を心待ちにしていました。今度はどんな道となるのでしょうか？アントレの先生方、またご厄介となりますが、これに懲りることなく何卒よろしく願いいたします。

Y. M. さんのお母様

我が家は受験勉強のスタートが遅く、発破をかけ続ける日々でしたが、アントレの先生と個別の先生のおかげでなんとか合格をいただくことができました。本当にありがとうございました。

【入塾のきっかけ】

姉の高校受験が終わり一段落した4年生2月、大手塾の体験授業を受けたものの「騒がしくて落ち着かない」と言うため入塾を断念。しばらくして父がカッシーのブログにたどり着き、アントレの体験授業を受けました。「楽しかった。ここに通う!」。相性のよさそうな塾が見つかったことにほっとし、5年夏期講習から入塾しました。

【娘のタイプ】

父が大好きで母をライバルと思っている。歴女で戦国武将の学習漫画ばかり読んでいる（算数やらないのー?と何度言ったことか）。

【学校選び】

通いやすく自由な雰囲気のある学校を探しました。模試会場校は、保護者向けに学校説明会を開催してくれるので活用しました。「私立女子中〇〇フェス（6年春休み）」で話を聞いた富士見の中学生・高校生の印象がよく、第一志望としました。

【家での学習】

週末に母が算数の予習を見ていましたが全然追いつかず、6年春から個別をお願いしました。基礎を理解する→算数が楽しくなってきた!→白板の復習が一人でできる→授業で丸がもらえる→自信もつくという好循環が生まれ、徐々に模試でも結果が出始めました。もっと早くから見てもらえばよかったです。

国語の知識（4まと）は特に自分では進められず（文字ばかりでやる気が起きないそう）、慣用句やことわざは母が読み聞かせをする状態でした（本番で正解できたとか）。理科はYouTubeも活用しました。社会は歴女だけに歴史が得意単元でした。

【フンちゃんとの面談】

合計3回面談していただきました。仕事で保護者会に出席したことがなく躊躇していましたが、今取り組むべきことを具体的にアドバイスをいただいけ、本当に目から鱗でした。フンちゃんの名前を出して「フンちゃんが、6年夏期講習の白板の見直しが大事と言っていたよ」「（予習シリーズの）計算は時間を計って解いた方がいいって」と伝えると、言われた通りに取り組んでいました。6年後期の入試演習（土曜日）を申し込むべきか迷ったときも娘の現状を踏まえてアドバイスいただき、算国2科目のみ入試演習を受講、個別（算数）をもう1コマ追加して、予習の他に過去問の見直しもお願いすることにしました。

【入試直前】

12月の首都模試で算数が撃沈。娘はショックで泣いてしまい、午後の個別にも「行けないし、行きたくない」と大騒ぎ。直前期のこの結果に私も慌ててしまい、「個別の佐川先生に見直しをお願いしよう」となんとか個別授業に送り出しました。1時間半後、めっちゃめっちゃ機嫌で帰宅。さっきの娘の感情はどこへやら。佐川先生、前向きな声掛けと娘の出来ている部分を褒めていただき、本当にありがとうございました。

冬期講習は、「全然疲れない。学校がないってラク～」と絶好調でスタート。白板の〇もだいぶ増え、良い感じで受験期を迎えられると思ったら・・・年始に母と娘が発熱。医療機関には市販薬でしのぐよう言われてしまい、冬期講習後半は最終日のみしか出席できませんでした。1月の埼玉受験までに全快しなければ、と気が気でありませんでした。

【1月受験・2月受験】

「Zoom応援が緊張する」というので、「落ち着いて問題を読むんだよ」くらいしか言えない母の送り出しで入試に向かいました。1月に開智所沢の合格をいただけたことで、2月は午後受験をせず、富士見1校のみを受験しました。

【受験を終えて】

アントレ生の約1年半。通常より短いかもしれませんが、6年後期は週5回（週4回+個別）通塾したことを思うと、よく頑張ってくれたとしみじみ思います。勉強モードに入るまで時間がかかり、ヤキモキすることばかりでしたが、もう一緒に勉強することなんてないのかも、と思うと貴重で濃密な時間でした。思春期の貴重な6年間を過ごす中高で、良い友人に出会い充実した学校生活を送ってほしいと願っています。アントレの先生方、個別の佐川先生、新妻先生、本当にありがとうございました。

匿名希望者のお母様

【入塾のきっかけと時期】

3年生の冬期講習から参加し、4年生前期より入塾しました。その頃すでに2歳上の兄が通塾しており、自分も通ってみたいとなった為です。

【勉強の取り組み方と意識】

4年生、5年生の頃は授業を受けていても自分のなかにうまく取り込めていなかったようでした。帰路（車で送迎をしていました）でその日の授業でどんな内容だったか、どう感じたかをきくようにしていました。しかし、難しかったかわかったかの感想ばかりで会話が続きにくいことが多かったです。それでも、会話のなかで振り返り、自分で取り組む姿勢をもってほしくて根気よくつづけました。内容について話しはじめたのは5年生の秋くらいからです。この頃から自分の成績について少しずつ意識するようになってきました。クラスの降下が特に響いたようでした。

6年生になり、受験が目前になりました。二者面談や合不合格判定テストを受けることで受験を意識をするようになったものの、目の前の誘惑に負けることもしばしば。ストイックに排除するのではなく、多少の息抜きを許容しながらの1年間でした。

【習い事】

本人の希望でヴァイオリンは受験月ぎりぎりまでレッスンを続けていました。1月のみ受験休会。息抜きになっていたようです。

【志望校選び】

兄が男子校でのびのび楽しそうにしているのを目の当たりにしていることから、一貫して男子校を志望していました。共学校も見学には行きましたが反応が薄く、受験校には選びませんでした。

熱望校は獨協中学校と成城中学校。学生の雰囲気が一番の決め手だったようです。しかしどちらも合不合格では20～35%までとなかなか厳しい判定。徐々に成績があがってきていたこともあり、チャレンジすることに決めました。

1月校は城北埼玉中学校。通える範囲の学校であり、日々の振り返りのできるノートを用いての生徒指導というのが親目線で好印象でした。合格圏内だったことも本人の拠り所でした。

【志望校対策】

過去問題は夏休みのおわりから獨協、成城ともに問題集掲載年度は1回ずつ実施（獨協中学昨年度のみ2回）。不正解の問題は必ず解説を読んで、解き直しをするようにしていました。

城北埼玉は12月末に1回過去問実施。

その他には

算数は4科のまとめ、計算シリーズ、夏期講習の白板

国語は日々の授業の対策を大切するようにしました

社会は夏期テキストの確認と授業プリントのやり直し

理科はコアブラと授業プリントのやり直し、また永岡書店発行の『ツッコミ！理科』を隙間時間に愛読。

【受験日】

1月は入試の雰囲気や感覚に慣れさせる意味合いもあり、城北埼玉中学校は合格しても2回受験しました。2回までは1回分の受験料で受けることができます。

1月1日め。長男は通常どおり授業があるためお弁当を準備し、朝ご飯を作って、受験校に同行しました。はじめての受験なので学校まで送り届けましたが、大多数の方はスクールバスを利用していたようでした。子どものタイプによると思いますが、息子は安心して会場に向かえたのでよかったとのことでした。2日めも学校まで送り届けました。

2月は1日午前午後ともに獨協、2日獨協、3日成城、4日獨協、5日成城と受験。日にちを重ねても受験者数は減りませんし、倍率はあがります。どちらの学校も校内に待機場所がありました。獨協は合格発表とともに解答公開も行われるため、答え合わせをし、次の日に臨んでいました。ケアレスミスが命とりとなったようで、悔やむ毎日でした。

成城中学校の問題は獨協よりも理系が難しかったようですが、両日終了後の第一声が「楽しかったー」とやりきった感覚があったようでした。結果は2月受験校惨敗。悔しくて、声をあげずに噛み締めるように泣いている姿をみて、この経験をしっかりと覚えていてほしいと切に感じました。

【受験メン】

兄の受験時の経験より緊張や疲れから朝の食欲がでない可能性も踏まえ、菓子パンやチルドの肉まん等のすぐに用意ができて手軽に食べられるものも準備していました。後半はこれらが活躍していました。いつもと変わらない食卓が一番だと思います。受験に同行する場合は出かける準備や洗濯など、前日にできることは前日に済ませておくことに余裕ができ、食事の準備も落ち着いて行なうことができました。

【さいごに】

根気づよく教えていただいたアントレの講師の皆さま、本当にありがとうございました。4年生のまとめテストの点数や授業態度をみて、この子は受験をするにはあまりにも幼く向いていないと思ったことと思います。根底の真面目さなどは似ていますが、兄弟で正反対。親としてもどのように向き合えばよいか試行錯誤の日々でした。

しかし、中学受験を通して成長を感じる日々でもありました。とくに最後の数ヶ月での学習面、精神面の成長が著しかったのでこれからの学校生活でどんな成長をみせるのかまた楽しみでもあります。

実は私立中学に通う長男のクラスには、入学以来ほとんど通学していない生徒が数人います。他の学校に進学したお友達の学校にもやはり数名いるとのこと。受験を目標にしてほしくない、また覚悟をもって受験をしてほしいというのがわが家の方針です。受験に対する話を子どもたちと、何度も話をしました。これから中学受験にむかうみなさんも、お子さまと話す機会をつくってみてください。ご家庭によって中学受験に対する考えは異なると思いますが、なぜ受験をするのかを考える機会をつくることは受験を自分ごととして考えるよいきっかけになります。(自分ごとにしてからの成長は著しいですよ)

そして、ぜひアントレでの中学受験を楽しんでください。アットホームで親身な方ばかりなので親子ともに信頼して通うことができました。受験直前にフンちゃんからいただいた「結果よりも受験を頑張ることが大事」という言葉が受験に立ち向かう力になっていました。本当にありがとうございました。

匿名希望者のお母様

【受験校】

1月 城北埼玉（算数・理科）→ 特待○ / 立教新座（1回目；4科目）→ ×
2/1 AM 成城中学（1回目；4科目）→ ○ / PM 獨協中学（2回目；国語・算数）→ ×
2/2 立教池袋（1回目；4科目）→ ○（進学）
2/3 立教新座（2回目；4科目）→ △（一桁）→ ○

【志望校選び】

我が家では私立中学校への進学＝「その学校の文化」を選ぶことと位置づけていました。大切にしたのは、6年間、健やかに楽しく生活し、心身ともに成長できる学校であることです。これは長男（アントレに通塾していた）の志望校選択も同様であり、現在も日々楽しそうに通学しています。

【勉強に関して】

長男と違い、言ってみれば少々「扱いが難しい」次男。つつい理詰めで追い詰めてしまう私より、そこそこの緩さと締めるところは締める父親に勉強のスケジュール管理などは任せていました。

スケジュール管理について、大枠は父親が示し、今日は何を何時からやるのか、というのは本人が手帳を使いながら決めていたようです。

以下は受験校を決めていくにあたっての我が家の経過です。

8月 穏やかそうな男子校を探す

6月の合不合は小学校の修学旅行のために受験できず、（志望校決め、どうすんねん）と思ったのが事実です。結果、夏休みのころはなんとなく偏差値帯で本郷中を目指しながら、現実的には城北クラスの学校を探すのかなと考えていました（そのため、過去問にはあまり手を付けていなかった記憶）。

9～11月 入試演習のクラスに悩む／本郷中学をとりやめ、学習院中等科を第1志望にする？

夏休みが終わり、入試演習（男子上位）が始まりました。最初は合格に名前も載らず、これは難しすぎるかもしれない。必要なら中堅上位に変更した方がよいのかも？と木津先生にご相談したところ、「本人がきつそうなら変更できますが、たぶん、このままで様子をみましょう」とお話をいただき、本人の意思も確認すると「このまま男子上位でいい」ということもあり、そのまま男子上位を受講することにしました。

本郷の算数以上に理科と社会に大苦戦する本人。これは可能性はなさそう（合不合の結果も20%）と考え、本郷は志望校から外して早々に現実路線へ。2025年の入試は曜日の都合上、青山学院と立教池袋の両方を受験することができる日程になっていたため、立教池袋は倍率が上がるだろうから、と学習院を第1志望校にすることにしました。学習院は1回目、2回目に類似している算数の問題が出題される傾向がありました。11月の学園祭に行き、入試広報の先生に伺ったところ、試験後に問題の持ち帰りもできるとのこと。対策をすれば2回受験のメリットもある、と考え、学習院を第1志望として日曜日は過去問、と取り組み始めました。本人は学校見学と一緒にいっても、なかなかここに行きたい！という意思表示がなく、受験校は本当にここでいいのか、もっと本人が希望する学校があるのではないかと私たちも決めかねていた中での決定（仮）でした。

11～12月 受験校はほぼここに決めたいけど…冒険が過ぎるかも。しかもマイコプラズマ！？

受験校について、

1月 城北埼玉（特待）／立教新座

2月 1日 AM 城北①・PM 獨協② / 2日 学習院①（もし立教新座・1日が両方×の時は獨協③）

/ 3日 学習院（もしかしたら立教新座②）/ 4日 獨協④ を考えていました。

城北・学習院の合不合の結果も55%。獨協②については80%の結果でしたが、どうしても「学習院の国語はほんとに合わない！」と何度も言っていたことがひっかかっていました。

学習院は合格者平均が7割程度とやや高く、配点も算数国語は100点、理科社会は70点と、得意の算数と国語は大きな得点源にならず、理社で差が広がる状態で合格最低点に届くことはありませんでした。

そんな中、マイコプラズマに罹患。アントレを1週間ほどお休みすることになり、アントレテストも受けることができず…。冬期講習会には無事に参加することができましたが、その後マイコプラズマは母・兄に感染し1月は家族の誰かが常に体調不良という別の意味での戦いも強いられました。

1月 受験スタート！土壇場の変更。

10日 城北埼玉（特待）母は仕事の調整がつかず、父が付き添い。本人としては初めての受験で緊張していたようですが、無事に合格。合格発表が23時だったため、翌朝本人に伝えるとほっとした様子でした。

以降、立教新座に照準を合わせて過去問をひたすらやりこみ、1回目については最後に2024年の合格最低点を数点ですが超えて、本人も自信を持てたようです。

25日 立教新座 母付き添い。社会が難しかった。と終わって一言。でも算数はできたと思う。と言っていたものの、不合格。見直すとそこまで難しくない図形問題でケアレスミスにより失点していた模様。

結果を受けて、2月の受験で合格がもらえないのは避けたい。城北は算数と国語の相性は良いとは言っても、配点や合格者平均の得点率も学習院と似ているから厳しいのではないかな。であれば問題の相性や配点比率の良い1日を城北①→成城①に、2日を学習院①→立教池袋①、3日を学習院②→立教新座②を受験した方がよいかもしれない。5日の立教池袋②は算数・国語・自己アピールを受験することも視野に入れようという話を父母でしていたように思います（立教池袋については、立教新座とともにパンフレットなどで校風についても知っていましたし、成城は長男の友人などが通学しているため、なんとなく雰囲気などは知っていました。）。

27日 合格発表当日は平気そうなそぶりでしたが、翌日、「ぼくは立教新座の2回目は受けない。これまで2回目で合格最低点を超えたことがない」と言い出し、用意した立教池袋①の社会の過去問は解かずに、コアプラスをこの時期にやろうとする本人。若干叱ったうえで、最後のアントレの授業があった日のため、結果の報告と、受験校を変更する相談（報告？）とするのと併せて、木津先生に本人への声掛けをお願いしました。帰宅後、なんだかすっきりした顔と、翌日から黙々と過去問に取り組むようになりましたが、いったい何を話していただけたのかは、いまだに本人は教えてくれません(笑)。

2月 東京入試スタート

1日 AM成城 落ち着けば大丈夫。と送り出し、終わってから、算数が簡単だった。理科もできた！と元気に走って会場から出てきました。そのままお昼を食べて獨協②に。終わってから、「やらかした。算数ができなかった」と言いつつ、「でも成城はできたから大丈夫だと思う。」と。

成城は20時発表の予定が、19時前に発表があり（これは本人が気になったようでこっそり見て、見つけた）、無事に合格。これで2日以降をすべて立教に全振りしよう！と方針がやっと固まりました。

22時、獨協②は本人が言っていたように、不合格。城北から成城に変更しておいてよかった…と心から思いました。

2日 立教池袋① 不合格だった2校は受験会場について30分以上待つ状態でした。もしかしら、早く着きすぎると緊張してしまう？と集合10分前につけるように調整して会場に。終わってから、「算数はできた。国語は面白かった。理科は普通。社会は思ったよりできた。」と。偏差値的にも倍率的にも厳しいだろうなと思っていました。そのため、帰宅後翌日の立教新座の対策を確認しました。

3日 立教新座② 集合時間の9時は立教池袋①の合格発表の時間でした。本人を送り出し、こっそり確認すると「合格」の画面が。受験が終わった本人と再度確認しハイタッチをしたことを覚えています。

その後、補欠（一桁）をいただき、6日に繰り上がりのご連絡をいただきましたが、立教池袋に進学することとし、我が家の受験は終わりました。

正直、ここなら大丈夫。という学校はどこもなく、ずっとドキドキした受験でした。が、受験をしながら、彼が成長し、学力や試験の集中力が上がっていったように感じています。

【アントレに通って】

最初の体験授業の時、「塾には通わない。絶対に教室に入らない。」とごねた彼に付き合ってくくださったラクダ先生。でも、その後、一度も塾に行きたくない。と言ったことはありませんでした。受験が終わった今は、「来年はチョコレートを6年生に持っていくんだ」と言っています。

私たちがもっと理社に取り組むように圧力をかけていたら、彼は偏差値的に高い中学に進学したかもしれません。でも、日々の生活や学校生活も楽しみながら、小学校生活を送り、勉強することを当たり前のこととして身につけ、習慣化することができたのは何にも代えがたい財産であると思っています（受験が終わった今でも何かしらの勉強をする習慣は残っています）。

ほわほわの長男、ちょっとややこしい次男、それぞれが受験を超えて成長し、合格をいただけたのは、アントレの先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

追記：受験校は校風はもちろんのこと、合不合の偏差値だけできめるのではなく、問題の相性、配点比率を十分に吟味することをおすすめします。

匿名希望者のお父様、お母様

慌ただしい受験が終わり、我が家もやっと落ち着きを取り戻しました。

中学受験は親の受験とも言われるように、子供だけでなく親にとっても学びの多い経験を得ることになりました。

娘は合格・不合格、両方経験し、上手くいかなかったことへの心残りもあったはずですが、今の自分の力を全力で出し切ったと清々しい気持ちと弾けるような笑顔で中学受験を終えることができました。

夫婦共働きで思うように伴奏もしてあげられませんでした。が、家族全員が最後まで走りきったおかげで我が家の「受験体験」を記すことができます。

一番がんばった娘、本当にお疲れ様！受験を通して成長した姿をみせてくれてありがとうございます！

【入塾のきっかけ】

1年生の終わり頃、世間がコロナ渦となり、娘は学校から帰れば、ゲームかYoutube 三昧の日々。習い事はしていましたが特に力を入れているわけでもなく、勉強といえば学校の宿題だけ。ただ淡々と日々を過ごしていた時期でした。コロナ渦が長引くにつれて、このまま同じような日々を過ごし続けるのかと思うと、このままでいいのだろうかと不安を覚えて、中学受験について調べ始めるように、そして本を読み漁り、周囲の話を聞き、チュウジュは大変だな、と理解。それでも娘の成長につながると信じて、まずは塾の体験に行ってみたところ、「アントレの授業が一番楽しかった！」という本人の感覚と受験が苦しいことだけではないようにと思い、アントレへの入塾を決めました。

そして、挑戦するからには家族全員でがんばる、また親として冷静な判断力を持ち続けること、ただ疲弊するだけのような受験だったり、今後の成長に悪影響になるようであればいつでも撤退しようと決意しました。

【4年生】

Cクラススタート。1回目のまとめテストでBクラスへ。

(クラスの人数都合でしたが単純にクラスアップがうれしかった！)

でも娘は学校以外の学習はしたことがなかったので、初めは簡単な計算でも躓いていました。学習習慣がなかったので、生活の中に勉強の時間を取り入れること、また予習になれることも大変で、なんとなくしか予習はできていなかったと思います。まとめテストでは思うように点数がとれず、毎回、悔しい結果を見ては投げやりな気持ちになり、精神的に幼い娘は号泣していました。私たちはその涙を見るのがつらく、それなのにつらい言葉を言うてしまうことが増え、さっそく「撤退」を考えました。すぐに面談を申し込み、カッシーにアドバイスをいただきました。

「まずは肩の力をぬいて、3年間走りきることを考えましょう」

力が入りすぎていたのは私たち親でした。それが娘にプレッシャーを与えていたわけです。この後も不安になるたびに何度も面談をしていただくのですが、先生方に親の私たちの力を抜いてもらいに面談に行っていたような気がします。その後は適度に力を抜きながら、予習も頑張り、またアントレにお友達もできたことで通塾を楽しく続けることができました。

【5年生】

5年の所属クラス決定連絡が「？クラス」でした。

条件が残り2回の算数まとめテストの平均が60点以上でAクラス、60点以下の場合はBクラスということでした。同じクラスに所属していたお友達はほとんどがAクラス。娘は危機感を感じていました。

そして1回目のテスト48点。次回72点以上取らないとAクラスにいけないということで、初めて必死に勉強しているようにみえました。そして2回目結果73点で！ぎりぎりいけた！！

娘の底力がみえたのと、Aクラスになることができ、ホッとしました。

5年は成績低迷期でした。授業にはついていけている感じでしたが、まとめテストでは全然点数がとれないため、比例してやる気もなくなっている様子でした。

何度か、クラスを変更すべきなのでは？と思いましたが、面談の際、プーさんから「彼女はAクラスで大丈夫です」という言葉を信じて頑張ろうと何とかくらいついていた時期でした。また志望校も意識始めるようになりました。

【6年生前期と志望校選択】

5年生があつという間に終わってしまい、「え？もう受験学年？」と思った気がします。

親が焦る一方でしたが、娘はもちろん自覚なし。

小学生の時間の感覚は大人と全く違うということを目の当たりにしました。

まずは受験を自分ごとにしてもらうためにも、志望校に向けて頑張りたいという気持ちをつけてほしいと思い、本気で行きたい学校を選ぶことを始めました。

当初は共学志望だったので共学中心に学校見学をしていましたが、女子校もいいなあ、と心境が変化し、改めて女子校もいろいろな学校見学に参加しました。

4年生の時に見学に行った学校は、当時コロナ渦ということもあり、対面で生徒さんに話を聞いたりすることもできず、授業見学も行っていないなど、娘が実際にその学校に通っている姿が想像できず、気になる学校は5年の終わり～6年前期にかけて、再訪問しました。そのことで少しずつ受験への自覚が芽生えたように思います。

「中高一貫校で、高入がないほうがよい」「満員電車で通学はNG」「活気があること」娘とも話し合い、この視点で志望校を決定していきました。

「立教女学院」第一志望

一度足を踏み入れば、歴史ある建物や外国さながらの雰囲気、キリスト教教育を通して、唯一無二の体験ができること、また気品がありながらも生徒さんに活気がある学校としてとても魅力的でした。学校見学の際も、生徒さん自ら娘に話しかけてくれたことが娘にとっても好印象的だったようで、「あの生徒さんのようになりたい」と。

ただ、礼拝があるため朝がすごく早い。バス通学となると、遅れることを想定し、かなり早い時間に出発しないと間に合わないことがわかりました。何度か通学時間に合わせて家を出てみましたが、冬は朝日が昇る前に家を出なければならないこと、案の定バスは定刻より15分前後遅れることがわかり、悪天候の日には車で送迎の必要もあることを考え、親の覚悟も必要だと思いました。

「富士見中学校」第二志望 ⇒ 娘の中ではほんとの第一志望

周りに通っている方も多く、先生も元気で感じがよい、絶対的な安心感。受験を決めたときから、富士見に行けたらいいねと言っていた学校でした。最近は生徒会が積極的に動いているようで、生徒主体に動いていることも好印象。また、成人の日にはほとんどの卒業生が富士見に集うということも、親的にはよかった。

なによりも近いという安心感が一番でした。

やはり、朝の満員電車を経験している身としては、いろいろと想像してしまい、候補となる学校もありましたが、距離を超えるまで惹かれるものがなく、、娘自身も最初から富士見を気に入っており、授業見学で「(生徒が)楽しそう～」と喜び、早々に「もう一人で行けるよ」と近いということ本人にも決め手となりました。

「開智所沢中等教育学校」1月受験校

始めて説明会に行ったときは正直びっくりしました。部活もできあがっていない、図書館もない、校歌も校則もない。でも生徒さんと先生方の一体感があり、これからいい学校にしていくな、という熱意と自信が感じられる学校でした。

何もないからこそ、できることがある。ということが学校全体で見えた学校でもありました。

【6年夏期講習～】

志望校を決めたところで、娘は相変わらずのりりくらのマイペース。

このままだと本当にまずいと思い、夏期講習に向けて面談。

これまでの親の努力不足を実感し、父親のスイッチが入った。夜な夜な夏休みのスケジュールを事細かに計画してやるべきことを明確化。例えば、今日は「四まと算数」の何番と何番まで、コアプラス何番と何番まで、というように細かく細かく細かく、、壁に貼って毎日の進捗を確認、全員で共有しました。

これを文句も言わず、淡々とこなしていましたが、まだまだ娘自身は「やらされている感」が満載でした。この受験が自分ごとにならないのは結局1月まで続いたような気がします。

ただ最終的には計画したことをすべて完了。やってみて初めて「すべて終わった～」とこの上ない達成感を得ることができました。この達成感、この先でもやればできることの自信になったと思います。

9月からは入試演習も始まり、中堅上位を選択。女子上位の壁は高かった。しかし、プーさんに相談し、合格点+20～30点を目標に、中堅上位では一回を除き、すべて合格。上位に名前が載ることで、更に自信をつけていきました。

【過去問開始】

8月に一回目の過去問に着手しましたが散々たる結果に全員で意気消沈。。

始めはとれなくて当たり前！と思っていましたが実際の結果を見るとつらいものがありました。

過去問をやるたびに自信を失い、なんとか気を立て直しながら頑張っていた時期でもありました。こんな時に親は冷静に対処すべきでしたが、「あーまたとれなかったね」とか、「復習が足りないからだよ」など辛辣な言葉をかけてしまいました。復習が苦手な娘は何をしたらよいのか、進んでも明かりの見えない闇の中にいるようで、一番つらかった時期だった気がします。

プーさんの「演習を重ねるにつれて慣れるので大丈夫です」という言葉を信じ、ひたすら過去問をこなす繰り返しでした。今思えば、その言葉を信じてよかったです。

後期は通常の演習の復習を淡々とこなし、過去問を重視してスケジュールを組みました。

立女は11月に1度だけ合格最低点を超えることができましたが、その後は2回目でもぎりぎりか、全く取れないかのどちらかでした。合格平均点が高い学校のため、全教科をまんべんなく得点する必要があるため、国語で足を引っ張ることが多く、娘には難しいかなと感じていたことも事実です。

富士見は算数との相性がよく、やればやるほど高得点がとれるように。12月以降は合格最高点を超えることも何度もありました。2回目を含めると過去5年間ですべて合格最低点を超えることに、なんと、算数100点もとれました。

【受験直前期～本番】

1/10 開智所沢

とにかくすごい人数でした。駅からの道も受験生しかいない。

それに圧倒されたのか震えるくらいガチガチに緊張していましたが、会場でアントレ生に会うことができたようで緊張がほぐれたようです。1月に合格をもらえたことで自信がついたようです。

あとは2月本番を迎えるため、体調管理を徹底しました。

家族全員、インフルエンザの予防薬を自費で購入（オンライン診療で一人1万円弱）。

本番4日前にインフルエンザが原因で弟が学級閉鎖になったり、痛い出費でしたが罹患しなくて済みました。本当に予防薬のありがたみを感じました。

そして本番10日前、娘が泣きながら「受験校を変更したい」と言ってきました。

ほとんどはずっと前から考えていたけど、言い出せなかったと。

「なんで今なんだよ、もっと早く言ってよ..泣」と、これには本当に精神的に参りました。

これについては何度も家族会議をして、娘にも何度も確認しました。

「どっちも受験していいけど、どっちも受かったらどっちを選ぶの？」と聞いたところ、

「8割富士見かな」という答え。残りの2割って何だよと思いました。親的にはせっかくここまでやってきたからには、初志貫徹してほしい。どんな結果になっても。

急遽面談をしていただき、さすがのプーさんも焦る。いけると思います、受けずに後悔するよりもチャレンジしたほうがよいと、やはり立女を受けてもらう方向でまとまりました。そしてどちらも合格してから、「行きたい学校を選んでいいよ」と娘には伝えました。

2/1 立女

試験が終わった後の娘はすごくいい顔をしていました。

返却された問題用紙を見ると、一生懸命解いたであろう、証がありました。もうそれだけでよかった、感無量でした。結果は不合格でした。結果を見たときに飄々としていたので逆に大丈夫かと思いましたが、プーさんに電話をして結果を報告した途端に号泣。

「あー泣けてよかったな」と思いました。逃げずに立ち向かい全力で頑張った結果。

本番当日に娘の強さを見ることができて本当に娘を誇りに思いました。

2/2 富士見

絶対合格したい。その気持ちを強くもち、前の日の不合格は引きずらず、自信をもって向かうことができました。終わった娘の第一声「絶対うかったわ」。なんだその自信と思いましたが、これまたいい顔で出てきたので嬉しかったです。結果は合格。娘の喜ぶ顔を見て、なんだろう、これだったのかもかもしれないとすごくしっくりきた。喜ぶ顔を見て思いました。

【終わりに】

親の私たちからすると、中学受験を選択して本当によかった、またアントレに出会えて本当によかったと思います。小学生の3年間、たくさんの時間を勉強に費やし、遊びたい気持ちも、たくさん我慢したこともあったと思います。受験をして感じたことですが、中学受験が理想の選択だとは思いません。

ただ、人生において本気で何かを目標に頑張ることは少ないと思います。娘は成功も失敗も経験し、精神的にも本当に強くなりました。自分のことだけではなく、お友達と一緒に乗り越えられたこと、最後までやり抜いた自信を持ち、目標に向かってチャレンジする姿を目の当たりにして本当にうれしかった。親としては全部合格と思っています。

また、受験体験を振り返って、我が子の成長の記録のようだと思います。まだまだ精神的にも幼く、考えも足りないことがあって当たり前の小学生だから、成長することを期待するなら、子供を育てる親として、親も自分事にならないといけない、一緒に歩むことが大事だと今更ながら実感します。子供の成長のひとつだと思うと、これで終わりではない、これからがあるから、中学受験がゴールではなく通過点だと思えます。これから過ごす未来に向け、自分の力で進むきっかけとなったことは間違いなかったと思います。

最後にこれまで支えてくださった先生方と共に目標を目指した生徒の皆さんに感謝を伝えたいと思います。また、この体験記を読む方々の学びになればと思い、我が家の体験記を締めたいと思います。本当にありがとうございました！

匿名希望者のお父様

1 中学受験を意識した経緯

両親ともに中学受験の経験がない中で息子の中学受験を考えたまっかけは、長女でした。中学受験をせずに公立中に進んだ長女が高校受験に向けて大手塾に入塾した際に感じたのは、中学受験から高校受験に切り替えた同級生との差でした。特に、中学受験経験者の数学におけるアドバンテージは相当だと感じました。それでも内申点が期待できる長女は高校受験向きだと思いましたが、学校の「あゆみ」の評価など我関せず、我が道を行くタイプの息子には、内申点の比重が大きい高校受験を気にせずに就学してほしい。そんな思いから親が主導する形で中学受験を勧めました。ゼロからのスタートだったため、確たる志望校などはありませんでしたが、自宅近くに武蔵中学や城北中学といった魅力的な男子校があることがわかりました。武蔵や城北に多くの合格者を輩出している塾を調べるうちにアントレに辿り着き、何とか息子を口説き落として体験授業に参加させ、「ここでイイ」との反応でしたので、新小4の2月から入塾しました。

2 息子について

親が主導した中学受験ですから、入塾当初から一貫して息子のモチベーションは低めでした。受験体験記で目にしてきた学校は休んでもアントレには行きたい、帰宅後に授業の様子を嬉々として語る、いわゆる「アントレ生」とは180度違うタイプの塾生だったと思います。学校行事のために塾を休む時はテンションが高く、塾に行ってもクラスメートとほとんど会話せず、自ら質問に行くなどは3年間皆無で、授業終了後は最速で退室してきました。春、夏、冬の季節講習は、特に気を使いました。普段の授業よりも拘束時間が長いので、息子は絶望し、何とか算・国の2教科受講にしてくれと懇願してきたこともありました。モチベーションの維持、これこそが3年間の通塾における最大の目標だったと言っても過言ではありません。

3 アントレの受験準備（その1） ～ 基礎期（小4から小6前期）～

（1）エピソード

入塾の申込みに訪れた際、対応してくれたのはらっきよでしたが「クラスはどうされますか？」と聞かれ、入塾テストもなければ、所属するクラスのレベルさえポテトや飲み物のサイズみたいに決めることに驚きました。何分、初めての通塾でしたのでCクラスからスタートすることにしました。アントレでは、テストの成績で座る座席の位置が変わるなどの過度な競争はありませんが、集団塾ですから、ある程度周囲との相対的評価を意識する機会があります。息子のモチベーションを支えていたのは、白板で1つでも多く、誰よりも速くマルが欲しいという思いでした。そうであればと、時間をかけて質の高い予習をしようと声掛けする親に、「やだ。ダルい。」と一蹴する息子。加えて、復習に欠かせないノートの解説欄には解説不能な文字が踊り、挙げ句の果てには問題すらまともに写せていないことも。こうした親子のモチベーションのすれ違いからか、入塾後最初のまとめテスト前の週末、親子喧嘩の末に息子は涙ながらに「もう塾やめる」と言い、私も「やる気がないなら辞めろ」と応戦して冷戦状態に。週明け、妻に何とか説得されて息子は塾に行き、テストを受験したようでしたが、私の方は早くも中受撤退かと憂鬱な気分でした。すると、その週末見覚えのない番号から着信があり、応じると当時Cクラスの担任だったフンちゃんからでした。「まとめテスト、非常に優秀な成績でした。来週からAクラスの授業に参加してください」息子に伝えると退塾宣言など忘れたかのように得意満面の表情になり、クラスルームに送られてきた順位表を嬉しそうに眺めていました。

（2）振り返り

アントレは予習型の塾ですから、自宅学習で親子が関わる時間は必然的に多くなります。自分の高校、大学受験の頃のものさしで「こうした方が良い、ああしたほうが良い」という親心とは裏腹に、テキストにこなすだけの息子。親子で言い合いになることもありました。この当時の保護者会で「3～4時間、小学生が机に座って授業を受けること自体がすごくないですか。」とカッシーが言っていました。中学生・高校生とは違う、小学生の受験勉強だと頭では理解しつつも、親子のモチベーションギャップに苛立ち、おおらかな考えを持てていなかったと思います。

自宅学習でどんなに親が関わったとしても、実際に白板に挑むのは子供です。どれくらいのテンポで授業が進み、その中で問題を書き写し、解き、解説を聞きながらノートテイクするのがどんなに大変かは子供にしかわかりません。ヨーイドン問題で一番になって次の問題まで優越感に浸る時間や、答えを出せた瞬間に時間切れを宣告された悔しさなど、子供が話してくれて親は初めて理解できます。まずは予習を習慣化する、予習にかけたエネルギーと比例した結果を求めない。白板で負け越した時ほど復習を丁寧に。それでも煮詰まったらとにかくアントレを頼る。このサイクルが大事だったと今では思っています。

4 アントレの受験準備（その2） ～演習期（小6後期）～

（1）エピソード

「いよいよ今年が受験」と緊張感を持ち始めたのは、ちょうど小6の前期から後期に転換する夏季講習の辺りでした。講習期間中の白板問題の正答率と過去生徒の合格校との関係などのデータが配布され、現在の息子の立ち位置を直視することになりました。また、講習後からは過去問に加え、部外模試、入試演習も始まり、一喜一憂してはいけないと頭ではわかっているものの、判定結果に不安になることもありました。部外模試は、四谷大塚の合不合、サピックスの学校別「武蔵」を受験しました。算数が調子の良い時はたまたま武蔵中の合格圏内の判定が出ることもありましたが、ほとんどの回は合格圏外でした。

4年、5年と算数を基軸とした自宅学習を進めてきましたが、部外模試や入試演習を受けるようになり、明確な数字として結果が現れるようになると、理科、社会の低迷が気になりました。4年、5年の時も面談でタケノコに相談することもありましたが、「算数が中心」との助言を信じ、自宅学習の大半は算数に割っていました。模試や演習の結果を受けて再び面談で理社について相談しましたが、「Sクラスの中で見れば抜きん出ているわけではないが、心配するほどではない。それよりも算数を安定させましょう」との回答でした。入試まで2週間を切った頃の最後の面談でも「理社でやることが無くなったら、最後はまた算数に立ちかえりましょう」との助言があり、息子の合格のためにはとにかく算数を突き詰めることなのだと理解し、最後まで夏期白板、武蔵算数対策プリント、前期武蔵算数プリント、入試演習の算数をやり込みました。

（2）振り返り

模試や入試演習が始まると、親子とも「結果」が気になります。もちろん小6前期までのまとめテストでも結果が得点や順位として現れますが、模試や演習はそれに加えて可否の（可能性）判定まで診断してくれます。結果に一喜一憂するなという方が無理なのかもしれません。ただ、あくまで模試ですからなぜそうした結果になったのかを気にするべきでしたし、解決に向けた行動が起これるかが大切だと思います。ただ、課題は個人差があると思いますし、我が家はそうした分析に時間を割くことはできませんでした。

小6後期から算数の個別指導をお願いしました。模試や入試演習で息子が解説を読んででも理解できない問題は自動的に個別に回すようになり、自宅学習の負担はすごく楽になりました。ただ、悩みの種だった社会は最後まで自信を持てる科目にはなりませんでした。それでも最後まであきらめず言い続けたことは、問いを理解し、問いに答えること。「武蔵の入試問題は、最初の授業と言われている。各設問は授業中に武蔵の先生から質問されているのと同じ。最低限、何を聞かれているのかを理解する。そして、間違っていないから、自分で考えて、こうだと思う答えを書きなさい」と最後の日まで伝え続けました。

5 入試本番

（1）出願校

1月にどの学校を受験すべきか悩みました。一応、東京受験を本命とするも、妻とは合格しても進学するつもりのない学校を受けるのはもったいないという意見で一致していました。アントレ生の過去実績を見て、例年、栄東を受験する生徒が多いことは承知していました。しかし、実際通学することを考えた時、新設間もない開智所沢の立地は魅力でした。面談でタケノコに「武蔵を目指す上では、栄東を受験した方が、何らか参考になる結果が得られるのでしょうか」と聞いたところ、「全く関係ありません」との回答でしたので、1月は開智・開智所沢（同時判定）一校のみの受験に決めました。また、東京入試は2月1日午前の武蔵と2日午前の城北、2日午前の城北でコケた場合の2月4日の城北（第3回）は決めていました。また、直前で2月1日の午後を遊ばせておくのはもったいないと、比較的通学が容易な巣鴨中学（算数選抜）に出願することにしました。入塾時から目指してきた武蔵、城北とは別に、直前期に決めた開智所沢と巣鴨（算数）の出願が、後に後悔とまでは言わないものの、我が家に大きな荒波をもたらすことになります。

（2）1月（埼玉）入試

入試当日は、息子と2人電車で開智所沢に向かいました。乗り換えの秋津駅で比較的時間があったので、Zoomに接続し、モモタローに応援を頂きました。「実力からすれば心配はいらない。入試問題を楽しんで！」と声をかけてもらったとのこと。やや強張った顔つきが自信に満ちた表情に変わったように感じました。午前の4教科に加え、午後の算数1科の受験まで長丁場でした。会場から出てきた息子はやや疲れた顔をしていましたが、開口一番「出し切ったあ」と言い、本人なりに手応えがあった様子でした。その夜、家族全員で結果を確認、今年受験者が急増した状況でも見事S特待で合格した息子を称えました。

長い間受験勉強を続けてきた息子にとって、1月時点で、特待で受け入れを表明してくれた開智所沢への陶酔ぶりは相当なものでした。学校説明会でも何ら興味を示していなかった息子が「俺、2月ダメなら開智でいいや」と完全に2月入試に向けた食欲さが削がれていました。親としては正直「まずいなあ。」と悔やみました。通っても良いと判断して受験した学校ですから何ら問題ではなかったと思います。ただ、あくまで2月に受験する学校の志望度が高い以上、1月入試は2月に向けたホップ、ステップであってほしいというのが親としての本音でした。

そんな浮かれた息子を平手打ちし、もう一度受験生の顔つきに戻してくれたのは、第14回入試演習の「不

合格」でした。「君はまだ、武蔵に安定して合格できるほど仕上がっていないよ」というメッセージを息子も自覚したのでしょう。「入試演習のラストは全力を見せる」と再び闘志を燃やし始めました。この頃、Zoom 自習室が始まり、クラスメイトが頑張る姿を目の当たりにしていたことも相まって「やばい、俺も頑張らない」と思わせてくれたことも幸運でした。何とか戦線に復帰し、ここからの2週間は親が傍目に見ても「変わった」と思えるくらいに頑張っていました。午前中に過去問4科、午後は夏期白板、武蔵算数対策プリント、前期武蔵算数プリント、理社は知識テスト、コアプラ確認テスト、授業プリントの解き直し等、「多いよ！」と文句を言いながらも真剣に取り組んでいました。入試3日前、あれほど言い続けてもやらなかった武蔵が販売する過去問に綴られた社会の講評を、誰に言われるでもなく自ら読み始めた息子の姿を見た時、ようやく中学受験が「他人事」ではなく、「自分事」になったと確信しました。

(3) 2月(東京)入試

◆ 2月1日(午前): 武蔵中学

1月入試と同様、息子と2人で武蔵に向かいました。道中、口数の少ない息子に緊張しているのかなと思い、「入試くらいで人生決まらんよ。思い切ってやればいい」と一言だけ声をかけました。息子は「うん」とだけ答え、あとはやっぱり無言のままでした。武蔵の正門前でZoom応援を受けました。タケノコとラクダからの応援に引きつった笑顔で応え、何を言われてもひたすら「うん」と頷く塩対応ぶりはいつもどおりでした。テレビ局の方から息子さんに一言意気込みを伺ってもいいですかと問われるも、超絶人見知りの息子にはあまりに強すぎる刺激と思い、丁重にお断りしました。入門し、受付で書類などを受け取り、まだ時間があるから時間つぶそうか」と声をかけましたが、「早く会場入りして準備したい」からといつも通り言葉少なくスタスタと会場に消えていきました。

試験を終えて会場から出てきた息子の表情はどちらともとれないものでした。国語が物語文ではなく説明文だったこと、記述だけでなく知識を問うような問題もあり、国語が難しく感じたこと、算数は大問3と4の(3)はできなかったけど、それ以外は解けたことなどを饒舌に語り始めたので、それなりの手応えはあったのかなと思いました。

◆ 2月1日(午後): 巣鴨中学(算数選抜)

武蔵受験後、一旦自宅に戻って昼食をとってから電車で会場に向かいました。もともと1月で合格を頂けた開智所沢よりも本人の志望度は低く、会場に向かう途中でも「巣鴨、受ける意味ある？」とやや不機嫌そうな感じが気になりました。「算数1科だから集中して」と説得し、試験会場に消えていく後ろ姿を見送りました。試験終了後、「最後の調べ系の問題がやばいくらい難しかった。それ以外は白板で見たことのあるような問題だったよ」と手応えは悪くなさそうに感じました。ただ、初問の計算問題がキレイな数字にならなかったのが気になると言い出し、自宅に戻ってから振り返ってみると、単純な分数の計算誤りでした。その他にも、途中まで問題用紙と解答用紙が分かれていることに気付かず、途中から急いで解答を写したことで、書き写す過程でも記入箇所をずらしていることに気付かず、修正のために時間を要したことなどボロボロと吐露し始めました。そもそも巣鴨の入試に気持ちが入っていなかったのか、武蔵の入試で集中力を使い果たしたのかはわかりませんが、改めて入試本番は何が起こるかわからないものだと思います。

翌日には武蔵と同じくらい志望度の高い城北の入試が控えていたので、本人を寝かせた後に結果を確認しました。初めての「不合格」でした。複数校を受験するのが常態化している中学受験で、たった1つの不合格くらいで打たれ弱いと言われるかもしれませんが、あのグレー色の画面は本当にメンタルに響きます。空気が質量をもっているかと思うくらいにはっきりと家の中の雰囲気为重くなりました。急いでタケノコに電話したところ「意外でした。でも明日の城北で彼は必ず力を発揮してくれます。」と言われ、後ろを振り返らず、前を向けという意味だと解釈しました。翌朝に本人にどう結果を伝えるのかについて打ち合わせし、Zoom応援でもタケノコから気持ちの切り替えができるような声かけをしてもらえるとのことで、少し安心してその日は眠りにつきました。

◆ 2月2日(午前): 城北中学

なんとなく巣鴨の結果が良くないことを察したのでしょう。朝起きてきた息子のテンションは低め、不機嫌さが前面に出ていました。隠しても仕方がないと腹を決め、「巣鴨、ダメだった」と単刀直入に伝えたところ「やっぱりね」と一言。息子が巣鴨の可否というよりも、クラスで俺だけ落ちていたらどうしようという点を心配していることは察しがついていたので、「昨日の夜、タケノコと電話したけど巣鴨の算数難しかったみたい」と嘘をつきました。入試の難易を考慮して複数校を受験し、1つでも進学の可能性を幅広に模索するという受験戦略は正しいと思います。また、不合格の経験が後人としての成長の糧となることもあるだろうと思います。ただ、入試期間中の「不合格」は、そんなふうに理性的に受け取れないほどに親子のメンタルをえぐるものでした。2月1日の午後を遊ばせておくのはもったいない、そんな理由で受験させたことをひどく後悔しました。

城北受験の当日、雪の予報ははずれ、実際には冷たい雨がしとしとと降る中、いつもどおり息子と2人で会場に向かい、いつもどおり早めに到着しました。講堂の前でZoom応援に何度も接続を試み

るものの、つながりません。痺れを切らしたのか、息子は「もういいよ」と優しく言い残し、一人でスタスタと会場に消えていきました。思わず「とことん流れが悪いなあ」と独り言（ご）ちてしまいました。いつもなら一旦帰宅するところですが、何とか流れを変えたいと思い、そのまま城北に残って試験終了まで待つことにしました。試験を終えて出てきた息子と合流すると「理科がマジで難しかった。2割いってないかも」と怖いことを言います。前日の第1回入試の理科も平均点が低く出ていたので、「みんな難しかったはずだから、大丈夫」と声はかけたものの、前日（巣鴨）の結果で疑心暗鬼になっており、不安は募るばかりでした。

夜20時の発表までは本当に長く感じました。時間になり、息子本人にIDとパスワードを入力させました。心の準備のための時間を求める親とは対照的に何の躊躇いもなく打ち込みを終えた息子が、ポンッとクリックすると「合格です。おめでとうございます」の文字とピンク色の画面が広がりました。物静かに少しはにかみながら喜びを噛みしめる息子と年甲斐もなく絶叫し喉を痛める父親、側から見れば明らかに異常な光景でしたが、我が家にとっては最高の瞬間でした。

◆ 2月3日：武蔵中学の合格発表日

合格発表の朝、前日の熱狂は冷め、我が家には何とも言えない、まったりとした空気が漂っていました。実は前日の城北受験後、それまで本人にはひた隠しにしてきた武蔵の算数解答速報を見せて自己採点させていました。試験直後の手応えとは異なり、大問1や2でもミスが発覚し、大問1を落とすようでは、合格はおぼつかないというカッシーの講評を受けて親子ともに半ば諦めモードでした。入試演習でも算数が平均を下回った時に合格を勝ち取ったのは国語の得点が異様に良かった1回だけで、今回は本人の手応え的にも国語が総合点を牽引することはないと思い、厳しい結果だろうと高を括っていました。発表時間の午前9時となり、前日と同様、息子本人がパソコンに情報を打ち込みます。前日とは違い、親子ともにある意味で心の準備ができていたため、息子の早すぎるクリックを制止することはありませんでした。ポンッとクリックすると「合格です。おめでとうございます」の文字とピンク色の画面が広がりました。これまでと同じくリアクションは大きくないものの、昨日よりも満面の笑みで喜ぶ息子と心の準備を裏切られ、やや誤嚥気味に一拍遅れて絶叫する父親、側から見れば明らかに異常な光景でしたが、我が家にとっては生涯忘れられない瞬間となりました。

(4) 受験結果（総括）

1月11日	開智・開智所沢中学（特待A、算数特待）	合格（S特待）
2月 1日午前	武蔵中学	合格 → 進学
2月 1日午後	巣鴨中学（算数選抜）	不合格
2月 2日午前	城北中学（第2回）	合格

おわりに

受験前夜、息子に大きく「7点」と書いた紙を渡して、「何だかわかる？」と質問しました。「さあ」と答える息子に「今年の浦和明の星の理科の合格最低点だよ」と伝えました。入試では超難問が出題され、心が折れそうになることも予想されます。そんな時でもその後の科目をあきらめないでほしいという意味を込めた励ましでした。武蔵の試験では個別の西殿先生が最後にくれた「大問を丸々落とさないように」との助言を愚直に守り、算数で大きくリードできなくても土俵際に残ることができたのか、あるいは算数以外の科目もあきらめることなく、武蔵からの問いに必死に答えようと紡いだ言葉を拾ってもらえたのかもしれませんが。

モチベーションが低く、喜怒哀楽をあまり表に出さない息子ですが、アントレの3年間で多くの方々と関わり、何か心を動かされ、鼓舞されながら通い続けることができました。アントレでなければ最後まで続けること自体が難しかったと思います。

清水先生、個別の西殿先生、坪井先生をはじめ、アントレの指導員の皆様、本当にありがとうございました。今のところその兆候はありませんが、将来、息子がアントレに顔を出すことがあれば、温かく迎えていただけますと幸甚です。進学教室アントレの更なるご発展と塾生皆様のご健闘を祈念しています。

匿名希望者のお母様

新小3の初めから4年間、アントレの先生方には大変お世話になりました。

家庭での過ごし方を振り返ると、うまくいったように思えること、失敗したこと、色々思い起こされます。こんなケースもあった、という記録を残させていただきます。

【息子の紹介】

本を読むのが大好き。字を書くのは苦手。JAMSTECやKEK、JAXA、海洋大学など、興味のある施設のイベントを見つけては参加し、水族館に科学館、博物館に行き、夏は落合川でエビや魚を捕り、近くの図書館に通い、(6年後期を除いて) 平日も休日も毎日楽しく遊んでいます。

【習い事】

- ・ピアノ：年中から新小6開始(小5の2月頭)まで。週末と発表会前以外ほぼ練習しないので、家庭学習に影響はありませんでした。
- ・スイミング：年中から現在まで。週2〜3回→4回→2回→1回、とアントレの予定に合わせて、スクールやコースを変えながら続けました。プールに入ると機嫌と体調がよくなります。
- ・その他、クライミング(小2〜小3)、第九の合唱(小1、小4、小5)、バレエ(年中〜小1)など、興味のあることはやれる範囲でやってみていました。

【アントレ入塾まで】

息子は、平仮名と数字は読めるものの、ほぼ書けない状態で小学校に入学しました。学校の勉強に苦勞する日々で、勉強と集団授業に苦手意識を持っていました。書字が苦手、時間内にノートを取りきれないなど、中学受験を考える前にクリアすべき課題が沢山ありましたが、柏原先生(カッシー)のブログを読んで「ここなら息子が勉強を嫌いにならずにいられるかもしれない」と思い、体験授業に申し込みました。ちなみにこの時点では、九九が全部言えず(「シチロクシジュウハチ」と言い続け、学校のテストをクリアできず補習と呼ばれました)、時計も完璧には読めませんでした(何度説明して練習しても、55分を過ぎると短針が次の時間を指していると認識するらしく、間違え続けていました)。

【3年生】

アントレには、新小3(2年2月)からお世話になりました。その前月の体験授業を受けた後、「お母さん！すっごく楽しかった！僕ここに通いたい！！」と言いながら教室を出る息子に、清水先生(タケノコ)が優しい笑顔で「元気だったな！」と声をかけてくださった場面が忘れられません。

その後、「中学受験するかどうか、わからないのですが…」「この時期ですので、まだ決めていなくても大丈夫ですよ」というやりとりを経て、入室を決めました。「他の塾も見てもいいから」というお言葉もいただきましたが、息子は他の体験授業や入塾テストは行きたがらず、入塾テストに受かるとも思えなかったため、他は行きませんでした。

清水先生担任のAクラスに入れていただき、アントレ生活がスタートしました。家庭では、『ジュニア予習シリーズ』の予習と提出課題の『ホームワーク』のみやっていました。息子はアントレに行きたいから予習をし、ハンコ欲しさに提出課題をやりました。次の授業を楽しむことしか考えておらず、白板の復習は手付かずのままでした。

学校の授業は苦手な息子が、アントレは楽しいと張り切って通いました。苦手だけれども必死に白板の問題を写し、頑張っただけの様子がノートから窺えました。今はこれでもしょうがないかと思い、ただただ楽しく3年生を終えました。

3年の秋ごろ、突然スイミングの育成コースに入りたいと言い出し、週4回練習に参加することになりました。4年生の時間割と水泳のスケジュールが合わず、清水先生に相談したところ「アントレは6年後期まで土曜の授業もありません。習い事もぜひ頑張ってください」と励ましていただき、4年の理社は季節講習のみ参加することにしました。

【4年生】

引き続きAクラスに所属し、4年生からは柏原先生に担任していただきました(5,6年はSクラス)。我が家は算国のみ週1回の通塾でしたが、授業が20:10までになりました。それまで20:00に頃にベッドに入る生活だったため、やっていたか心配でした。実際、アントレでは元気そうでしたが、帰宅するとすぐにお

風呂に入って寝ました。

Aクラスの算数は、『最難関問題集』の応用問題Aか『シリーズ計算』が提出課題でした。どちらをやるか本人に尋ねたところ「そんな怖いタイトルの本（最難関問題集）は無理だ」と拒否され、シリーズ計算をやることになりました。シリーズ計算も保護者会で言われるような短時間では終わらず、大量に間違え、直しても合わず、毎日時間を費やしていました。

秋頃の面談で、柏原先生から「この（最難関問題集の応用問題A）レベルの問題に触れてから授業に来てほしいですね。大変なら半分（2問）でも1問でも良いので」とのアドバイスをいただき、シリーズ計算に加えて取り組むことになりました。カッシーがそう言っていると説得したら、息子は渋々受け入れましたが、相変わらず表紙の迫力に心が折れていましたので、私が体裁を変えることにしました。

問題をスキャンしてiPadのGoodnotes（ノートアプリ）に取り込み、1問ずつA4上部分に貼り付け、下部分を罫線にしてプリントアウトしたものを渡し、1枚（大問1）だけ取り組むことから始めました。息子にはこのやり方が良かったようで、取り掛かるまでのハードルがかなり下がったように見えました。このやり方でジワジワ枚数（問題数）を増やし、5年生からは4問全てでできるようになりました。

5年生になる前に水泳の育成コースは辞めました。その後、アントレのスケジュールを中心に据え、空いている曜日に通えるようにスクールやコース、曜日を変えながら、最後までスイミングは続けました。

【5年生】

5年からは理社も受講しました。週3回21:00までの授業になり、どう頑張っても22:00就寝がやっとでした。最低9時間でできれば10時間寝たいので、早起きは諦め、学校に間に合うギリギリまで寝ていました。

5年から6年前期まで、国理社はまとめテストの結果でクラス（S/A）が変わります。息子の場合は、カッシー、タケノコ、ラクダ、ダンディー、プーさん全員大好きで、全員の授業を受けることが目標でした。そのためには国語をSクラスに続ける必要があり、勉強しないといけないという気持ちがやっと芽生えたようでした。私も、漢字が全く書けないことに危機感を覚え、前期の保護者会後に天野先生（ラクダ）に相談しました。「彼の場合、何度も書くのは嫌がりそうなので、6年で使う物を今からやってみるのが良いかもしれません」とご提案いただき、『出る順「中学受験」漢字1580が7時間で覚えられる問題集』を先んじて購入しました。確かにこの本の手順は息子に合っていて、今までで一番抵抗なく取り組みました。が、この本に載っている漢字はレベルが高すぎたので、同シリーズの『小学校漢字1026が5時間で覚えられる問題集』から始めました。この2冊を一通り終えるのに丸1年かかりましたが、5年生から取り組んだおかげで、最終的になんとか間に合ったように思います。

理社は、予習シリーズを読んでから提出課題の問題を解き、私が○×だけを付けて返し、息子が予習シリーズを読み返して間違えを直しました。疑問が生じると図鑑や用語集で調べ、それは私も手伝いました。そうしているうちに別のことが気になり脱線することもしょっちゅうでしたが、楽しそうだったので止めませんでした。そんな調子だったので効率は悪く、勉強できる総量も少ないので、理社の復習には手が回りませんでした。毎日プリントは、私がオレンジペンで答えを記入し、まとめテスト前に赤シートで隠して暗記する、という邪道な使い方をしました。保護者会で村上先生（フンチャン）がコツコツやることの大切さ、毎日プリントの良さについてお話ししてくださる度に、耳と胸が痛かったです。

【6年生】

6年開始（5年2月）のタイミングでピアノを辞めました。通常授業に加え週1回の武蔵算数が始まり、いよいよ睡眠時間の確保が難しくなってきたため、時間が取れる日は昼寝をしていました。また、前期のうちはまだ一日中勉強するということができず、土日とも午前午後どちらかは出かけたり休んだりしていました。

苦手分野については春頃から、そろそろなんとかしないと間に合わないと思い、家庭でやりきれない部分について、本格的に手を打ち始めました。

計算が遅く、ミスも多く、工夫なども上手くできていないようだったので、柏原先生におすすめの問題集などあればと相談したところ、好きなもので良いとのお返事だったため、『計算くらぶ』というwebサービスに申し込みました。担当の先生が付き、提供されている計算プリントから必要なものを薦めてもらい、解いたものをスキャンして送るとコメントがもらえるというもので、息子にぴったりでした。解き跡から、計算途中のメモの位置や書き方、ミスの原因までアドバイスをもらえるので、ミスも減り、計算力が格段に上がりました。

計算以外の算数についても私では力不足になってきたので、6月後半から週1回、個別指導をお願いしました。前期は苦手単元の復習をお願いし、後期は主に過去問と模試の直しをお願いしました。担当の清水先生との90分はとても楽しかったようで、家ではなかなか進まないことがスムーズに終わりました。

夏前には天野先生に面談していただき、国語の復習の仕方、自己採点の仕方についてアドバイスをいただきました。本人もまめに相談に行き、その度に丁寧に対応していただきました。ここまでしてもらってサボるわけにはいかないと感じたようで、夏期講習の復習は頑張りました。その結果、夏期講習中のまとめテストで国語は各期総合1位になり、「やればできるようになるのかも」と感られたようでした。

【学校見学と志望校について】

3年時に清水先生、4年時には柏原先生に面談で挙げていただいた学校と、個人的に気になった学校はできるだけ見学しました。生徒さんは皆さん優しくあたたかく、最初は受験に乗り気でなかった息子も、行くたびに少しずつ、どの学校も好きになっていったようでした。本人の志望度にはっきりした順位はなく、最終的に武蔵、桐朋、早稲田が第一志望群となりました。

■ 桐朋：4年の6月に文化祭へ行き、それから何度も足を運びました。学校嫌いの息子に「中学校って楽しいのかも」と思わせてくれました。興味をもった分野の研究者に桐朋出身の方が多かったり、慕っているアントレの先輩が桐朋に進学されたり、息子にとってずっと憧れの学校でした。「武蔵と桐朋どちらも受けたい」という本人の強い希望があり、2/1 武蔵、2/2 桐朋の流れが決まりました。

■ 武蔵：4年の7月にキャンパス自由散策会に参加し、そこから毎年、文化祭や説明会に行きました。行くたびに、濯川を泳ぐ鴨について行ったり、落ち葉を流しては追いかけたり。図書館の蔵書に興味が湧いて本を読み、「かわいい」と言いながらヤギを眺めていました。川、図書館、動物…普段の休日とほぼ同じでした。散策会の帰り際、先生がシャワーで水を撒いておられるところに虹ができてのを見つけ、「虹だ！」と駆け寄り先生とお話する息子は、本当に嬉しそうでした。あまりに楽しそうなので、ここが学校だということをおぼえているのか心配になるほどでした。

■ 早稲田：5年の夏に説明会（保護者限定）に参加しました。「よく『どんな子に入学してほしいですか』という質問を受けますが…優しい子が多いという印象はありますが、本校は、どんな子も受け入れます。」というお話に感動しました。翌年の説明会でも全く同じことをお話されており、これが明確な学校の方針だと理解しました。また、「これは大事なことなので」との前置きの後、災害時の備蓄と家計急変時の奨学金についての説明があり、とても信頼できる学校だと感じました。息子の方は、屋内プールがあって体育で水泳が多いこと、音楽でひとり一台電子ピアノがあって練習すること、文化祭が楽しかったこと、学食の唐揚げが美味しいこと等、好きなところが段々と増え志望度が上がっていきました。

■ 芝：説明会での先生方の愛情あふれる雰囲気親子で惹かれました。文化祭の生徒さん方の様子もとても楽しそうで、ここでこの学校を好きになって6年間を過ごせたらどんなにか幸せだろうと思いました。息子も、校長先生の「いいかい。第一志望は3つだよ」の言葉を受け、「芝と桐朋と武蔵を第一志望にする！」と言いました。武蔵(2/1)を受験するので、芝へのチャレンジは2/4に決まりました。

■ 成城：日程が合わず、説明会は親だけ行きました。早弁推奨に魅力を感じました。休み時間の生中継が毎回素敵で、とにかく皆さんがニコニコ笑顔なのが印象的でした。息子も文化祭に行って「なんとなく全体的な雰囲気がとても好き」と言い、志望校になりました。

■ 城北埼玉：5年6月のオープンスクールに行きました。理科の授業体験で葉脈標本を作って葉にもらいい、鉄道研究部で模型を見せてもらい、非常に読み応えのある立派な部誌もいただき、とても楽しい一日でした。温水プールがあることも魅力で、息子は水泳部と鉄道研究部どちらも入りたいと悩んでいました。バスに慣れていなかったのも、本川越駅からのスクールバス25分が大丈夫なのかが検討事項でしたが、最後まで受験したいと考えていました。

■ 立教新座：自宅からバス1本で行けて通学時間も短く、長水路（50m）の室内温水プールもあり、水泳に本気で取り組むなら最高の環境だと思いました。現時点で本人に興味のある分野の学部が立教大学にはなかったこともあり、小6時点で大学まで決めるイメージを持ちきれず、最終的に受験しない判断をしましたが、ギリギリまで受験を希望していました。

■ 開智所沢：中高で先輩後輩の人間関係を学んでほしいと考えていたので、入学時に高3生まで在籍していてほしいという親の希望から、当初は検討していませんでした（息子が入学したら2期生でした）。あまり沢山の学校の対策はできないと踏んでいたのも、1月受験は1校に絞りたいだったので、2月にピークを持ってくるためにどうするのが良いかを柏原先生にご相談し、開智所沢が有力になってきました。本人も学校へ足を運び良い印象を持ったこと、1期生としてアントレの先輩が何人も進学されている安心感、通学時間や進路の選択肢なども考慮し、1月は開智所沢のみ受験することに決めました。

【入試結果】

1/11（土）	開智所沢（特待A入試）	合格（S特待 医進クラス）
2/1（土）	武蔵	合格（2/3 10:00 発表）
2/2（日）	桐朋（第2回）	合格（2/3 14:00 発表）
2/3（月）	早稲田（第2回）	不合格（2/4 10:00 発表）
2/4（火）	芝（第2回）	武蔵への進学を決めたため、受験せず
2/5（水）	成城（第3回）	武蔵への進学を決めたため、受験せず

この一連の流れで最も怖かったのが、開智所沢の入試前日（1/10）でした。3学期は始業式と翌日だけ登校し、翌日（1/10）から欠席しました。その日は起きた時から様子がおかしく、毎朝やっている計算も全く合わず、食欲もありませんでした。予定通り午前中に過去問を1年分解きましたが、信じられないような低い点でした。算数では簡単な計算ミスを連発し、検算した形跡ありません。本人に尋ねると「なぜか焦っちゃって全然できなかった。見直しもしなかった」と言います。

冬休みの間、早寝早起き冬期講習の規則的な生活を繰り返し、緊張する様子もなく、あわよくばこの調子で最後までいけるかも、と思っていたところでした。二日間だけ学校に行ったことで、生活リズムの変化に対応できなかったのかもしれませんが。入試前日に突然、可否が出る入試の現実に気づいて怖くなったのかもしれませんが。とにかく、明日同じことをやったら確実に落ちると思いました。息子と話しても立て直せず困り果て、授業前にアントレに電話して柏原先生に状況を伝え、様子をみていただくようお願いしました。その数時間後、アントレに迎えに行くと、ものすごくハイテンションな息子が出てきて、算数の白板がすぐできたのだと話し始めました。何があったのかわかりませんが、日中との落差に驚きました。とりあえず、「明日は落ち着いて受けよう、決めた手順を必ず守ろう」という話をして休ませました。

翌朝も計算は合わず、機嫌も良くありませんでしたが、昨日よりは落ち着いているように見えました。Zoom応援で荒武先生（ダンディ）の声を聞いてリラックスできたようで、ちょっとソワソワしている程度の調子で学校に入りました。試験後はまた機嫌良く出てきて、午後に入試演習に出るために車でアントレに向かいました。アントレから帰ると疲れ切っていて、簡単に食事を摂ってお風呂に入ってすぐに寝てしまいました。私もこの二日間の息子の様子を疲れ果てていましたが、22:00の発表までなんとか起きて合格を確認し、力尽きました。

翌日、公表されている得点分布をみると、息子の合計点は受験者1886人中16番目でした（きりの良い数だったのでわかりました）。この結果を見て喜ぶよりも、前日との余りの出来の差に恐怖を覚えました。これまでずっと、1教科失敗しても他の教科が良くてカバーされたり、なぜだかどうにかなっていたため、油断していたのだと思います。小学6年生の子供が受験するということの不安定さ、それに直面したときの自分の余裕のなさを知りました。

そこから1月末まではまたアントレだけの生活になり、落ち着いてすごせました。武蔵対策プリントの2週目と、武蔵算数の解き直しを猛烈な勢いでこなし、合間に過去問や理社の知識の確認を散りばめました。入試当日の流れを考えると、試験開始時に準備万端にするには5時に起きる必要がある、という結論に至りました。週3日21:00までアントレの授業を受けつつ睡眠時間を十分とるために、毎日2時間の昼寝をしました。最終授業が終わってからの4日間は19:30就寝の5:00起床というスケジュールですごしました。この時期は、睡眠時間の確保が最優先課題でした。

2/1の武蔵、2/2の桐朋は、緊張しすぎることと興奮しすぎることなく、落ち着いた様子で試験に向かうことができました。2/2の後にはさすがに疲れているだろうと思ったのと、2/3の通勤ラッシュを避けたい気持ちから、早稲田近くのホテルに宿泊しました。実際、桐朋の入試が終わった後の息子は、2日間フル回転して疲れた頭+心と、ほとんど動かしていないので疲れていない身体とのバランスがちぐはぐな感じでした。夕方ホテルのプールで1500mほど泳ぎ、適度な疲労とともに機嫌も良くなり、明日に備え落ち着いて過ごすことができました。

そして迎えた 2/3 の朝、またもや様子のおかしい息子がそこにいました。それまでは起きてからずっと、その日の試験のことに集中できていたのですが、この日はいきなり「明日は芝を受けるのかなあ」と言いだしました（この日発表の武蔵と桐朋どちらも不合格だった場合のみ、2/4 の芝を受験することに決めていました）。「芝は好きだし行きたいけど、（芝を受けるということは、武蔵も桐朋もだめだったということだから）芝は受けたくないんだ」というようなことをズツツツと言い続け、支度も進みませんでした。とにかく Zoom 応援でカッシーに集中できていないことを相談しなさい、と言いました。本人は嫌がりましたが、なんとか自分の口から伝えました。柏原先生に諭していただき、多少落ち着きを取り戻しましたが、やはりソワソワしたまま学校へ向かいました。

早稲田の試験中に武蔵の合格を確認し、ほっと胸を撫で下ろしました。試験を終えた息子に合格を伝え、昼食をとり、帰り道で桐朋の合格も確認しました。もし 2/1, 2, 3 の全てに合格できたらどこに進学するか、決心がついていなかったのですが、その夜に「武蔵に行く」と決め、アントレに報告し、手続きを終えました。

翌朝 10:00、早稲田の不合格を確認し、息子の中学受験は終わりました。同じ不合格でも、全力で向かった結果であってほしかったという気持ちはあります。ですが、自分の気持ちや緊張をコントロールできなかった経験と、そのことへの後悔は、彼にとって良い経験になったと思います。

【最後に】

振り返ってみると、あまりにも勉強量が少なく（量の割に時間はかかっていましたが）、効率も悪く、やるべきなのにやれなかったことが多くあったと痛感します。私の関わり方についても、もっと良い方法がありました。それでも行きたい学校に進学できた、だからこのやり方で良かったのだ、と心から思うことはできません。

先生方が常に息子の様子を見極めて的確なアドバイスをくださり、本人がギリギリのところで踏ん張りました。親もできることは手伝いました。他の方におすすめできるような内容ではありませんが、これが我が家の精一杯だった気がします。

息子にとってアントレでの時間はとにかく楽しく、彼は最終盤まで、中学ではなくアントレに行くために勉強していました。学力はもちろん、勉強のやり方も習慣も楽しさも、全てアントレで教わり、育てていただきました。息子の成長を待ち続け、見守ってくださった先生方に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

匿名希望者のお母様

小4の間は他塾にいましたが、入塾当初は50弱だった偏差値がコンスタントに30代へと落ち込み、本人が別の塾を希望したため、アントレに入りました。アントレではCクラスでスタートし、小5からはながらくBクラスで、Aクラスに上がったのは小6の夏期講習からでした。

小5では保護者会資料を参考にしながら、各教科の予習復習、宿題やテスト準備を週単位でそこそこきっちりと管理しました。そして「何をやるとゲーム(Switch、YouTube)を何分出来る」の取り決めを話し合い、こちらもそこそこきっちりと管理しました。といっても、小5の間は「ゲーム時間より勉強時間の方が少し長いかな」くらいの甘い匙加減でした。

友達と遊びに行くのは基本フリーダムでしたが、最終的には、本人が勉強やゲームの進行具合を考えて調整できるようにしました(それでも、小6の11月中旬頃まではほぼ週1で遊びに行っていました)。

そのような学習状況ながらも塾はとても楽しみ、成績もじわじわと上がっていったのですが、小5〜小6の進級時期頃に、「僕は、ゲーム時間をけずってまで勉強したくないんだ」と宣言されました。

ちょっとキリッとした顔でとても志の低いことを言い出す息子にびっくりしましたが、そもその我が家の中学受験のスタンスが「どんな学校に行かせたい」ということより「今この勉強をしておくで今後良いことあるよね」というものだったので、息子の気持ちを汲んで「そこそこきっちりと管理」をやめ、これ以降の学習体制はほぼ息子主導で塾任せとなりました。

ただ、ゲームは変わらずに管理をしていたので、彼の生活の「ゲーム→勉強」を繰り返すサイクルは続きました。というより、

ゲーム → 勉強 → ゲーム → ゲームと勉強の疲れを歴史でいやす → その後は3択

(1. また勉強する/2. もう戻ってこない/3. 漫画を読む)

の3択で、1を選ぶ頻度がどんどん上がっていきました。この辺りは成績が落ちたら話し合って改善させるつもりでしたが、多少の増減はあれど全体的には上昇が続き、特に口をはさむことのないまま、小6夏期講習からAクラスになりました。良い先生や良い友達に恵まれた環境だったのだらうと思います。

志望校選定

志望校は「適度に自由、適度に管理」「大学受験が前提」「理社の配点が高い」という親の希望や息子の事情に、息子の希望「プールがない」も配慮したりしなかったりしながら、小5の1年間で以下にしぼっていききました。

- ・本郷：手が届く可能性がゼロではないチャレンジ校の偏差値帯でプールや水泳合宿がない
- ・城北：近い、通っている生徒や保護者からの評判がいい
- ・学習院：附属だが半数近くが大学受験をし、試験日が2/2、2/3でスケジュールに組み込みやすい
- ・開智所沢：通いやすい1月校、プールが今のところない

校風や雰囲気などももちろん重視していたのですが、説明会に行くとどこもそれぞれに良くて、逆に決め手の材料とするのは難しかったです。

Aクラスにあげたら2/1は本郷、Bクラスのままであったら城北を目指そう、と息子と決めました。

そして夏になってAクラスに上がり、入試演習も始まった頃に「1/10は栄東を受けたい」と息子が言い出したため、説明会に行き受験することになりました。また、場合によっては1/8の静岡聖光を受けることも予定していました。

アントレのアドバイス以外の学習？

理科：苦手科目

- ・エアロバイクを漕ぎながら予習シリーズの音読(小5)

予習シリーズを全く読まずに問題にとりかかって「分かんない、無理」「読むのも無理、ていうか読まないからね」と謎の不機嫌ムーブをかまされるので、予習シリーズの音読でゲーム時間をあげました(黙読は読んだフリで逃げられました)。別途、肥満解消のために「エアロバイクを漕いだらゲーム」という取り決めもあり、同時にやって時間短縮していました。

- ・YouTube(こばちゃん塾、他)

塾で授業を受けても分からないところの再受講として、ピンポイント的に活用しました。

- ・「中学入試 まんが攻略 BON!」

苦手分野を読ませたところ全巻欲しいとのことで、理科は全分野そろえました

・岡叶「ヤンキー君と科学ごはん」

ハートフルな理科漫画です。理科へのヘイトが高かったので読ませました。息子と理科の関係性に改善があったかは不明ですが、この漫画は面白いそうです。

社会：歴史と公民は得意科目

・角川まんが学習シリーズ「日本の歴史」(小3～)

モブキャラのセリフが再現出来るほどに読み込みました。なお「世界の歴史」も読み込みました。3巻以降からは「ちなみにその頃……」といった形で日本史にもちょっと触れられるそうです。

・「日本史探求授業の実況中継」シリーズ

息子から「日清戦争ではたくさんもらえた賠償金が、日露戦争でもらえなかったのはなぜ？」といった、私では調べずには回答できない質問が増えてきて購入。大学受験用の予備校(河合塾)の授業内容を文字化しているもので、文章が口語調というか、聞いて理解するための文なので、読むだけなら意外と分かりやすいようです。息子はエンジョイしていました(マスターはしていないと思います)。

・奥山真司「サクッとわかるビジネス教養 新地政学」

息子が「国の強さって何で決まるの?」「アメリカの位置ってズルくない?」と言い出したので渡した本。受験直結はあまりしないのかもしれませんが、地理、歴史、公民の各分野がつながって社会科全般の理解が深まった、と、社会科が大嫌いだった私が思いました。子ども向け風のものも出ていますが、こちらの方が図やイラストが多く分かりやすかったようです。

国語：普通? ムラがあり

・ドラえもん国語おもしろ攻略「ことわざ辞典」「四字熟語がわかる」(小2～)

2歳上の姉用に買ったものですが、息子の方が良く読み、そこそこマスターしていました。これのおかげで、語句系はそこまで苦でもなかったようです。

・ふくしま式「要約力」「書く力」「一文力」(小6秋～)

記述対策として購入した問題集。「時間がないから全部やらなくていい」と伝えて取り組みました。

・漢字の偏のとめ・はらいの確認

漢字に厳しい本郷対策として。どの偏の時にはらい、どの偏の時にとめるのが最後まであやしかったので、簡単な表を作って確認・練習させました。

算数：嫌いではないがやや苦手? ムラがあり

・家庭内アントレ?

息子の問いたテストや過去問を算数・数学の得意な姉や父が解き、競ったりしていました。また姉弟で問題を出し合ったりもしていました。

入試本番付近

入試は、本番が近づくにつれて自信がなくなっていったようで、1/10は栄東ではなく、過去問がうまくいった開智所沢の第一回を受験しました。ここで合格をいただいて安心したのか、翌日の1/11の開智・開智所沢の特待A入試も合格でした。そして、過去問で算数がとれることが多かったために急遽受けることにした算数特待は不合格でした。息子いわく「過去問よりも算数が難化し、社会の記述が減って解きやすかった」とのことでした。

もともと「1月の開智所沢で何らかの特待が受かったら2月は本郷だけ受験する」という予定だったため、この日以降は本郷の対策に専念しました。ただ、開智の結果は予想以上の好結果で、本人は「本郷も受かったとしても開智所沢に行くのもいいのかも」と気持ちが傾いたようでした。そのせいか、残念ながら勉強にはあまり身が入らず、三学期は受験終了まで休む予定だった学校に早めに復帰し、受験2日前の1/30には友達と遊びにも行っていました。そして2/2の大雪予想を聞き「大雪の中試験なんていやだ、2/1が不合格だったとしてももう受験は終わりにする」と、南の島のハメハメハ大王みたいなことを言っていました。

そんな調子でしたので、親としては「こりゃ無理かな」と思っていたのですが、結果は合格でした。終盤のあのノリで合格できたということは、運にも助けられているでしょうけれど、実力もついていたのだな、と、息子の頑張りと成長にしみじみしました。進学先は、悩んだ末「授業が面白そう」「新設校で面白そう」「通学に快速や準急も利用可能」「髪のがばせる」といった理由から、開智所沢に決めたようです。

こうして全て終わって振り返ってみると、息子は最終的には、受験をそこそこハッピーに自走できたのかな、と思います。

親としてさして補助や管理をせずともなんとかなるまでに息子を成長させてくださったアントレの先生方、一緒に切磋琢磨してくれたお友達には、感謝ばかりです。本当にありがとうございました。

匿名希望者のお母様

いよいよ受験体験記を書く番になりました。今まで先輩方の体験記を読ませていただき、娘と同じ志望校のページには付箋を貼り、時にはマーカーを引き、参考にしていました。我が家の体験も少しでも参考になればと思い、アントレへの感謝の気持ちも込めて、長くなりますが、書かせていただきます。

■入塾

同級生の通塾をきっかけに、自分も中学受験にチャレンジしてみたい！というところから、我が家の中学受験が始まりました。受験は大変であること、今までみたいに出かけられなくなる（我が家は週末のたびにキャンプやスキーなど外遊びに出かけていました）、生活が一変することを説明した上で、つらくなったら、地元中に行きたくなったら、無理せず、途中でやめようね・・・という前提でスタート。

娘は就学前から糸山泰造さんのどんぐり問題（お絵描き算数）に取り組んでおり、小学生のうちは反復学習を避け、1問とじっくり向き合う姿勢を大切に過ごしてきました。そのため、母の勝手な印象ですが、反復ばかりに思えた大手塾に気持ちが向かず、違うタイプの塾を探していたところ、アントレを見つけました。『じっくり、ていねいに』の教育理念がどんぐりと同じで、ここしかない！と母の一目ぼれ状態で入塾説明会に申込み、体験授業を受けた娘も「ここがいい！」ということで、アントレに決めました。

帰り道、中学受験をするからには朝学習を始めようね・・・と娘と決め、毎朝30分早く起きるように生活スタイルを変え、シリーズ計算と漢字に取り組みました。計算だけは出かけるときも必ずやろう！と、どこへでも持って行き、すきま時間に取り組んだのは懐かしい思い出です。

■4年生（入塾時：Cクラス→1回目のまとめテスト以降：B2クラス）

入塾時まで勉強習慣もなかったため、まずは勉強に取り組みやすい環境を整えることから始めました。勉強方法やスケジュールを母が一旦考え、娘に試してもらおう。ダメならまた次の策を考える・・・と試行錯誤の連続で、これは入試直前期まで続いていました。

- 朝学習は、シリーズ計算、漢字（3字/日）、語彙をやりました（毎朝35分ぐらい）。
- シリーズ計算はツルツルの紙に直接書くことはやりにくいとのことで、ノートに問題を切り貼りして取り組んだりもしました。途中からは時間を計り、間違えた場合はその理由も書くようにしました。本人がしっかり認識するために、白板復習時も間違えた理由を書くようにしていました。
- 漢字は白紙に大きく筆ペンで書き、とめ・はね・はらいを意識して、視覚的に覚えるようにしました。
- 白板はすべてExcelで作成し直し、ルーズリーフに印刷していました。今の白板ノートにある日付欄を10こぐらい上段に印刷し、正解は青、間違いは赤で日付を書くようにしました。このルーズリーフ方式は、まとめテスト前に1度でも間違ったことがある問題だけを集めたり、季節講習前に対象単元をまとめて復習する際に便利でした。2回目以降は裏紙に解きました。（ルーズリーフはマルマンのものがプリンターで紙詰まりを起こさずに便利です）。6年の夏期講習まで作成していました。
- 理科の予習については、テキストだけでは内容が入りにくかったため、倉橋先生（YouTube）の動画を見てからテキストの音読をするようにしていました。倉橋先生の動画は、話し口調がゆっくりで聞きやすかったです。実験動画などは入試直前も見っていました。
- 社会については、余裕のあるうちに・・・と、4年生の夏休みに歴史マンガをセット購入し、毎日1冊読む課題を与えました。娘は低学年からコナンの歴史マンガを何度も見ていたため、すでに歴史好き。喜んで毎日見ていました。また、4、5年生の連休を利用して、弾丸旅行へよく出かけました。世界遺産や歴史的建造物など、実際に見たものは印象に残ってよかったようです。
- 4年生ぐらいから、親が見ていた大河ドラマと一緒に見るようになりました。鎌倉時代や平安時代に詳しくなったのは、大河ドラマのおかげだと思っています。歴史探偵や池上彰さんの番組も好んでよく見ていました。

■4年前期

夏休み前に初めて面談をしました。保護者会で「指導員はお子様の今後の予測がだいたい分かりますので、遠慮なく聞いて下さい！」というような趣旨の話があったため、担任の柏原先生に早速聞いてみました。5年生ではおそらくAクラスになること、Aの上位にはいけるだろうとのこと、Aの上位層を目指す学校としては、吉祥女子などがあることをお聞きしました。そこから吉祥女子を中心に色々な学校を見に行きました。4年時に娘が気に入ったのは、浦和明の星（4年時の憧れ校でした）と桜蔭、富士見、あとは母の会社近くにある洗足学園でした。秋の学校祭で初めて豊島岡を訪れ、ガイド役の生徒さんがとても良い方で、また在校生に娘と似たような雰囲気を感じ、豊島岡は母のお気に入り校になりました。

■ 4年後期

小学校のテストでは満点が取れるのに、アントレのまとめテストでは点が取れない国語が悩みでした。面談で、国語はまず読めることが必要であると聞き、銀本の音読を始めました（週末だけ）。読書の方もそれまでは学習マンガが中心でしたが、そろそろ普通の本も…と思い、読み出したら止まらなくなるであろう（自身がそうだったので）ハリーポッターを一日一章、読むことを冬休みの課題にしてみました。母のねらい通り、どんどん読み進めて止まらなくなっていました。ハリポタを2、3周したところから普通の本を読むことにも抵抗がなくなり、娘が楽しめそうな本を切れ間なく用意するようになりました。一日一章の読書ペースは現在も続けていて、今では読書大好き！落ち着いたら、またハリーポッターを読み直したいそうです（いったい何周目？）

■ 5年前期（Aクラス→6月中旬以降：Sクラス）

Aクラスでスタートし、次の目標はSクラスへ上がること。まとめテストの点数だけではなく、4科のバランス、白板の正答率を上げることが当面の課題となりました。算数では予習の質を上げることを意識し、基本問題&練習問題を土曜日に一回目、日曜日に二回目と取り組み回数を増やしました。また、間違えた問題を母に解説してもらうようにもしました。A3サイズのホワイトボードを購入し、あれこれ母に説明すると、本人の頭の中も整理されるようで、理解しやすくなったとのこと。以降、間違えた問題だけではなく、頭の中を整理するため？ヒントを導き出すため？に、時々娘から「この問題解説したい！」と申し出が入り、少し解説しては、「あ、分かったかも！もういいよ！」なんてこともありました。これらの効果か？白板の正答率が徐々に上がっていき、全問正解することもありました。まとめテストの合計点で初めて一位も取れて、この調子！と思っていたところで、Sクラスへのお誘いがかかりました。目指していたSクラスですが、やっていけるのか？と、親子で一気に不安になりました。クラスアップが夏期講習前だったため、講習でSクラスの前期内容を総復讐できたことはよかったと思っています。白板はボロボロでしたけど…。

■ 5年後期

国語力の底上げを目的に、銀本の音読を朝学習の時間に取り入れました（15分）。やはり強制的に毎日取り組むには、朝学習に盛り込むのが一番です。朝の音読は6年夏まで続けました。面談では娘のまとめテスト結果（4科合計点）で豊島岡を目指しても問題がないことをお聞きし、チャレンジ校：豊島岡、適正校：吉祥女子という位置づけになっていきました。この2校は娘も気に入っていたため、学校行事があるたびに訪れていました。

- 算数の予習に時間がかりすぎる問題。何としても自力で解きたい、解説を見たくない娘はとにかく時間が足りませんでした。面談で相談し、1問15分という制限を設けて取り組むも、「あと少しで分かりそう！」と、常に時間が足りず、どうすれば上手く回るのか？あれこれ試行錯誤しているうちに5年生が終わりました。授業での白板正答率は半分を目標にしていたのですが、達成できないことが多かったです。予習にかぎらず、算数を解くときはいつも「1問15分だよ！」と入試直前期まで母の口ぐせでした。
- 国語については、5年生の冬休みから、塾技に取り組みはじめました（週末に1日2題ペース）。
- 社会で大好きな歴史が始まりました。ダンディーの話がお気に入り、帰りの車の中でよく授業の話をしてくれました。それを聞いて、母はいつも羨ましく思っていました。（母もダンディーの授業を受けてみたい・・・）。

■ 6年前期

吉祥女子のオープンキャンパスでテニス部を体験することができました。高校生の先輩がマンツーマンで教えてくれて、テニスのほかに受験のことや学校のことを話してくれ、とても楽しそうにしていました。案の定、ここからしばらくは吉祥女子が第一希望になっていました。4年生の時に見学した吉祥女子は、元気すぎて、娘には少し合わないかも…という印象でしたが、精神年齢が上がった6年生では、小学校でも様々な場面で前に出る機会が増え、生徒主体の行事が多い吉祥女子は、今の娘には合うような気がしていました。

- 武蔵算数スタート。娘に必要なかどうか？面談で相談したところ、4科のバランス的にはギリギリOK（理科が危ういけど）。算数をもう一段上に上げたければ受講した方がいいとのこと。娘も受講を望んだため、これ以上、理科の成績が下がるようであれば途中で止めよう！という条件付きでスタート。武蔵算数デーは、練馬のガストで夕食&翌日の理社テスト対策をやりました。我が家からは遠い練馬。帰宅は22時近くになりました。なぜか雨の日が多かった武蔵算数。毎週よくがんばって通ったと思います（母も・・・）。
- 中受の算数は5年生が1番大変！と聞いていたので、5年生を乗り越えたー！と安堵していたところ、とんでもない。我が家的には6年前期が1番大変でした。白板が取れず、まとめテストも平均以下にな

ることもしばしば。苦しい時期でした。

娘の難しいところは、授業で間違えた白板を2度目からは間違えないことでした。まとめテスト前までに4、5回は復習していましたが、それでもテストの点数は取れず、打開策が見つからないまま、前期が終わりました。

- GWは第一志望校の過去問指示があったため、豊島岡にチャレンジしてみました。1科目終わるごとに「難しいー!!!」という悲鳴が聞こえ、結果は4科合計110点台。合格最低点には90点ぐらい足りませんでした。この時期の過去問は点数よりも、問題把握等が目的ですが、あまりに低い点数に正直、豊島岡は厳しいのでは?と思いました。想像以上の壁の高さに娘も驚いているようでした。

■6年夏期講習

生徒面談で提示された白板正答率の目標値は50%。授業でマルが半分も取れない娘にとっては高い壁です。でも、豊島岡に合格するためには壁を越える必要があります、娘と白板復習をしっかりとやり込んで、夏期講習を受けよう!絶対に目標正答率を達成しよう!と決めました。娘は4年時から50分勉強⇒10分休憩のスタイルで学習していたため、そのサイクルで毎日のスケジュールを立てました。1時間で白板10問ペースの計画を立て、夏期講習がない日は1日中、朝からひたすら白板復習に取り組みました。夕方には「疲れた～」と言いつつも、3周目になるころには、「ようやく分かったかも!今まで何となくで解いていたけど、ちゃんと理解できたかも!」という声が聞こえるようになり、復習時に正解していても、まとめテスト前に5回ぐらい復習しても、深い理解はできていなかったのだと痛感しました。

夏期講習前のお休み期間に1周目、対象単元の授業1週間前に2周目、授業前日や当日午前中に3周目として取り組みました。同じ問題を3回取り組んでのぞんだ夏期講習、白板正答率は57.9%と目標を達成することができました。本当によくがんばっていました。しっかりとやり込めば結果がついてくる。娘にとっても良い経験になったと思います。そして改めて、娘は理解に時間がかかるタイプであること、今までまとめテスト対策や講習対策として取り組んだ白板復習が足りていなかったことを親子で認識しました。

夏期講習の最後のテストは4科合計で290点台でした。先輩方の実績と照らし合わせて、豊島岡にチャレンジできそうだと家族で決意しました。

■6年後期

豊島岡の対策プリント(算数)を朝学習で行うようにしました。

入試演習は豊島岡クラスと女子上位に参加し、過去問は9月から始めました。娘は平日に2科目ずつ、分けて過去問に取り組むと、集中できないのか?点数もあまり取れなかったため、平日の過去問はやめ、入試演習がない休日に朝から取り組みました。

入試に出るかも?言われていた本を色々読んでいきました。やはり面白い本が多いのか?このころから入試直前までに読んだ本はかなりの量でした。吉祥女子では読んだ本が出題され、喜んでいました。

■志望校選定

娘の希望は、給食がないこと、修学旅行で海外へ行かないことでした。

母は勉強面も含め、しっかり子供のことを見てもらえる学校を希望していました。また、学校訪問時に見かける在校生の中に娘のイメージを重ね、馴染めそうか?という点を母の勝手な感覚で見っていました。学食があるかどうか母には大きなポイントでした。

最初に我が家が気に入ったのは、自宅から最も近い浦和明の星でした。

最終的に第一志望となった豊島岡は通いやすい立地、しっかりと見てもらえる点、様々な経験をさせてくれる点、娘のイメージ重ねも問題なし、学食有、修学旅行は国内など、我が家の希望にぴったりでした。

吉祥女子は我が家からは少し遠いですが、海外旅行が希望制であり、部活を含めとにかく楽しい6年間で過ごせそうな感じがして気に入っていました。

淑徳与野に近いものの、海外旅行と給食が娘的には微妙なようでした。

■模試

模試はあくまでも模試。立ち位置確認、苦手分野の洗い出しが目的であると認識していたため、偏差値はあまり気にしないようにしていましたが、最後の合不合で算数の偏差値を10ぐらい落としてしまい、さすがに心配になり、柏原先生に連絡してしまいました・・・。

模試の朝は入試の練習として、計算と銀本音読(5分)を行い、持ち物も本番と同じものを使うようにしていました。後半は前日の夕食や、当日の朝食も本番に向けて、メニューを色々試しました。

- 合不合(四谷大塚)

前期から全て受け、後期は場所慣れするために、豊島岡、吉祥女子、淑徳与野で受けました。

4科偏差値は63前後で、合格率は良い時で豊島岡40%、吉祥女子80%でした。

➤ サピックス

学校別オープンを豊島岡会場で受けたかったため、午前中に学校別オープン、午後に合格力判定を受けました。過去問をやっていたおかげか？学校別オープンで豊島岡の合格率が70%でした。

■個別（理科のみ）

面談時、「豊島岡の対策プリント（理科）を1人でやって時間がかかるなら・・・」と勧められ、後期から個別をお願いしました。吉祥女子出身の三浦先生に見てもらうことになり、話しやすく、面白く、楽しそうでした。申し込みが遅かったため、日曜日の夕方しか空き枠がなく、最初は遅い時間帯に迷いましたが、1日の勉強が終わった最後の時間に個別をお願いできたのは、勉強スケジュールが組みやすく、結果的には良かったです。また、先生ご自身の受験話をお聞きすることができ、最後まで前向きで、あきらめなかった先生の姿勢は、我が家にとっても大きな影響を与えてくれました。直前期に過去問が取れなくても、最後まであきらめずに前向きでいられたのは、三浦先生の受験話のおかげです。

■過去問

4年時より、気になる学校はHPから毎年、過去問をダウンロードするようにしていました。

吉祥女子と浦和明の星は秋の説明会で本物の入試問題をいただけるので、毎年参加するようにしていました。自宅で過去問に取り組む際は、小冊子の形式で印刷していました。

- 豊島岡 19回分（国語のみ＋5回分）
- 吉祥女子 8回分
- 浦和明の星 5回分（国語のみ＋5回分）
- 淑徳与野 3回分（医進1回、4科1回、算理1回）

■出願

願掛けの意味も込めて開始時間すぐに出願しました。おかげでどの学校も50番以内の受験番号を取得することができ、試験後はほぼ1番最初のグループで出てきたため、すぐに帰宅することができました。受験番号が一覧で表示される豊島岡の合格発表でも見つけやすくて良かったです。

■1月前半

➤ 淑徳与野対策

合格するために必要なことを自分で考えて取り組んでもらいました。

声教の過去問にある出題リストを確認し、4まと、夏期／冬期白板をやり込んでいました。

➤ 浦和明の星対策

明の星は国語の文章が長いため、年始～直前まで毎日、過去問（国語）を解くようにしました。

算数は速さや平面図形を見直す程度、社会の時事問題もやり込んでいました。

■1月中旬以降（豊島岡対策が中心）

午前中は国語（豊島岡の過去問）と算数、午後は理社というスタイルでした。

娘には豊島岡合格に必要なことは何か？を意識して取り組もう！と伝えていました。

➤ 算数

何か少しでも傾向をつかめればと思い、1度解いた過去問を年度や回数に関係なく、大問1・2、速さ、平面図形、立体図形をそれぞれ集め、単元別に一気に解いてみました。また同単元の夏期白板も復習しました。その効果なのか？最後の入試演習（豊島岡回）で89点を取れたため、算数はもう大丈夫だと判断し、最後の1週間は算数の感覚を鈍らせないことを目的に、対策プリントの立体図形と速さをそれぞれ毎日1題ずつと、1月授業の白板復習をやりました。

➤ 国語

天野先生にも親身に相談にのっていただいたこともありましたが、娘は豊島岡の選択肢問題がなかなか取れませんでした。2択まで絞り込めるも、最後の1択で間違えることが多く、1問5点の選択肢であと2、3問正解できれば。合格最低点を越えることができるため、埼玉受験後は毎日、豊島岡の国語をやりました。入試数日前によりやく選択肢の正答率が上がってきました。

➤ 理科

対策プリントの復習、コアプラスを中心に取り組み、過去問で間違えた問題の解き直しも行いました。

➤ 社会

最後の1週間で『てつおう先生の年号ソング（YouTube）』を食事時に見まくり、年代の並び替え対策をしていました（歴史の流れはだいたい理解していたものの、年号は覚えていなかったようです）。

また、夏期テキストを漢字で書き出すこと、過去問で間違えた問題の解き直しも行いました。地理と公民を中心にコアプラスもやっていました。

■入試当日

当日はどの学校も開門時間の少し前に到着するようにしていました。

朝は早かったですが、早すぎるぐらいの行動で余裕を持ててよかったと思っています。

入試前日に各学校の各教科別に気を付ける点を娘にヒアリングし、それを当日の休憩時間に見るメモとして持たせました（各教科2、3点の注意事項が書かれているメモです）。

■1月入試

➤ 淑徳与野（医進） 第四志望 *合格*

栄東と迷いましたが、負担の少ない2科目&午後受験の淑徳与野（医進）に決めました。

不合格だったことも考え、4科目受験の方も出願しておきました。

娘にとって淑徳与野は時間配分が難しかったようで、過去問でも最低点を少ししか越えていませんでした。本番でも時間配分で失敗したと言っていたため心配しましたが、無事に合格することができ、心底ほっとしました（点数を見ると、合格最低点ぴったりで驚きました）。

➤ 浦和明の星 第三志望 *合格*

開門前に到着し、受験生は昇降口の前に整列して7：30を待ちました。

明の星については過去問で点数も取れていて、娘も明の星の国語は抜き出しが多くて好き！と言っていたので、あまり心配はしていませんでしたが、終わってみれば算数と理科が難しかったとのこと。

娘は大丈夫！と言っていました、合格を確認するまではやはり心配。

こちらも無事に合格でき、ほっとしました。

■2月入試

本番2日前にやりすぎ注意、疲れた脳では考えられなくなるから、頭の疲れを取ることも大切だよということをお話しましたが、吉祥女子の試験終了後、「昨日やり過ぎたかも・・・（頭が回らなかった）」と言ったため、帰宅後は本当に軽めの確認のみとし、20時には就寝。頭をリフレッシュさせることを優先しました。

➤ 吉祥女子 第二志望 *合格*

開門時刻に到着しました。吉祥女子も過去問で点数が取れていたため、あまり心配はしていませんでした。合格発表は当日夜でしたが、翌日の豊島岡に備えて早めに就寝することを優先し、結果は翌朝確認しました。こちらも無事に合格できてほっとしました。

➤ 豊島岡 第一志望 *合格*

7時の開門に間に合うように6：50ごろ到着。開門前にもかかわらず、校長先生をはじめとする豊島岡の先生方が待っていてくれ、寒くないよう、受験生を学校内で待たせてくれました。

この日は7時前なのでズーム応援は受けませんでしたが、このような場合、事前に伝えておけば対応していただけるそうです（あとで柏原先生より教えていただきました）。

試験後は国語と算数で150%の力を出し切ったー！理社がボロボロだー！と言っていました。

国語の試験開始時、勢い余ってえんぴつを吹っ飛ばしてしまったとのこと。気合いが入りすぎていた？豊島岡の合格発表は当日の19時です。翌日に備えて早めの夕飯を取りながら発表時間を待ちました。娘はとにかく時間が気になるようで、食べながら何度も時計を見ていました（母はその姿を見ながら、落ちていた場合、どうやって気持ちを切り替えさせようか・・・と考えていました）。

19時になり、まずは自分だけで確認をしたいから、二人（父母）は目を閉じていて！と言われ、目を閉じて待っていると、『あった・・・』と。そこからは家族で画面を見て大喜び。娘は張りつめていた糸が切れたのか？しばらく大泣き。30分ほど泣き続け、落ち着いたところでアントレへ連絡。ようやく柏原先生に吉祥女子と豊島岡の合格を報告することができました。

翌日は豊島岡受験に向けて父母とも仕事を休んでいたため、家族で合格証書を取りに行きました。校長先生から『合格おめでとうございます』と言ってもらえ、本当に合格したのだと実感しました。

豊島岡は娘にとってはかなりのチャレンジ校でした。偏差値も届いておらず、過去問の最低点を越えたのも2回だけでした（しかも数点）。入試演習（豊島岡クラス）も合格/補欠よりも不合格の方が多いうらいます。娘の心の支えは生徒面談時に柏原先生が書いてくれた「豊島岡合格の可能性は十分ある！」というメモ。母は豊島岡オープンで出た合格率70%を心の支えにし、3回受験して、どこかで引っかかってくれれば・・・と祈りながらのチャレンジでしたが、まさかの1回目合格。

最後に算数が取れるようになってきたこと、直前期に毎日国語の過去問をやり、選択肢が取れるようになってきたことが良い結果につながったかもしれません。また、豊島岡の入試（算数）では、最初に分かる問題から解いていき、次に分からない問題に取り掛かろうとしたところ、突然、分かるようになった！と娘が言っているので、試験中も学力が伸びてくれたのかも！？

終わってみれば、4戦4勝と予想以上の好結果。3年間本当によくがんばり続けたと思います。

コツコツあきらめずに努力し続けること、それができる娘には豊島岡はぴったりな学校だと思います。

思えば母が中学受験を意識し始めたのも、豊島岡の高校募集停止のニュースがきっかけでした。ご縁があった学校なのかもしれません。

これを書いている日には豊島岡の合格者ガイダンスがありました。校長先生より、『豊島岡生になるんだという自覚、覚悟を持っていただくために来ていただきました』というお話があり、身が引き締まる思いでした。その後、入学式までに取り組む課題も出て、さすが豊島岡とも思いました。勉強の計画の立て方、授業の予習・復習の方法も学校で教えますと説明があり、改めて、この学校に任せて大丈夫だと思いました。

お世話になったアントレの先生方、アントレで一緒に楽しく切磋琢磨した仲間たち、娘の受験は色々な人に支えていただきました。そのことを忘れずに、皆に感謝して、憧れの豊島岡で積極的に色々なことにチャレンジ&体験し、自身の将来をじっくり考えてほしいと思っています。また、アントレで身につけた予習復習スタイルで、これからもコツコツ努力を積み重ねていってほしいとも思っています。

最後に、娘はアントレでなければここまで伸びなかったと思います。大手塾を選んでいたら、中学受験を途中でやめていたかもしれません。アントレで過ごした3年間は娘にとってとても充実した日々でした。「中学受験をしてよかった！」と娘から聞いたことは、アントレのおかげです。

柏原先生をはじめ、アントレの先生方、3年間本当にお世話になりました。これからもお体に気をつけて、アントレ好きな子供たちを楽しく支えてください。応援しています！ありがとうございました。